

愛知県美術館年報

目次

はじめに	7
基本理念と事業概要	8
沿革	10
主要歳事	11
所蔵作品	12
収集方針・収集状況	12
新収蔵作品	13
保存・修復	21
貸出	22
展示・展覧会	27
所蔵作品展	27
小企画展（テーマ展示）	39
企画展	44
企画展観覧者数統計	59
移動美術館	60
教育普及	62
調査研究	69
ギャラリー（貸館）	71
利用統計	71
利用者一覧	72
施設概要（展示・保存環境等）	74
関係法規（条例・規則等）	76
組織および職員構成	82
関係委員会名簿	83
開館時間・交通等案内	84

はじめに —活動の概要—

Foreward

愛知県美術館の1996年度の年報を発行いたします。例年どおり本年度の当館の活動のあらましを記します。

まず美術作品の収集については、特に村上華岳《散華》(1939年)、アメデオ・モディリアーニ《カリアティード》(1911—13年)、ハンス・アルプ《森》(1917年頃)、ジョージア・オキーフ《抽象 第6番》(1928年)、モーリス・ルイス《デルタ・ムー》(1960—61年)について触れておきたいと思います。《散華》は華岳の最晩年の菩薩像で、亡くなった年の作品にもかかわらず充実した力のこもる優品です。《カリアティード》はモディリアーニの建築的彫刻への関心と未開芸術からの感化を明瞭に示す貴重な作例であり、《森》はアルプの芸術を特徴づける“生命体的フォルム”のあらわれた最も早い作例のひとつです。アメリカの有名な写真家アルフレッド・スティーグリッツの夫人ジョージア・オキーフは自身もアメリカ抽象絵画の先駆者としてよく知られていますが、《抽象 第6番》は彼女の力量を見事に示したもので、《デルタ・ムー》はアメリカ現代絵画の代表作家のひとりモーリス・ルイスの色彩によって壮大な空間を表わす作品です。

所蔵作品展は、20世紀美術の展開を理解していただき、かつ当館が所蔵する優れた作品をできるだけ数多く見ていただけるよう、年間四期に分けて展示替えを行っています。また会場の一部を使って小企画展(テーマ展示)も催しており、本年度は7月から9月にかけて「アンドリュー・ワイエスの世界」と「デイヴィッド・スミス版画展」、9月から11月にかけて「千崎千恵夫展」を、11月から12月にかけて新発見の作品による「藤井達吉展」を行いました。

本年度の企画展は、まず4月からの国立西洋美術館との共同企画「大英博物館所蔵イタリア素描展」から始まり、第二次世界大戦以後国際的に大きな反響を呼んだアメリカ現代絵画に焦点を当てた「抽象表現主義展」、最後の文人画家というべき富岡鉄斎の粒選りの作品による展覧会、メキシコで画風を確立し帰国後長く瀬戸に住んで制作を続けた北川民次の回顧展に続き、「カンディンスキー&ムンター 愛と創造の日々」展で終わりました。

教育普及活動としては、上記の企画展に関連した講演会や連続講座、あるいは小・中・高校生を対象とする鑑賞会を催す他、三年目となる当館所蔵作品による移動美術館を6月に渥美町郷土資料館で開催し、26日間で5,414人の方々にご覧いただきました。友の会の活動も三年目に入り、企画展ごとの鑑賞会は相変わらず好評を博しています。また会員相互と会員と美術館を結ぶ会報『空中回廊』の第3号、第4号が刊行されました。

8階ギャラリーの利用率は例年同様各展示室とも年間100%、多数のお申し込みをいただきながら、やむを得ずお断りせざるを得ないところもありました。

最後に、本年度においても実に多くの方々や関係機関のご協力とご支援をいただきました。ここに感謝の意を表しますとともに、今後とも当館の活動へのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1997年12月

愛知県美術館長
浅 野 徹

基本理念と事業概要

Principles and Activities

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

●基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化にこたえていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

●基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と連係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 国際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がり多様性のある展示等を柔軟に展開する。

●事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

(ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品

(イ) 現在を刻印するにふさわしい作品

(ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品

(エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料

※収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えて

いくために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に修復室などの設備が設けられており、保存・修復を研究の専門領域とする学芸スタッフが配属されている。また、企画展等での借用作品や収集候補作品などの保存状態把握と適切な環境整備にも努め、5階に収蔵庫と同仕様の企画保管庫も設けている。

イ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示

展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示

展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示

展示室7 近現代日本画の展示

展示室8 20世紀版画・素描の展示

屋外展示スペース 屋外での展示が効果的な大型彫刻・立体の展示

※展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品をふさわしい条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4～6回の展示替えを行っている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展覧会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

(ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展

(イ) 世界の現代美術を紹介する国際展

(ウ) 時代・地域に限定されない国際展

(エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展

(オ) 現代日本美術に関するテーマ展、個展

(カ) 愛知県、東海地域に関する美術展

(キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョン／NTSC兼用プロジェクタ

ー2台に所蔵作品や企画展などに関する自主制作ビデオソフト、および美術史一般に関する既成ソフトを放映し、作品鑑賞の手引きとしている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品のうち約250点を、精細な静止画像と文字情報を組み合わせて紹介している。

(イ) 移動美術館

美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1回、所蔵作品の公開とこれに関連する講座・講演等を行っている。

(ウ) 講座・講演会

12階のアートのスペースにおいて、外部講師または当館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

(エ) ギャラリートーク

企画展開催中、担当学芸員によるギャラリートーク（展示室での解説）を行っている。

(オ) 子供鑑賞会

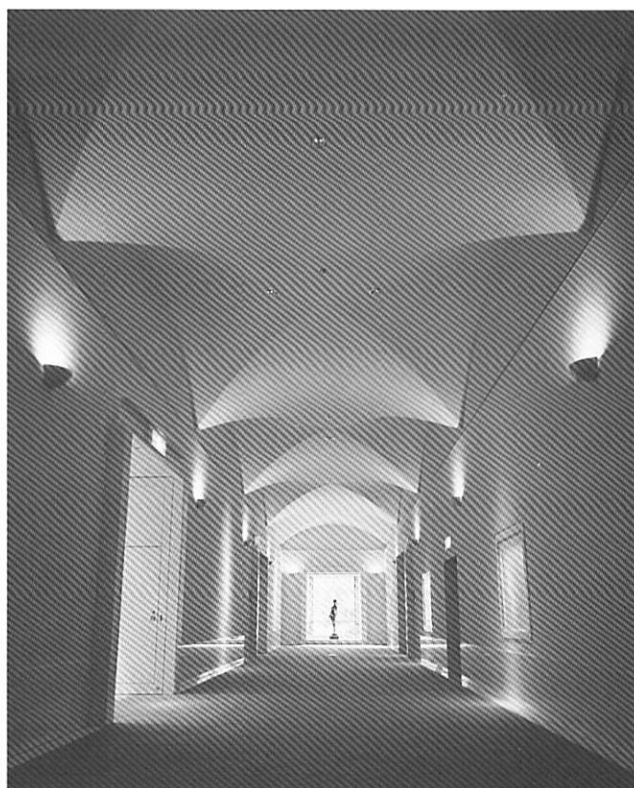
小中学生を対象に所蔵作品についてのワークシートを作成し、それを用いた鑑賞会等を行っている。

オ 調査研究

作品収集や企画展開催の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



美術館前室（10F）



美術館ギャラリーロビー（8F）

愛知県文化会館美術館	愛知芸術文化センター愛知県美術館
1952年 4 月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置 10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始 1953年 2 月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表 6 月 基本設計着手 1954年 2 月 美術館建設着工 1955年 1 月 美術館建設竣工 2 月 美術館開館 4 月 『愛知県文化会館美術館ニュース 窓口』創刊 5 月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品を受贈 1957年 10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催 1959年 4 月 プールデル作《アルヴァール將軍の記念碑》のための4体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入 1967年 7 月 最初の所蔵品展開催 1971年 3 月 『美術館所蔵品目録』発行 1975年 5 月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名作展」開催 1979年 4 月 常設展示室開設 1985年 9 月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たちー愛知県美術館30年のあゆみ展」開催 1992年 2 月 常設展入場者数40万人達成 3 月 常設展示室閉室 10月 閉館	1983年 4 月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務局に指示した旨、発表 7 月 新文化会館(仮称)構想懇談会設置 1985年 3 月 建設基金条例設定 「新文化会館基本構想」提言 4 月 新文化会館建設事務局設置 7 月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置 1986年 8 月 栄地区施設公開設計競技開始 11月 美術品収集計画研究会設置 1987年 5 月 栄地区施設最優秀作品発表 12月 栄地区施設基本設計終了 1988年 4 月 美術品等取得基金設置 6 月 美術品収集委員会設置 11月 栄地区施設実施設計終了 1989年 3 月 栄地区施設起工式 10月 「新収蔵作品展」開催 1991年 4 月 文化振興局設置 11月 第2回「新収蔵作品展」開催 1992年 4 月 愛知県美術館準備室開設 6 月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置 栄地区施設竣工 10月 美術館開館 開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催 『美術館所蔵作品選』発行 1993年 1 月 開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会いと対話」開催 2 月 開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催 3 月 『美術館所蔵作品目録』発行 5 月 第42回全国美術館会議総会開催会場 10月 センター開館1周年記念事業として「リール市美術館所蔵 パロック・ロココの絵画」展及び連続美術講座6回「パロック・ロココの芸術空間」開催 1994年 9 月 愛知県美術館友の会設立発起人会開催 10月 移動美術展「20世紀の美術」(開館後第1回)開催 友の会設立及び第1回鑑賞会(聖なるかたち展)開催 1995年 5 月 友の会 第1回総会

主要歳事

Events

1996年 4 月19日	—	5 月26日	第 1 期所蔵作品展
4 月19日	—	5 月26日	企画展「大英博物館所蔵イタリア素描展」
4 月25日			友の会総会、「イタリア素描展」鑑賞会（各企画展ごとに開催）
4 月26日			第 1 回収集委員会
5 月15日			美術館運営会議
5 月27日	—	7 月25日	展示室補修及び床アンカー設置工事のため10階展示室を閉室
6 月 1 日	—	30日	移動美術館「愛知県美術館所蔵 20世紀の美術」
			渥美町郷土資料館
7 月18日			第 1 回ギャラリー運営会議
7 月18日	—	7 月20日	博物館実習
24日	—	26日	〃
7 月21日	—	24日	収蔵庫 2、3 煙蒸
7 月26日	—	9 月23日	第 2 期所蔵作品展（前期）
			テーマ展示「アンドリュウ・ワイエスの世界」
			小企画展「デイヴィッド・スミス版画展」
7 月26日	—	9 月16日	企画展「抽象表現主義展—アメリカ現代絵画の黄金期—」
9 月27日	—	11月10日	第 2 期所蔵作品展（後期）
			小企画展「千崎千恵夫」
9 月27日	—	11月10日	企画展「富岡鉄斎展—理想郷を語る—」
10月16日			第 2 回収集委員会
11月22日	—	1997年 1 月26日	第 3 期所蔵作品展
11月22日	—	96年12月27日	小企画展「藤井達吉」
11月22日	—	1997年 1 月26日	企画展「北川民次展—愛と人間をえがく—」
11月26日			愛知芸術文化センター消防訓練
1997年 1 月11日			友の会美術講座「高橋由一《不忍池》—幕末から明治へ—」
1 月23日			第 2 回ギャラリー運営会議
2 月 8 日	—	3 月23日	第 4 期所蔵作品展
2 月 8 日	—	3 月16日	企画展「カンディンスキー&ミュンター 愛と創造の日々」

所蔵作品

Collections

収集方針・収集状況 Discipline and Statistics

1 収集方針

- ・ 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- ・ 現在を刻印するにふさわしい作品
- ・ 愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- ・ 上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

2 収集委員会の開催

- 1996年度は収集委員会を2回開催し、40点の作品を購入し、2点の作品の寄贈を受けた。
- ・ 第1回収集委員会 1996年4月26日
 - ・ 第2回収集委員会 1996年10月16日

3 収集の状況

- ・ 本年度までの収集の状況は次のとおりである。

美術品等収集状況

	95年度までの収集				96年度収集			96年度までの総計		
	愛知県文化会館美術館の収集	新美術館準備のための収集	開館後の収集	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
〈国内〉										
日本画(JJ)	149	45	5	199	3	0	3	132	70	202
洋画(JO)	378	59	24	461	6	1	7	384	84	468
水彩・素描(JD)	309	134	11	454	1	0	1	376	79	455
立体(JS)	23	38	11	72	0	0	0	68	4	72
版画(JP)	101	207	6	314	20	0	20	297	37	334
資料	4	1	1	6	0	0	0	0	6	6
工芸その他	70	0	0	70	0	0	0	39	31	70
小計	1034	484	58	1576	30	1	31	1296	311	1607
〈海外〉										
絵画(FO)	15	24	6	45	3	0	3	44	4	48
水彩・素描(FD)	0	4	3	7	0	0	0	7	0	7
立体(FS)	6	13	5	24	3	0	3	25	2	27
版画(FP)	1	65	3	69	2	1	3	71	1	72
インスタレーション(FI)	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2
資料		1	1	2	0	0	0	1	1	2
小計	22	107	18	147	10	1	11	150	8	158
合計	1056	591	76	1723	40	2	42	1446	319	1765
藤井達吉コレクション	1460	—	—	—	—	—	—	—	1460	1460
総計	2516	591	76	3183						3225

表注記
愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において1987年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集は、1993年度以降の収集である。なお、藤井達吉コレクションとは、愛知県文化開館美術館開館時（1955年）に藤井達吉氏より寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料を指す。

1996年度新収蔵作品

New Acquisitions

〔凡例〕

・各作品は、JJ (日本画)、JO (洋画)、JP (日本の版画)、JD (日本の水彩・素描)、FO (海外の絵画)、FS (海外の立体)、FP (海外の版画)、FI (海外のインステレーション)、FM (海外の資料) に分けられたうえで、作家姓の五十音順 (日本の作品) ないしはアルファベット順 (海外の作品) に配列され、同一作家による複数の作品については、制作年、次いで作品名の五十音ないしはアルファベットの順もしくはカタログ・レゾネの番号順に配されている。

・各作品に係る収蔵事項は以下の通り：

作家名 生歿年
作品名
制作年 技法・材質 寸法 (タテ×ヨコ (×奥行き))
署名、年記
版画の摺番号、もしくは立体の鋳造番号
初出の展覧会
収蔵種別 (購入、寄贈等) 所蔵番号

国内作家 Domestic Artists

〈日本画〉/ Japanese-style painting

岡村桂三郎 1958—

白虎

1992年 岩絵具、麻布、板
197×242cm
現代絵画の一断面—「日本画」を越えて—、東京都美術館、1993年、no.26
購入 96-JJ-001

OKAMURA, Keizaburo
Baihu (White Tiger)
1992 colored on canvas on burned panel 197×242cm
Beyond the "Nihonga"—An Aspect of Contemporary Japanese Painting, Tokyo
Metropolitan Art Museum, 1993, no.26
Purchased 96-JJ-001

岡村桂三郎 1958—

朱雀

1993年 岩絵具、麻布、板
197×242cm
現代絵画の一断面—「日本画」を越えて—、東京都美術館、1993年、no.27
購入 96-JJ-002

OKAMURA, Keizaburo
Zhugiao (Red Bird)
1992 colored on canvas on burned panel 197×242cm
Beyond the "Nihonga"—An Aspect of Contemporary Japanese Painting, Tokyo
Metropolitan Art Museum, 1993, no.27
Purchased 96-JJ-002

村上華岳 1888—1939

散華

1939年 紙本墨画
68.1×32.3cm
右下に落款：華岳畫；同印章「華岳」(朱文方印)
昭華会新作日本画展、日本橋高島屋、1939年
購入 96-JJ-003

MURAKAMI, Kagaku
Buddist Rite of Scattering Flowers
1939 colored on paper 68.1×32.3cm
signed and sealed lower right
Shoka-kai Shinsaku Nihongaten, Nihonbashi-Takashimaya, 1939
Purchased 96-JJ-003



〈洋画〉/ Western-style painting

池田龍雄 1928—

黒い機械

1956年 油彩、麻布
162.1×130.3cm
下辺中央に署名、年記：1956/Ikeda
芥川紗織・池田龍雄・河原温・吉仲太造四人展、村松画廊、1956年
購入 96-JO-001

IKEDA, Tatsuo
Black Machine
1956 oil on canvas 162.1×130.3cm
signed and dated lower center:
1956/Ikeda
Four Artists: AKUTAGAWA Saori,
IKEDA Tatsuo, KAWARA On,
YOSHINAKA Taizo,
Muramatsu Garo, 1956
Purchased 96-JO-001

今村幸生 1935—

Ténèbres des MUMUYE

1995年 油彩、麻布
300×200cm
フレームレス'95、三重県総合文化センター、1995年
作者寄贈 96-JO-002

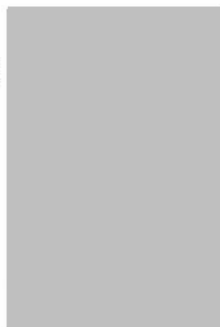
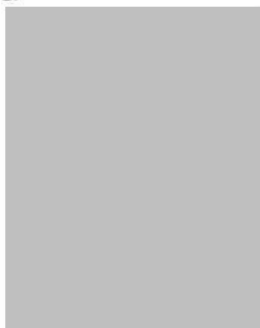
IMAMURA, Yukio
Ténèbres des MUMUYE
1995 oil on canvas 300×200cm
Frameless '95, Mie Prefectural Culture Center, 1995
Gift of the artist 96-JO-002

笠井誠一 1932—

ウクレレと冬瓜とグロ
リオサのある卓上静物

1995年 油彩、麻布
65.4×100cm
左下に署名：S.KASAI.
第47回立軌会展、1995年
購入 96-JO-003

KASAI, Seiichi
Still Life with Ukulele, Wax Gourd and Gloriosa
1995 oil on canvas 65.4×100cm
signed lower left: S.KASAI.
47th Rikki-kai, 1995
Purchased 96-JO-003

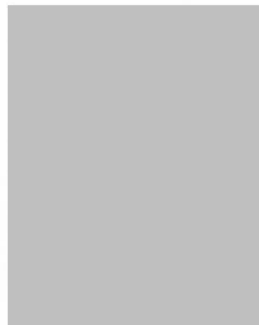


木下孝則 1894—1973

読書

1931年 油彩、麻布
90 × 71 cm
右下に署名:T.Kinoshita
第24回サロン・ドートンヌ、1931年
購入 96-JO-004

KINOSHITA, Takanori
Reading
1931 oil on canvas 90 × 71 cm
24th Salon d'Automne, 1931
Purchased 96-JO-004

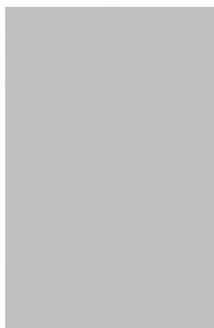


田淵安一 1921—

有機的表象

1955年 油彩、麻布
92 × 60 cm
右下に署名、年記:Yasse Tabuchi/55
購入 96-JO-005

TABUCHI, Yasukazu
Organic Symbol
1955 oil on canvas 92 × 60 cm
signed and dated lower right:
Yasse Tabuchi/ 55
Purchased 96-JO-005



田淵安一 1921—

廷女たち

1964年 油彩、麻布
130 × 162 cm
右下に署名、年記:Tabuchi/64
購入 96-JO-006

TABUCHI, Yasukazu
Female Sergeants
1964 oil on canvas 130 × 162 cm
signed and dated lower right:
Tabuchi/ 64
Purchased 96-JO-006



森真吾 1937—

さいろの角

1964年 油彩、麻布
162.1 × 131.3 cm
第19回行動展、1964年
購入 96-JO-007

MORI, Shingo
Yellow Horn
1964 oil on canvas 162.1 × 131.3 cm
19th Kodo-ten, 1964
Purchased 96-JO-007



〈水彩・素描／Drawing〉

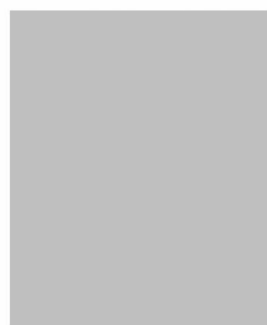
安斎重男 1939—

The 10th Tokyo Biennale,
Tokyo Metropolitan Museum,
May 1970

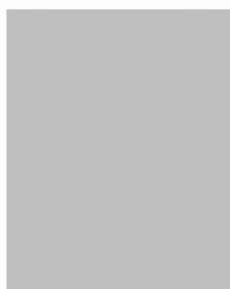
写真コラージュ、紙
1993年
購入 96-JD-001

ANZAI, Shigeo
The 10th Tokyo Biennale, Tokyo
Metropolitan Museum, May 1970
Photo Collage on paper
1993
Purchased 96-JD-001

- | | | | |
|---------------------|-----------|----------|-----------------|
| 1 Richard Serra | 40.0×33.3 | 1996年再制作 | reproduced 1996 |
| 2 Reiner Ruthenbeck | 39.0×33.6 | | |
| 3 Mario Merz | 33.5×40.8 | | |
| 4 Jannis Kounellis | 33.5×38.5 | | |
| 5 Giuseppe Penone | 36.6×34.7 | 1996年再制作 | reproduced 1996 |
| 6 Daniel Buren #1 | 36.5×34.5 | 1996年再制作 | reproduced 1996 |
| 7 Daniel Buren #2 | 39.5×33.8 | | |
| 8 Daniel Buren #3 | 34.7×40.0 | | |
| 9 Klaus Rinke #1 | 35.0×34.2 | | |
| 10 Klaus Rinke #2 | 39.5×33.3 | | |
| 11 Klaus Rinke #3 | 40.0×33.5 | | |
| 12 Christo #1 | 39.0×33.8 | 1996年再制作 | reproduced 1996 |
| 13 Christo #2 | 34.5×39.3 | | |
| 14 Christo #3 | 40.0×33.5 | | |
| 15 Sol Lewitt | 36.3×38.5 | | |



1



2



3



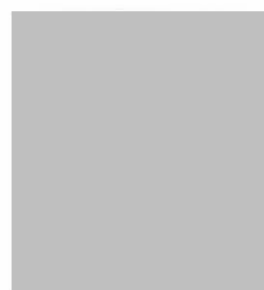
4



5



6

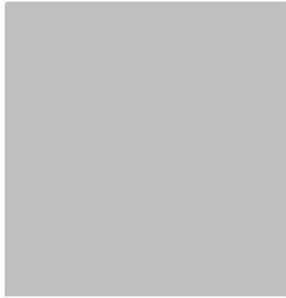


7

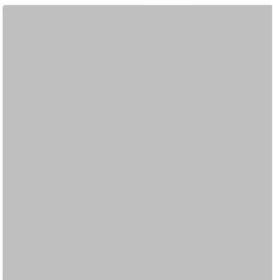
〈版画／Print〉



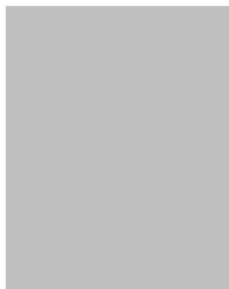
8



9



10



11



12



13



14

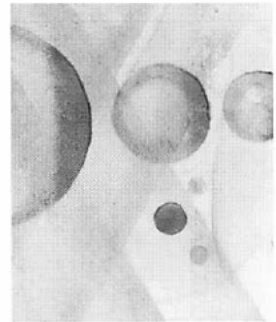


15

恩地孝四郎 1891-1955
リリックNo.2：楽曲に
よせる抒情、山田耕作
“おやすみなさい”

1934年 木版 23.5 × 19.8 cm
ed. 7/10
購入 96-JP-001

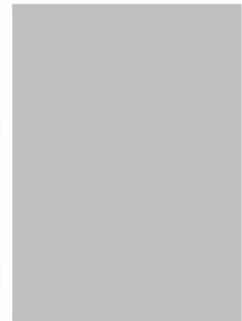
ONCHI, Koshiro
Lyric No.2: Lyric on Musical
Themes, Kosaku Yamada "Good
Night"
1934 woodcut 23.5 × 19.8 cm
ed. 7/10
Purchased 96-JP-001



永瀬義郎 1891-1978
馬來美人図

1930年 木版 31 × 22.3 cm
右下に署名:y.Nagase;左下に年記
等:mai 1930 Paris
購入 96-JP-002

NAGASE, Yoshiro
A Malay Belle
1930 woodcut 31 × 22.3 cm
signed lower right: y.Nagase; dated
lower left: mai 1930 Paris
Purchased 96-JP-002



長谷川潔 1891-1980
プロヴァンスの古市
(グラス)

1925年 メゾチント 20 × 28 cm
右下:ép. d'artiste;同左下に署名、年
記:1925. Kiyoshi Hasegawa;同左下
隅:"Site provençal" manière noire
1925;同下辺中央:"グラス風景"
(マニエールノワール)
ed. AP
購入 96-JP-003

HASEGAWA, Kiyoshi
Landscape at Provence
1925 mezzotint 20 × 28 cm
signed and dated lower left: 1925.
Kiyoshi Hasegawa; inscribed lower
right: ép. d'artiste; bottom left:
"Site provençal" manière noire 1925
; lower center: [inscribed in Japan-
ese]
ed. AP
Purchased 96-JP-003



長谷川潔 1891-1980
サン・ポール・ド・ヴァン
スの村

1929年 メゾチント
14.3 × 18.3 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa; 同左
下: ép.d'artiste; 同左下隅: Village de
St-Paul de Vence (manière noire) 1929
ed. AP
購入 96-JP-004

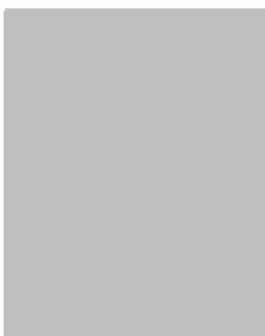
HASEGAWA, Kiyoshi
Village at St-Paul de Vence
1929 mezzotint 14.3 × 18.3 cm
signed lower left: Kiyoshi Hasegawa;
inscribed lower left: ép.d'artiste; bot-
tom left: Village de St-Paul de Vence
(manière noire)
1929
ed. AP
Purchased 96-JP-004



長谷川潔 1891-1980
野の枯草

1931年 ドライポイント
25 × 19.6 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa.; 左
下: 27/35
ed. 27/35
購入 96-JP-007

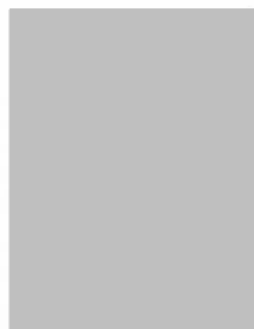
HASEGAWA, Kiyoshi
Withered Grasses
1931 drypoint 25 × 19.6 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa.; inscribed lower left:
27/35
ed. 27/35
Purchased 96-JP-007



長谷川潔 1891-1980
アネモネ

1930年 ドライポイント
23.9 × 18.7 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa.; 同
左下: 30/35
ed. 30/35
購入 96-JP-005

HASEGAWA, Kiyoshi
Anemone
1930 drypoint 23.9 × 18.7 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa.; inscribed lower left:
30/35
ed. 30/35
Purchased 96-JP-005



長谷川潔 1891-1980
コクリコと野花(B)

1932年 ドライポイント
24.5 × 19.5 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa.; 左
下: 8/35; 右下隅: Coquelicots
ed. 8/35
購入 96-JP-008

HASEGAWA, Kiyoshi
Coquelicots and Field Flowers
1932 drypoint 24.5 × 19.5 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa.; inscribed lower left:
8/35; bottom right:
Coquelicots
ed. 8/35
Purchased 96-JP-008



長谷川潔 1891-1980
摩天楼上空のポアン・ダ
ンテロガシオン号

1930年 メゾチント
18.5 × 28.9 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa.; 左
下: ép.d'artiste; 左下隅: 1930
(manière noire)
ed. AP
購入 96-JP-006

HASEGAWA, Kiyoshi
Point d'interrogation over New York
1930 mezzotint 18.5 × 28.9 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa.; inscribed lower left:
ép.d'artiste; bottom
left: 1930 (manière noire)
ed. AP
Purchased 96-JP-006



長谷川潔 1891-1980
オレンジと葡萄

1932年 メゾチント
16.4 × 29.4 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa.; 左
下: 24/35; 左下隅: "Oranges et
raisins" (manière noire) 1932; 下辺
中央: "オレンジと葡萄"
ed. 24/35
購入 96-JP-009

HASEGAWA, Kiyoshi
Oranges and Grapes
1932 mezzotint 16.4 × 29.4 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa.; inscribed lower left:
24/35; bottom left:
"Oranges et raisins" (manière noire)
1932; lower center: [inscribed in
Japanese]
ed. 24/35
Purchased 96-JP-009



長谷川潔 1891-1980
シャトー・アルヌーの寺院

1932年 メゾチント
16.4 × 29.6 cm
画面右下に署名:Kiyoshi Hasegawa;
左下:1/35
ed. 1/35
購入 96-JP-010

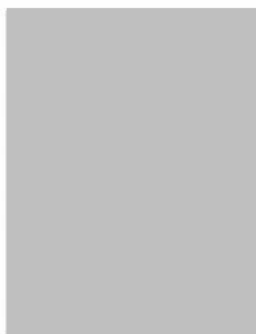
HASEGAWA, Kiyoshi
Church of Château Arnoux
1932 mezzotint 16.4 × 29.6 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
1/35
ed. 1/35
Purchased 96-JP-010



長谷川潔 1891-1980
三つのアネモネ

1937年 メゾチント
25.9 × 20.3 cm
右下に署名:Kiyoshi Hasegawa;
左下:ép.d'artiste
ed. AP
購入 96-JP-014

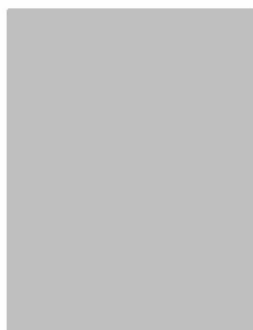
HASEGAWA, Kiyoshi
Three Anemones
1937 mezzotint 25.9 × 20.3 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
ép.d'artiste
ed. AP
Purchased 96-JP-014



長谷川潔 1891-1980
二つのアネモネ

1934年 アクアチント
24.3 × 19.2 cm
右下に署名:Kiyoshi Hasegawa
購入 96-JP-011

HASEGAWA, Kiyoshi
Two Anemones
1934 aquatint 24.3 × 19.2 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa
Purchased 96-JP-011



長谷川潔 1891-1980
一樹（ニレの樹）

1941年 ドライポイント
28.6 × 21.5 cm
画面右下に摺込:K.HASEGAWA;右
下に署名:Kiyoshi Hasegawa;左下:
48/50;左下隅:
"Un arbre" (pointe Sèche) 1941
ed. 48/50
購入 96-JP-015

HASEGAWA, Kiyoshi
A Tree
1941 drypoint 28.6 × 21.5 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
48/50; bottom left:
"Un arbre" (pointe Sèche) 1941
ed. 48/50
Purchased 96-JP-015



長谷川潔 1891-1980
コップのダリア

1935年 メゾチント
24.3 × 19 cm
右下に署名:Kiyoshi Hasegawa
購入 96-JP-012

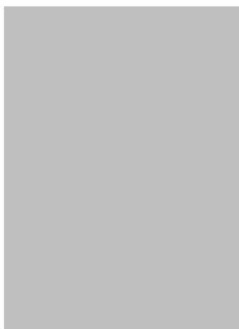
HASEGAWA, Kiyoshi
Dahlias in a Glass
1935 mezzotint 24.3 × 19 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa
Purchased 96-JP-012



長谷川潔 1891-1980
花（切子グラスに挿した
アネモネと草花）

1944-'45年 アクアチント
25.7 × 19 cm
画面右下に摺込:K.Hasegawa;右下
に署名:Kiyoshi Hasegawa;左下:
ép.d'artiste;左下隅:"anémones dans
un verre à facettes" (aquatinte) 1944.
France.
ed. AP
購入 96-JP-016

HASEGAWA, Kiyoshi
Anemones and Flowering Plants in a
Cut Glass
1944-'45 aquatint 25.7 × 19 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
ép.d'artiste; bottom
left: "anémones dans un verre
à facettes" (aquatinte) 1944. France.
ed. AP
Purchased 96-JP-016



長谷川潔 1891-1980
サン・ポール・ド・ヴァン
スの風景

1936年 ドライポイント
22 × 28.9 cm
右下に署名:Kiyoshi Hasegawa;
左下:Ep.d'artiste
ed. AP
購入 96-JP-013

HASEGAWA, Kiyoshi
Landscape at St. Paul de Vence
1936 drypoint 22 × 28.9 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
Ep.d'artiste
ed. AP
Purchased 96-JP-013



長谷川潔 1891-1980
フレジユスの古代ローマ
の燈台

1952年 メゾチント
20.8 × 30.9 cm
右下に署名: Kiyoshi Hasegawa;
左下: 7/50; 左下隅: "Phare romain
à Fréjus" 1952
ed. 7/50
購入 96-JP-017

HASEGAWA, Kiyoshi
Roman Pharos in Fréjus
1952 mezzotint 20.8 × 30.9 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
7/50; bottom left:
"Phare romain à Fréjus" 1952
ed. 7/50
Purchased 96-JP-017

長谷川潔 1891-1980
アカシアの老樹

1954年 エッチング
34.2 × 23.4 cm
画面左下に摺込: KIYOSHI
HASEGAWA; 右下に署名: Kiyoshi
Hasegawa; 左下: 36/60; 左下隅:
"Vieil acacia" (Eau-forte) 1954; 下辺
中央: "アカシアの老樹" (オーフォ
ルト)
ed. 36/60
購入 96-JP-018

HASEGAWA, Kiyoshi
Aged Acacia
1954 etching 34.2 × 23.4 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
36/60; bottom left:
"Vieil acacia" (Eau-forte) 1954; lower
center: [inscribed in Japanese]
ed. 36/60
Purchased 96-JP-018

長谷川潔 1891-1980
木と月

1954年 エッチング
34.1 × 23.2 cm
画面左下に摺込: KIYOSHI
HASEGAWA; 右下に署名: Kiyoshi
Hasegawa; 左下: 11/60;
左下隅: Bon
ed. 11/60
購入 96-JP-019

HASEGAWA, Kiyoshi
A Tree and the Moon
1954 etching 34.1 × 23.2 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
11/60; bottom left: Bon
ed. 11/60
Purchased 96-JP-019

長谷川潔 1891-1980
再生したる林檎樹

1956年 エッチング
35.6 × 25.5 cm
画面左下に摺込: KIYOSHI
HASEGAWA; 右下に署名: Kiyoshi
Hasegawa; 左下: 7/60; 左下隅: "Un
pommier" eau-forte 1956; 下辺中
央: Hommage à Monsieur A. Imaizumi
K.
Hasegawa
ed. 7/60
購入 96-JP-020

HASEGAWA, Kiyoshi
Renaissance of an Apple
1956 etching 35.6 × 25.5 cm
signed lower right: Kiyoshi
Hasegawa; inscribed lower left:
7/60; bottom left:
"Un pommier" eau-forte 1956; bot
tom center: Hommage à Monsieur
A. Imaizumi K.
Hasegawa
ed. 7/60
Purchased 96-JP-020

海外作家 Overseas Artists
〈絵画／Painting〉

ルイス、モーリス

1912-1962

デルタ・ムー

1960-61年 アクリル、麻布
262.9 × 569 cm
購入 96-FO-001

LOUIS, Morris
Delta Mu
1960-61 acrylic on canvas
262.9 × 569 cm
Purchased 96-FO-001

モディリアーニ、
アメデオ 1884-1920
カリアティード

1911-13年 油彩、麻布、板
80.5 × 45 cm
購入 96-FO-002

MODIGLIANI, Amedeo
Caryatid
1911-13 oil on canvas;
panel 80.5 × 45 cm
Purchased 96-FO-002



オキーフ、ジョージア

1887-1986

抽象 第6番

1928年 油彩、麻布

81.5 × 53.5 cm

インティマイト・ギャラリー、ニュー
ヨーク、1929年

購入 96-FO-003

O'KEEFFE, Georgia

Abstraction No. VI

1928 oil on canvas 81.5 × 53.5 cm

The Intimate Gallery, New York,

1929

Purchased 96-FO-003



ミンヌ、ジョルジュ

1866-1941

聖遺物箱を担ぐ少年

1897年 大理石

67 × 18.5 × 38 cm

台部左側面前方に陰刻：G.MINNE
購入 96-FS-003

MINNE, George

Boy Holding a Reliquary

1897 marble 67 × 18.5 × 38 cm

signed at plinth, left side front :

G.MINNE

Purchased 96-FS-003



〈立体／Three-dimensional Production〉

アーチペンコ、アレクサ

ンダー 1887-1964

歩く女

1912年 ブロンズ、彩色

67.5 × 23.4 × 20.7 cm

左足下部に陰刻：

A/Archipenko/1912；右足下部に陰
刻：APRES MOI VIENDRONT LES
JOURS

QUAND CET ŒUVRE SERA

ECRITS ET LES ARTISTES

SCULPTERONT L'ESPACE ET LE

TEMPS

購入 96-FS-001

ARCHIPENKO, Alexander Porfirovich

The Walking Woman

1912 bronze, colored

67.5 × 23.4 × 20.7 cm

signed and dated right side of the left

foot : A/Archipenko/1912 ; in-

scribed left

side of the right foot : APRES MOI

VIENDRONT LES JOURS QUAND

CET ŒUVRE SERA ECRITE

ET LES ARTISTES SCULPTERONT

L'ESPACE ET LE TEMPS

Purchased 96-FS-001



〈版画／Print〉

ゲルチュ、フランツ

1930-

ナターシャ IV

1987-88年 木版、雲肌麻紙

232.5 × 182 cm

裏面に署名

ed. 4/18

購入 96-FP-001

GERTSCH, Franz

Natascha IV

1987-88 woodcut on Kumo-

hadamashi Japan paper

232.5 × 182 cm

signed verso

ed. 4/18

Purchased 96-FP-001



アルプ、ハンス

(ジャン) 1886-1966

森

1917年頃 木、彩色

33.3 × 20.3 × 8 cm

購入 96-FS-002

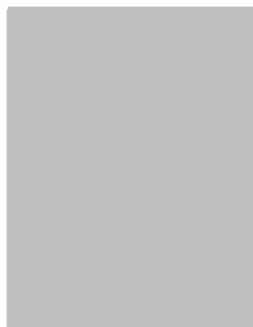
ARP, Hans (Jean)

Forest

ca. 1917 wood, painted

33.3 × 20.3 × 8 cm

Purchased 96-FS-002



ヴォルス 1913-1951

ヴォルス版画集

1962年刊行 ドライポイント、リヴ
紙 各紙寸法 32.5 × 25 cm
ed. 32/50
購入 96-FP-002

WOLS

Prints of WOLS

1962 [published] drypoint on
B.F.K.Rives 32.5 × 25 cm (each
sheet)
ed. 32/50
Purchased 96-FP-002

ヴォルス版画集 Prints of WOLS

1 町ー横位置	The City・crosswise	6.1×10 cm
2 木のこつく	Woody Things	10.5×7.5 cm
3 二重の町	Double City	9.8×12.4 cm
4 しみ、左側にぎざぎざの線	Stain, on the Left a Jagged Line	10.3×7.5 cm
5 裸の花	Nude Flower	12.4×10 cm
6 心臓	Heart	13×8 cm
7 三つの小さな漂う形	Three Small Floating Forms	18.5×10.5 cm
8 小さなしみ	Small Spot	10.5×7.5 cm
9 裸体	Nude	14.8×10.5 cm
10 左下に毛虫の形	Below left Caterpillar Form	20.2×12.2 cm
11 暗い町	Dark City	12.9×8 cm
12 ジャガイモ顔	Potato Face	12.4×10 cm
13 大きな毛虫	Big Caterpillar	13.7×8.8 cm
14 耳	Ear	13.7×8.7 cm
15 プラズマ	Plasma	8.3×7.9 cm
16 木の町	Tree City	19.9×15 cm
17 船	Ship	6.1×10.1 cm
18 なぐり書きの対角線	Scribble Diagonal	12.4×9.9 cm
19 毛の房	Hair Tuft	12.4×10 cm
20 花飾り	Garland	20.3×12 cm
21 貫かれたもの	Pricked	10.4×7.4 cm
22 人の住む岸辺	Inhabited Coast	19.9×15 cm
23 地誌	Topography	25.3×17.8 cm
24 町の中心	City Center	10×12.2 cm
25 顔	Face	11.5×9.5 cm
26 葉の落ちた木	Leafless Tree	13.9×8 cm
27 カブト虫の果実	Beetle Fruit	12.2×10 cm
28 大きな星のしみ	Big Star Stain	10.3×7.5 cm
29 あざみ	Thistle	12.2×10.2 cm
30 塊茎植物	Tuberous Plant	12.3×10.1 cm
31 大きなしみⅠ	Big Stain I	12.4×9.9 cm
32 大きなしみⅡ	Big Stain II	12.3×10.1 cm
33 三つのヴィネット	Three Vignettes on a Sheet	32.1×24.8 cm



1 町ー横位置

陸 根丙

(ユク・クンピョン) 1957-

Sound of Landscape + Eye for Field =
Survival is History
1995年 ヴィデオ・インスタレーシ
ョン
環流、日韓現代美術展、愛知県美術
館、1995年
購入 96-FI-002

YOOK, Keun-Byung

Sound of Landscape + Eye for Field =
Survival is History
1995 Video Installation
Circulating Currents-Japanese and
Korean Contemporary Art, Aichi Pre-
fectural Museum of Art, 1995
Purchased 96-FI-002

〈資料／Material〉

デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス、

フランシスコ 1746-1828

ロス・カプリエーチョス(気 まぐれ)

1881-86年 [第5版/初版1799年]
エッチング・アクアチント
各頁34 × 24.2 cm
六合エレメック株式会社寄贈
96-FM-001

De Goya y Lucientes, Francisco

Los Caprichos

1881-86 [5th ed./ First ed. 1799]
etching and aquatint 34 × 24.2 cm
each
Gift of Rokugo Elemec
96-FM-001



(部分)



(表紙)

〈インスタレーション／Installation〉

朴 炫基(パク・ヒョンギ)

1942-

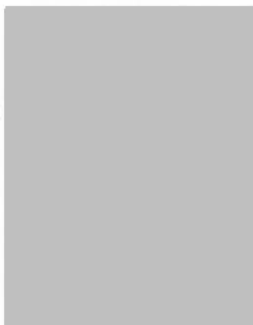
ブルー・ダイニング・テーブル

1995年 環流、日韓現代美術展、愛
知県美術館、1995年 ヴィデオ・イ
ンスタレーション
購入 96-FI-001

PARK, Hyun-ki

Blue Dining Table

1995 Video Installation
Circulating Currents-Japanese and
Korean Contemporary Art, Aichi Pre-
fectural Museum of Art, 1995
Purchased 96-FI-001



保存・修復 Conservation and Restoration

展示や貸出にともなう点検に加え、計画的な状態調査によって所蔵作品の保存状態の把握を進め、対策を必要とする作品に処置を行った。修復計画にあたって特殊な知識や技術を要すると判断された作品については、館外の専門家に調査を委託した。また、作品に応じた適切な保存環境の維持管理に努めるとともに、阪神・淡路大震災後特に関心の高まっている地震対策についての調査と処置を行った。

- ア 所蔵作品の状態調査
 - ・状態調査作品 138点
 - ・状態調査委託作品 1点
- イ 所蔵作品の保存処置等
 - ・保存処置作品 11点（うち委託 4点）
 - ・新規額の製作 7点

- ウ 保存環境の整備
 - ・虫菌害対策として1996年7月21日～24日に、収蔵庫2、3を燻蒸
- エ 美術館の防災に関する調査研究及び防災対策の実施
 - ・彫刻展示免震台座の作製（レームブルック《立ち上がる青年》用）
 - ・展示室における彫刻台等の転倒防止のためのアンカーボルト埋め込み工事（1996年6月～7月）
 - ・NHK名古屋放送局番組「ニュースウェーブ」特集にあわせ、起震車を用いて彫刻展示台内の重石の効果を実験（1997年1月20日）

状態調査委託作品一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	清水登之	建築現場	1923	油彩、麻布	修復計画	小林嘉樹

保存処置作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	処置前の状態	処置内容	処置者
1	藤井 達吉	日の出 (膠彩、和紙)	日本画	本紙の破れ	肌裏、増し裏の取り替え	川口春霞堂
2	万 鉄五郎	砂丘風景 (墨画、和紙)	日本画	黴によるフォクシング	洗浄、染み抜き (H ₂ O ₂) 再軸装	川口春霞堂
3	今井 瑾郎	大地 (鋼鉄、塗装)	立体	塗装面の劣化	洗浄 金属着色のやり直し	太平工業 作家の監督 (館内修復)
4	堀内 正和	四角と丸の組合せb (鉄)	立体	変形、溶接部の亀裂	変形の修正 再溶接 (周辺の色味補正) ワックスによる保護膜	山岸鍍金工房
5	椿 貞雄	庭の牡丹 (油彩、麻布)	洋画	絵具層の剥離 (cleavage)	粒膠による剥落留め	長屋 (館内処置)
6	アド・ラインハート	No.114 (油彩、麻布)	絵画	絵具層の剥離 (cleavage)	P.V.Acによる剥落留め	長屋 (館内処置)
7	ポール・デルヴォー	こだま (油彩、麻布)	絵画	絵具層の剥離 (open cleavage)	チョウザメ膠による剥落留	長屋 (館内処置)
8	荻須 高德	線路に面した家 (油彩、麻布)	洋画	虫害による木枠の割れ 絵具層の剥離、剥落 (cleavage, flakeing)	木枠の取り替え 粒膠による剥落留め	A.C.S.佐藤 長屋 (館内処置)
9	杉本 健吉	正倉院 (油彩、麻布)	洋画	絵具層の剥離、剥落 (cleavage, cupping)	粒膠による剥落留め コールドプレス (作業中)	長屋 (館内処置)
10	斎藤 義重	作品 (油彩、合板)	洋画	絵具層の剥落、紛失 (loss)	水彩絵の具による補彩	長屋 (館内処置)
11	クルト・シュ ヴィッタース	メルツ絵画305ロボジツ (紙 (コラージュ))	素画	旧マットのサイン部の破れ (切抜きで仮貼付されていた もの)	洗浄、コールドプレス (作業中)	長屋 (館内処理)

所蔵作品の貸出 Loan of Collection

1996年度の貸出状況

国内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、展覧会の内容とその意義、当該作品の保存状態、所蔵作品展の展示計画などを十分に考慮し、愛知県美術館所蔵作品貸出要領に則って作品の貸出を行った。

貸出の概要

分野	点数
日本画	28点
洋画	42点
版画	47点
素描	8点
立体	7点
工芸	2点
計（45件分）	134点

海外の美術館への貸出 2件 2点
（ファルツ歴史博物館（ドイツ）、ベルギー王立美術館）

貸出作品一覧

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
1. 岸田劉生 岸田劉生	斎藤与里氏像 蓼	1996.4.5 - 5.23	近代洋画の偉才 岸田劉生	佐野美術館
2. 瑛九 瑛九	白い輪 黄色い花	1996.4.18 - 6.14	瑛九展	宮崎県立美術館
3. フランティシェク・クブカ	「白と黒の4つの物語」のうち8点	1996.4.19 - 5.30	物語の世界	群馬県立近代美術館
4. エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1996.5.2 - 9.13	ワインの神秘	ファルツ歴史博物館
5. 古賀春江	夏山	1996.5.8 - 7.31	麗しき前衛の時代 ー古賀春江と三岸好太郎	茨城県近代美術館
6. サム・フランシス アド・ラインハート	消失に向かう地点の青 No. 1 1 4	1996.5.22 - 11.30	抽象表現主義	セゾン美術館 広島市現代美術館
7. 稗田一穂 稗田一穂	雨晴海岸 孔雀と女	1996.5.27 - 7.24	稗田一穂展	世田谷美術館
8. 林武 林武 林武	石膏像のある静物 婦人像 ノートルダム	1996.6.8 - 10.23 1997.1.21 - 2.25	生誕100年記念 林武展	東京都庭園美術館 青森市立美術展示館 笠間口動美術館 高島屋大阪店 松坂屋美術館
9. 上村松篁	玄鶴（一対）	1996.6.25 - 7.2.	上村松篁展	名古屋三越
10. 藤井達吉 河本五郎	志野赤絵金彩四方皿 灰釉動物文花器	1996.6.27 - 8.29	瀬戸・美濃の近現代陶芸 ー創作陶芸への道ー	江別市セラミック アートセンター

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
11. 椿貞雄	庭の牡丹	1996.7.19 - 11.21	生誕100年記念 椿貞雄展	平塚市美術館 千葉県立美術館 山形美術館
12. 前田青邨 前田寛治	雨の蘇州 褐衣婦人像	1996.7.27 - 9.6	大正画人ネットワーク ー田口翰江が拓いた〈中央美術〉ー	秋田県立近代美術館
13. 星野真吾 星野真吾	喪中の作品・昇天 正夢か	1996.7.30 - 10.31	星野真吾展	豊橋市美術博物館 新潟市美術館
14. 荻須高德	線路に面した家	1996.8.16 - 1997.1.30	荻須高德展	Bunkamuraザ・ミュージアム 松坂屋美術館 福岡県立美術館 山形美術館
荻須高德	サン・ドニ	1997.2.25 - 7.1		奈良県立美術館 京都高島屋グランドホール 尾道市美術館 茨城県近代美術館
15. オノサト・トシノブ 斎藤義重	三つの黒 作品	1996.9.3. - 11.1	抽象絵画の創造力	福島県立美術館
16. 田淵俊夫 田淵俊夫 田淵俊夫 田淵俊夫	青木ヶ原 初夏 飛鳥川 すぎばやし	1996.9.3 - 11.20 (1996.9.3. - 9.25)	田淵俊夫展	松坂屋美術館
17. 前田寛治 前田寛治	褐衣婦人像 母の像	1996.9.20 - 11.11	前田寛治展	鳥取県立博物館
18. ジャック・ヴィヨン フランティシェク・クブカ ラースロー・モホリ=ナジ ラースロー・モホリ=ナジ ラースロー・モホリ=ナジ ラースロー・モホリ=ナジ オットー・ディックス オットー・ディックス オットー・ディックス オットー・ディックス	存在 灰色と金色の展開 コンストラクション (90-FP-021) コンストラクション (91-FP-005) コンストラクション (91-FP-006) 突撃隊、毒ガスの中を前進 ランス市街、爆撃さる 崩壊した塹壕 照明弾に照らされたドントリール近郊の弾痕	1996.9.27 - 11.11	20世紀美術の誕生 ー1920・30年代の欧米・米国・日本ー	広島県立美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
19. 野見山暁治 野見山暁治	人（男） 伝承のかたち	1996.9.30 - 12.14	野見山暁治展	練馬区立美術館
20. 東山魁夷 吉田善彦	雪の山郷 雨余桂林	1996.10.1 - 11.13	瓦と風月	高浜市やきものの里 かわら美術館
21. 三岸節子 三岸節子	魚とインカの壺 らくがき	1996.10.3 - 10.23	三岸節子展	渋谷東急本店
22. 荒木高子	砂の聖書	1996.10.17 - 12.10	荒木高子展	西宮市大谷記念美術館
23. 伊藤公象	木の肉 土の刃 II	1996.10.22 - 12.18	土の地平／伊藤公象展	富山県立近代美術館
24. 我妻碧宇 嶋谷自然	谷間の岩 緑映	1996.10.24 - 12.13	現代日本画の青春群像 一瑠爽画社と一采社の画家たちー	山種美術館
25. 小松均 小松均	富士山（上） 富士山（下）	1996.10.25 - 1997.1.17	小松均展	東京ステーションギャラリー
26. 清水登之 清水登之	建築現場（ワーガーデン） 森に憩う人	1996.10.25 - 1997.1.30	清水登之展	栃木県立美術館
27. 松樹路人	去りゆく夏に	1996.11.22 - 12.26	松樹路人教授作品展	武蔵野美術大学美術資料図書館
28. 岸田劉生 速水御舟	高須光治君之肖像 西郊小景	1996.12.3. - 1997.2.1	劉生と御舟	豊田市美術館
29. 中西夏之	M字型ーII	1996.12.12 - 1997.3.25	中西夏之展	東京都現代美術館
30. 海老原喜之助 加藤東一	ゲレンデ 伝承	1996.12.17 - 1997.1.31	色の詩情	刈谷市美術館
31. 片岡球子	面構 歌川国貞・柳亭種彦	1996.12.18 - 1997.4.22	片岡球子展	日本橋三越本店 名古屋三越
32. 高畑郁子	聖界	1996.12.19 - 1997.11.20	創画会五十年記念展	京都高島屋 高岡市美術館 大阪高島屋 東京大丸 豊橋市美術博物館
33. 佐藤太清	旅の夕暮	1996.12.20 - 1997.3.25	日展90年記念展	松屋銀座

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
鬼頭鍋三郎 北村西望	春装譜 将軍の孫	1996.12.20 - 1997.3.25	日展90年記念展	大丸心齋橋 大丸博多
34. 小川博史 小川博史 小川博史	クエンカ 北風 牛に乗ったセラフィム	1997.1.16 - 1.30	小川博史個展	松坂屋本店美術画廊
35. 小松均 小松均	富士山（上） 富士山（下）	1997.1.19 - 3.27	小松均展	王舎城美術宝物館
36. 池田龍雄 池田龍雄 中村宏	顔 風景 内乱期	1997.1.24 - 3.27	ねりまの美術98 ー池田龍雄・中村宏	練馬区立美術館
37. 加山又造	黒い鳥	1997.2.6 - 4.2	横山操・加山又造展	新潟県立近代美術館
38. 村山槐多	信州風景	1997.2.8 - 7.25	生誕100年 村山槐多展	福島県立美術館 三重県立美術館
39. 佐藤忠良 堀内正和 本郷新 山本豊市	レイ 四角と丸の組合せb 無辜の民 スツール	1997.2.14 - 3.26	日本の近代彫刻展	長野県信濃美術館
40. 平川敏夫 平川敏夫 平川敏夫	萌林 樹峽 黄山松雨	1997.2.21 - 4.9	平川敏夫展	岐阜県美術館
41. 中村正義 中村正義 中村正義	爽爽 風景（庭） 風景（八事の庭）	1997.2.21 - 7.23	没後20年 中村正義展	豊橋市美術博物館 川崎市市民ミュージアム 新潟市美術館
42. 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次 北川民次	タスコからの眺望 メキシコ三童女 南国の花 砂の工場 工場の一角・瀬戸十景 窯小屋・瀬戸十景 上掘り場・瀬戸十景 煙突のある風景・瀬戸十景 夜の工場・瀬戸十景 工場のなか・瀬戸十景	1997.2.24 - 4.23	北川民次展	笠間日動美術館

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場
北川民次	ろくろを廻す男・瀬戸十景	1997.2.24 - 4.23	北川民次展	笠間日動美術館
北川民次	山の中の窯場・瀬戸十景			
北川民次	窯入れ・瀬戸十景			
北川民次	窯焼き・瀬戸十景			
北川民次	瀬戸市街・瀬戸十景			
北川民次	牛			
北川民次	家族			
北川民次	メキシコの女			
北川民次	タスコの裸婦			
北川民次	メキシコの浴み			
北川民次	かいうの前で抱き合う二人・エロティカ			
北川民次	若者たち・エロティカ			
北川民次	ひざの上の女・エロティカ			
北川民次	ひげのある男・エロティカ			
北川民次	抱かれる女・エロティカ			
北川民次	まるくなる二人・エロティカ			
北川民次	黒い男・エロティカ			
北川民次	はだかの子と母			
北川民次	瀬戸の母子像			
北川民次	バッタと三人の女			
北川民次	太ったバッタ			
北川民次	手のひらの上のバッタ			
北川民次	バッタを介抱する女			
北川民次	二匹のバッタと親子			
北川民次	神殿の中のバッタ (1)			
北川民次	美女とバッタ (1)			
43. ポール・デルヴォー	こだま	1997.2.27 - 8.31	ポール・デルヴォー回顧展	ベルギー王立美術館
44. 万鉄五郎	紅葉風景	1997.3.7. - 9.10	萬鉄五郎展	東京国立近代美術館
万鉄五郎	水郷風景			京都国立近代美術館 岩手県立博物館
45. 三石吾良	踊り子たち	1997.3.21 - 3.31	三石吾良水彩画展	電気文化会館ギャラリー西
三石吾良	グワッパ			ギャラリー沙和

展示・展覧会

Display and Exhibition

所蔵作品展 Display from the Permanent Collection

所蔵作品によって20世紀の美術を系統的に紹介することを基本にして、4期の所蔵作品展を開催した。またその中で、所蔵品に限らない作品による小企画展（テーマ展示）などを実施し、所蔵作品展にも企画性を盛り込むよう工夫した。

1996年度展示構成

第1期	①近・現代の日本画 ③④日本近代の洋画 ⑤戦後具象絵画の展開／20世紀の美術の展開 ⑥多様な立体 ⑦創作版画 ⑧キュビズムの版画
第2期前期 －9月23日	④テーマ展示：アンドリュース・ワイエスの世界 ⑤20世紀の美術 ⑥小企画：デイヴィッド・スミス版画展 ⑦近代の洋画 ⑧近現代の洋画
後期 9月27日－	④欧米の近代美術 ⑤近代の洋画／現代の日本画／美術の諸相 ⑥小企画：千崎 千恵夫展 ⑦アンリ・マティスの挿絵の世界 ⑧近現代の洋画
第3期前期 －12月27日	④近現代の洋画 ⑤20世紀の美術／日本の現代絵画 ⑥戦後日本の抽象美術 ⑦⑧小企画：藤井達吉展－近代工芸の前衛－
後期 1月4日－	(④⑤⑥は前期と同じ) ⑦ロダンと日本の近代彫刻 ⑧1920年代の素描・版画
第4期	③新収蔵作品：朴 炫基のビデオ・インスタレーション ④近現代の日本の洋画 ⑤20世紀の美術 ⑥新収蔵作品：陸 根内のビデオ・インスタレーション ⑦⑧新収蔵作品展

1996年度の所蔵作品展観覧者数統計

展示期	会 期	日数	入場者数	一日平均
1995年度第4期（続き）	1996年4月1日－4月14日	12	3,337	278
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		2,967 370	495 31
1996年度第1期	4月19日－5月26日	33	31,289	948
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		30,973 316	939 10
1996年度第2期	7月26日－11月10日	91	47,305	520
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		44,685 2,620	526 29
1996年度第3期	11月22日－1997年1月26日	51	29,257	574
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		28,789 468	564 9
1996年度第4期	1997年2月8日－3月23日	38	23,682	623
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		22,891 791	715 21
1997年度第1期（続く）	3月28日－3月31日	3	3,040	1,013
内 訳	企画展共通入場者数 所蔵作品展のみの入場者数		3,004 36	1,001 12

■1996年度 第1期 展示作品リスト（4月19日－5月26日）

展示室1

JJ	竹内栖鳳 1908年頃	狐狸図
JJ	伊東深木 1916年	大島の黎明
JJ	前田青邨 1917年	江島詣
JJ	前田青邨 1919年頃	雨の蘇州
JJ	万 鉄五郎 1919-27年頃	砂丘風雨
JJ	小茂田青樹 1921年	漁村早春
JJ	小川芋銭 1922	沼四題 家鴨小屋(寄託作品)
JJ	小川芋銭 1922	沼四題 小蝦網(〃)
JJ	小川芋銭 1922	沼四題 沼鱈打(〃)
JJ	小川芋銭 1922	沼四題 檜原(〃)
JJ	速水御舟 1923	西郊小景
JJ	村上華岳 1923	魔障之図
JJ	小林古径 1926	洗濯場 その1
JJ	小林古径 1926	洗濯場 その2
JD	小林古径 1926	洗濯場 その1 下絵
JD	小林古径 1926	洗濯場 その2 下絵
JJ	小杉放庵 1946-55頃	花鳥屏風
JJ	加山又造 1957	黒い鳥
JJ	下村良之介 1964	鼓舞
JJ	星野真吾 1965	喪中の作品(昇天)
JJ	中村正義 1974	舞妓
JJ	中村正義 1976	顔

JJ	中村正義 1976	顔
JJ	後藤純男 1980	春映法隆寺
JJ	小嶋悠司 1985	穢土
JJ	平山郁夫 1990	楼蘭の遺跡・昼
JJ	東山魁夷 1991	雪の山郷

展示室3

JO	高橋由一 1878頃	厨房具
JO	高橋由一 1880頃	不忍池
JO	山本芳翠 1882頃	西洋裸婦
JO	久米桂一郎 1892	秋景
JO	黒田清輝 1897	暖き日
JO	黒田清輝 1906	花と猫
JO	青木 繁 1902	太田の森
JO	山下新太郎 1909	白耳義の少女
JO	梅原龍三郎 1909	若き羅馬人
JO	安井曾太郎 1912頃	婦人像
JO	坂本繁二郎 1915	海岸の家
JO	長原孝太郎 1919	山村

展示室4

JO	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟
JO	中村 彝 1914	少女裸像
JO	中村 彝 1915頃	静物
JO	岸田劉生 1915	高須光治君之肖像

JO	木村莊八 1915	壺を持つ女
JO	河野通勢 1917	自画像
JO	小出楯重 1918	N婦人像
JO	小出楯重 1925	蔬菜静物
JO	大沢鉦一郎 1919	大曾根風景
JO	藤田嗣治 1925	青衣の女
JO	前田寛治 1925	褐衣婦人像
JO	長谷川利行 1927	洒売場
JO	中山 巍 1927	青背座婦
JO	里見勝蔵 1930	裸婦
JO	宮田重雄 1930	パリ・サンルイ病院裏
JO	小島善太郎 1930	房州風景
JO	野口弥太郎 1931頃	門
JO	佐分 真 1932頃	横たわる婦人
JO	林 重義 1934	舞妓(赤)
JO	小林和作 1935	通り雨
JO	熊谷守一 1938	鳥
JO	児島善三郎 1951	伊豆の海
JO	須田国太郎 1941	夏
JO	矢橋六郎 1941	武蔵野 冬 杉林
JO	野口謙蔵 1943	虹のある雪景
JD	駿光 1934	白顔像
JD	松本竣介 1941	ニコライ堂

FS	オーギュスト・ロダン 1900	歩く人
JS	萩原守衛 1907	女の胴
JS	戸張孤雁 1911	立てる女
JS	戸張孤雁 1924	煌めく嫉妬
JS	中原悌二郎 1919	憩える女
JS	高田博厚 1937	女のトルソ

展示室5

JO	岡鹿之助 1949	窓
JO	三岸節子 1952	魚とインカの壺
JO	香月泰男 1953	散歩
JO	山口 薫 1953	ボタン雪と騎手
JO	須田国太郎 1954	樹下
JO	森 芳雄 1954	女たち
JO	金山康喜 1956	静物
JO	脇田 和 1960	断層の人と鳥
JO	鳥海青児 1961	石の街(ペルー マチュ・ピチュ)
JO	牛島憲之 1962	埋れる船
JO	荻須高德 1964	サンドニ
JO	麻生三郎 1964	胴体と頭と電球
JO	小磯良平 1965	婦人像
JO	島田章三 1976	石庭女人図
JO	オノサト トシノブ 1958	三つの黒
JO	山田正亮 1958	Work No.B 182
JO	瑛九 1959	田園(寄託作品)

JO	斎藤義重 1962	作品
JO	山口長男 1963	屏形
JO	荒川修作 1963	作品
JO	猪熊弦一郎 1966	マンハッタンA
JO	浅野弥衛 1979	作品
FO	エドゥワール・ヴュイヤール 1898	窓辺の女
FO	アルベール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
FO	パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女
FO	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)
FO	ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺
FO	ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫
FO	エミール・ノルデ 1915	静物L(アマゾン、能面等)
FO	フランティシェク・クプカ 1919	灰色と金色の展開
FO	ジャック・ヴィヨン 1920	存在
FO	パウル・クレー 1921	女の館
FO	アンリ・マティス 1921-22	待つ
FO	アントニン・ブロハースカ 1922	無題(寄託作品)
FO	ジョアン・ミロ 1925	絵画
FO	ライオネル・ファイニンガー 1927	夕暮れの海 I
FO	ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	
FO	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1935	日の当たる庭
FO	ポール・デルヴォー 1943	こだま
FO	ニコラ・ド・スターール 1948	コンポジション
FO	ジャン・デュビュッフエ 1953	二人の脱走兵

FO	マックス・エルンスト 1954	ポーランドの騎士
FO	ルーチョ・フォンターナ 1960	空間概念
FO	フランク・ステラ 1969	River of Ponds IV
FD	ジャコモ・パッラ 1914	太陽の前を通過する水星(習作)
FS	ケーテ・コルヴィッツ 1913	恋人たち II
FS	エルンスト・バルラッハ 1920	母なる大地 II
FS	アレクサンダー・コールダー 1944	片膝ついて
JS	戸谷成雄 1990	地霊

展示室6

FS	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 1913	恋人たち
FS	ハンス・アルプ 1932	星座
FS	ルイズ・ニーヴェルソン 1956-66	漂う天界
FS	ジム・ダイン 1962	芝刈機
FS	イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン
FS	ジョージ・シーガル 1965	ロバート&エセル・スカルの肖像

展示室7

JP	山本 鼎 1904	漁夫
JP	山本 鼎 1917	風景
JP	戸張孤雁 制作年不詳	十二階
JP	太田三郎 1914	カフェーの女
JP	織田一磨 1922	街頭の音楽者
JP	深沢索一 1925	丘上走土
JP	前川千帆 1929	渋谷百軒店
JP	前川千帆 1929	本所工場地帯

JP	前川千帆 1930	神田青物市場
JP	前川千帆 1930	深川木場
JP	恩地孝四郎 1917頃	丘頂
JP	恩地孝四郎 1918	卓上静物
JP	恩地孝四郎 1928	花
JP	恩地孝四郎 1929	明治神宮
JP	恩地孝四郎 1938	腰越海岸
JP	永瀬義郎 1930	香港夜景
JP	川西 英 1941	小道具屋A
JP	川上澄生 1925	異国雨の夕景
JP	谷中安規 1927	飛ぶ首
JP	谷中安規 1932	朝鮮(民家)
JP	谷中安規 1932	赤い人魚
JP	谷中安規 1932	自画像
JP	谷中安規 1933	蝶を吐く人
JP	谷中安規 1933	虎ねむる
JP	谷中安規 1936	詩巻(こころの花1)
JP	谷中安規 1936	ゴンドラの月
JP	谷中安規 1938	堂庵夢がたり
JP	谷中安規 1939	童子騎象
JP	平川清蔵 1925	風景
JP	藤牧義夫 1933	銀行
JP	藤牧義夫 1934	まくら橋
JP	小野忠重 1959	廣島の水

JP	小野忠重 1951/1971	燈台の道
展示室8		
FP	ジョルジュ・ブラック 1907-08	裸婦習作
FP	ジョルジュ・ブラック 1909-10	小さなキュビズム的ギター
FP	ジョルジュ・ブラック 1911	FOX
FP	ジョルジュ・ブラック 1911	JOB
FP	ジョルジュ・ブラック 1911	BASS
FP	ジョルジュ・ブラック 1911	PAL
FP	ジョルジュ・ブラック 1912	コンポジション(静物Ⅰ)
FP	ジョルジュ・ブラック 1912	コンポジション(グラスのある静物)
FP	パブロ・ピカソ 1909	静物 果物皿
FP	パブロ・ピカソ 1910	「聖マトレ」のための挿絵 レオニー嬢
FP	パブロ・ピカソ 1910	「聖マトレ」のための挿絵 テーブル
FP	パブロ・ピカソ 1910	「聖マトレ」のための挿絵 長椅子のレオニー嬢
FP	パブロ・ピカソ 1910	「聖マトレ」のための挿絵 修道院
FP	パブロ・ピカソ 1912	男の顔
FP	パブロ・ピカソ 1914	男と犬
FP	パブロ・ピカソ 1915	ギターを持つ男
FP	ルイ・マルクーシ 1912-20	ギョーム・アポリネールの肖像
FP	ジャック・ヴィヨン 1913	横顔のイヴォンス
FP	ジャック・ヴィヨン 1913	食卓
FP	ジャック・ヴィヨン 1914	機械のある工場
FP	フランティシェク・クプカ 1926	白と黒の4つの物語
FP	ルイ・マルクーシ 1914	瓶とコップ(寄託作品)

FS	オシップ・ザッキン 1956-57	チェロのトルソ
ロビー、前室など		
JO	今村幸生 1983	雷神図(寄託作品)
JO	辰野登恵子 1995	Untitled 95-1
JS	久野 真 1962	鉛による作品
JS	柳原義達 1956	黒人の女
JS	工藤哲巳 1977	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン
JS	荒木高子 1983	砂の聖書
JS	田窪恭治 1985	廃墟
JS	土谷 武 1990	植物空間
JS	北山善夫 1987	言葉が輝く時
8階ロビー		
FS	エミール＝アントワヌ・ブルデル 1909	ベネローブ
FS	エミール＝アントワヌ・ブルデル 1914-15	力
FS	エミール＝アントワヌ・ブルデル 1916	勝利
FS	エミール＝アントワヌ・ブルデル 1916	雄弁
FS	エミール＝アントワヌ・ブルデル 1916	自由
屋外展示スペースなど		
FS	コルネリス・ジットマン 1983	カリブの女
FS	アルナルド・ボモドーロ 1984	飛躍の瞬間
JS	加藤昭男 1986	大地
JS	小田 襄 1988	円柱の構造
JS	今井瑾郎 1992	大地

■1996年度 第2期 前期 展示作品リスト（7月26日－9月23日）

展示室4

寄託作品によるテーマ展示
「アンドリュウ・ワイエスの世界」

FD	アンドリュウ・ワイエス 1953年	巻き貝
FD	アンドリュウ・ワイエス 1954年	ティールの島
FD	アンドリュウ・ワイエス 1957年	干草の棚
FD	アンドリュウ・ワイエス 1960年	トムの小屋
FD	アンドリュウ・ワイエス 1961年	ピーター・ワイエス・ハード
FD	アンドリュウ・ワイエス 1962年	家庭菜園
FD	アンドリュウ・ワイエス 1965年	さらされた場所
FD	アンドリュウ・ワイエス 1967年	境界線
FD	アンドリュウ・ワイエス 1968年	クリスティーナのティーボット
FD	アンドリュウ・ワイエス 1968年	バザーズ・グローリー
FD	アンドリュウ・ワイエス 1968年	木材運搬用そり
FD	アンドリュウ・ワイエス 1968年	エルウェルの製材所
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	オルソン家の終わり
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	自由な人
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	リンゴ酒の樽
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	フィンランド人
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	トウヒの大枝
FD	アンドリュウ・ワイエス 1969年	雨雲
FD	アンドリュウ・ワイエス 1972年	ノジーシク
FD	アンドリュウ・ワイエス 1974年	カナダ
FD	アンドリュウ・ワイエス 1974年	ケープ族出身

FD	アンドリュウ・ワイエス 1974年	酒密輸入人(ウォルター・アンダーソンの著作)
FD	アンドリュウ・ワイエス 1974/1945年	酒密輸入人
FD	アンドリュウ・ワイエス 1975年	クエーカー教徒
FD	アンドリュウ・ワイエス 1975年	カス
FD	アンドリュウ・ワイエス 1975年	ローデン・コート

展示室5

FO	エドゥワール・ヴェイヤール 1898	窓辺の女
FO	アルベール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
FO	パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女
FO	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)
FO	ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺
FO	オーギュスト・エルバン 1906頃	静物(寄託作品)
FO	ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫
FO	エミール・ノルデ 1915	静物L(アマゾン、能面等)
FO	フランティšek・クプカ 1919	灰色と金色の展開
FO	ジャック・ヴィヨン 1920	存在
FO	パウル・クレー 1921	女の館
FO	アンリ・マティス 1921-22	待つ
FO	アントニン・ブロハースカ 1922	無題(寄託作品)
FO	ジョアン・ミロ 1925	絵画
FO	ライオネル・ファイニンガー 1927	夕暮れの海 I
FO	ベン・ニコルソン 1933	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
FO	ポール・デルヴォー 1943	こだま

FO	ニコラ・ド・スタール 1948	コンポジション
FO	ジャン・デュビュッフエ 1953	二人の脱走兵
FO	マックス・エルンスト 1954	ポーランドの騎士
FO	ルーチョ・フォンターナ 1960	空間概念
FO	ジョーゼフ・アルパース 1962	正方形額
FO	フランク・ステラ 1969	River of Ponds IV
FO	アンディ・ウォーホル 1975	レディース・アンド・ジェントルメン
FO	アントニ・タビエス 1977	コンポジション
FO	ラインハルト・セビエ 1993	思想家
FD	ジャーコモ・パッラ 1914	太陽の前を通過する水星(習作)
FS	エルンスト・バルラッハ 1911-12	忘我
FS	ハンス・アルプ 1932	星座
FS	アレクサンダー・コールダー 1944	片膝ついて
FS	ルイズ・ニーヴェルソン 1956-66	漂う天界
PS	イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン
FS	ジョージ・シーガル 1965	ロバート&エセル・スカルの肖像
JO	瑛九 1957-58	黄色い花
JO	堂本尚郎 1962	絵画1962-25
JO	山口長男 1963	屏形
JO	斉藤義重 1973/50	ゼロイスト
JO	三尾公三 1974	FICTION SPACE(X)
JO	上田 薫 1976	なま玉子G
JO	島田章三 1976	石庭女人図

展示室6 小企画「デイヴィッド・スミス版画展」

展示室7

JO	高橋由一 1880頃	不忍池
JO	久米桂一郎 1892	秋景
JO	黒田清輝 1897	暖き日
JO	梅原龍三郎 1909	若き羅馬人
JO	中村 彝 1914	少女裸像
JO	小出櫓重 1918	N婦人像
JO	木村莊八 1915	壺を持つ女
JO	河野通勢 1917	自画像
JO	岸田劉生 1915	高須光治君之肖像
JO	大沢鉦一郎 1919頃	自画像
JO	宮脇 晴 1920	自画像
JO	中村 彝 1915頃	静物
JO	小出櫓重 1925	蔬菜静物
JO	野口弥太郎 1931頃	門
JO	長谷川利行 1927	酒売場
JO	清水登之 1929	森に憩う人
JO	国吉康雄 1920	帽子の女
JS	中原悌二郎 1919-21	平櫛田中像

■1996年度 第2期 後記 展示作品リスト (9月27日－11月10日)

展示室4

FO	エドゥワール・ヴェイヤール 1898	窓辺の女
----	-----------------------	------

JS	戸張孤雁 1924	煌めく嫉妬
----	--------------	-------

展示室8

JO	藤田嗣治 1925	青衣の女
JO	北川民次 1933	タスコよりの遠望
JO	海老原喜之助 1930	雪山と樵
JO	矢橋六郎 1932	南仏サントロベにて
JO	須田国太郎 1941	夏
JO	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟
JO	金山康喜 1956	静物
JO	香月泰男 1953	散歩
JO	山口 薫 1953	ボタン雪と騎手
JO	森 芳雄 1954	女たち
JO	脇田 和 1960	断層の人と鳥
JO	麻生三郎 1964	胴体と頭と電球
JO	鳥海青児 1954	うづくまる

ロビー、前室など

JS	原 裕治 1993	アボクリファ No.1
JS	出原次朗 1993	星虫の死骸
JS	本郷 新 1970	無辜の民「油田地帯」
JS	工藤哲巳 1977	果てなく綾糸がまどわるマルセル・デュシャン

JS	柳原義達 1956	黒人の女
----	--------------	------

JS	榎尾正次 1965	葉っぱのように
----	--------------	---------

JO	檀田伸也 1982	通り過ぎた風景
----	--------------	---------

JO	松本陽子 1993	光は荒野の中に拡散している
----	--------------	---------------

JS	土谷 武 1990	植物空間
----	--------------	------

FS	ジャーコモ・マンズー 1953	踊りのステップ
----	--------------------	---------

FS	アレクサンダー・コールダー 1976	ゴースト (寄託作品)
----	-----------------------	----------------

FS	ヴィルヘルム・レームブルック 1913	立ち上がる青年
----	------------------------	---------

8階ロビー

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル 1909	ペネロプ
----	---------------------------	------

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル 1914-15	力
----	------------------------------	---

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	勝利
----	---------------------------	----

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	雄弁
----	---------------------------	----

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル 1916	自由
----	---------------------------	----

屋外展示スペースなど

FS	コルネリス・ジットマン 1983	カリブの女
----	---------------------	-------

FS	アルナルド・ボモドーロ 1984	飛躍の瞬間
----	---------------------	-------

JS	加藤昭男 1986	大地
----	--------------	----

JS	小田 襄 1988	円柱の構造
----	--------------	-------

JS	今井瑾郎 1992	大地
----	--------------	----

FO	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり黄金の騎士)
----	-------------------	---------------

FO	ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫
----	--------------------	------

FO	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺
	1906	
FO	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物
	1912	
FO	パウル・クレー	女の館
	1921	
FO	クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305、ロボジッツ
	1921	
FO	アンリ・マティス	待つ
	1921-22	
FO	ジョアン・ミロ	絵画
	1925	
FO	ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 Ⅰ
	1927	
FO	アンドレ・ボーシャン	フィアンセを訪ねて
	1928	
FO	ジョルジュ・ババゾフ	無題(タイトル不詳)
	1928頃	
FO	ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
	1933	
FO	パウル・クレー	回心した女の墮落
	1939	
FO	ニコラ・ド・スタール	コンポジション
	1948	
FO	ポール・デルヴォー	こだま
	1943	
FO	ジャン・デュビュッフエ	二人の脱走兵
	1953	
FO	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
	1954	
FO	ルーチョ・フォンターナ	空間概念
	1960	
FO	ジョーゼフ・アルナバース	正方形顔
	1962	
FO	アンディ・ウォーホル	レディース・アンド・ジェントルメン
	1975	
FD	ラインハルト・セビエ	思想家
	1993	
FD	ジャーコモ・バッタ	太陽の前を通過する水星(習作)
	1914	
FS	オーギュスト・ロダン	歩く人
	1900	
FS	ハンス・アルプ	星座
	1932	
FS	オシップ・ザッキン	チェロのトルソ
	1956-57	

展示室5

JO	高橋由一	不忍池
	1880頃	
JO	久米桂一郎	秋景
	1892	
JO	黒田清輝	暖き日
	1897	
JO	梅原龍三郎	若き羅馬人
	1909	
JO	中村 彝	少女裸婦
	1914	
JO	岸田劉生	高須光治君之肖像
	1915	
JO	木村莊八	壺を持つ女
	1915	
JO	坂本繁二郎	海岸の家
	1915	
JO	中村 彝	静物
	1915頃	
JO	河野通勢	自画像
	1917	
JO	小出楯重	N婦人像
	1918	
JO	大沢鉦一郎	自画像
	1919頃	
JO	宮脇 晴	自画像
	1920	
JO	小出楯重	蔬菜静物
	1925	
JO	佐分 真	裸婦
	1925頃	
JO	野口弥太郎	門
	1931頃	
JO	古賀春江	夏山
	1927	
JO	長谷川利行	酒売場
	1927	
JO	伊藤 廉	肘をつく女
	1929	
JO	太田三郎	三嬌図
	1929	
JO	清水登之	森に憩う人
	1929	
JO	国吉康雄	帽子の女
	1920	
JO	山口長男	屏形
	1963	
JO	菅井 汲	ナショナル・ルートNo.11
	1964	

JO	斎藤義重	ゼロイスト
	(原作1950)	
JO	辰野登恵子	Untitled 95-1
	1995	
FO	フランク・ステラ	River of Ponds IV
	1969	
FO	アントニ・タピエス	コンポジション
	1977	
JJ	加山又造	黒い鳥
	1957	
JJ	下村良之介	鼓舞
	1964	
JJ	中村正義	爽爽
	1966	
JJ	三上 誠	経絡万華鏡
	1967	
JJ	三上 誠	機構の生理 窓51
	1970	
JJ	平川敏夫	樹峽
	1974	
JJ	片岡球子	面構(歌川国貞・柳亭種彦)
	1980	
JJ	工藤甲人	坐忘
	1982	
JJ	小嶋悠司	穢土
	1985	
JJ	多淵俊夫	すぎばやし
	1989	
JS	高田博厚	女のトルソ
	1937	
FS	ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界
	1956-66	
FS	ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像
	1965	

展示室6 小企画「千崎千恵夫展」

展示室7

FP	アンリ・マティス	マラルメ詩集
	1932	
FP	アンリ・マティス	ロンサール恋愛詞華集
	1948	

展示室8

JO	藤田嗣治	青衣の女
	1925	
JO	矢橋六郎	南仏サントロベにて
	1932	

JO	北川民次 1933	タスコよりの眺望
JO	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟
JO	須田国太郎 1941	夏
JO	香月泰男 1953	散歩
JO	山口 薫 1953	ボタン雪と騎手
JO	鳥海青児 1954	うづくまる
JO	森 芳雄 1954	女たち
JO	金山康喜 1956	静物
JO	脇田 和 1960	断層の人と鳥
JO	麻生三郎 1964	胴体と頭と電球

ロビー、前室など

FO	エドワード・ジョン・ポインター 1891	世界の若かりし頃
JO	稲葉 桂 1965	土にかえるもの 65-1

JO	松本陽子 1993	光は荒野の中に拡散している
FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1908	両手のペートーヴェン
FS	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 1913	恋人たち
FS	アレクサンダー・コールダー 1976	ゴースト (寄託作品)
FS	ヴィルヘルム・レームブルック 1913	立ち上がる青年
FS	ジャコモ・マンズー 1953	踊りのステップ
FS	アレクサンダー・コールダー 1944	片膝ついて
JS	本郷 新 1970	無辜の民「油田地帯」
JS	工藤哲巳 1977	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン
JS	柳原義達 1956	黒人の女
JS	土谷 武 1990	植物空間
JS	久野 真 1962	鉛による作品
JO	櫃田伸也 1982	通り過ぎた風景

8階ロビー

FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1909	ベネローブ
FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1914・15	力
FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1916	勝利
FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1916	雄弁
FS	エミール＝アントワヌ・ブールデル 1916	自由

屋外展示スペースなど

FS	コルネリス・ジットマン 1983	カリブの女
FS	アルナルド・ボモドーロ 1984	飛躍の瞬間
JS	加藤昭男 1986	大地
JS	小田 襄 1988	円柱の構造
JS	今井理郎 1992	大地

■1996年度 第3期 前期 展示作品リスト（11月22日－12月27日）

展示室4

JO	高橋由一 1880頃	不忍池
JO	久米桂一郎 1892	秋景
JO	黒田清輝 1897	暖き日
JO	梅原龍三郎 1909	若き羅馬人
JO	中村 彝 1914	少女裸像
JO	中村 彝 1915頃	静物
JO	坂本繁二郎 1915	海岸の家
JO	木村荘八 1915	壺を持つ女

JO	小出橋重 1918	N婦人像
JO	小出橋重 1925	蔬菜静物
JO	国吉康雄 1920	帽子の女
JO	前田寛治 1925	褐衣婦人像
JO	長谷川利行 1927	酒売場
JO	古賀春江 1927	夏山
JO	村井正誠 1929	ゴルフジュアンの船
JO	小島善太郎 1930	房州風景
JO	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟

JO	須田国太郎 1941	夏
JO	矢橋六郎 1941	武蔵野 冬 杉林
JO	山口 薫 1953	ボタン雪と騎手
JO	香月泰男 1953	散歩
JO	森 芳雄 1954	女たち
JO	桂 ゆき 1954	人と魚
JO	脇田 和 1960	断層の人と鳥
JO	牛島憲之 1962	埋れる船
JO	杉本健吉 1976	正倉院

展示室5

FO	エドゥワール・ヴェイヤール	窓辺の女
FO	アルベール・マルケ	ノートルダムの後陣
FO	バブロ・ピカソ	青い肩かけの女
FO	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)
FO	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺
FO	ピエール・ボナール	子供と猫
FO	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物
FO	エミール・ノルデ	静物L(アマゾン、能面等)
FO	フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開
FO	ジャック・ヴィヨン	存在
FO	ハウル・クレール	女の館
FO	アンリ・マティス	待つ
FO	ジョアン・ミロ	絵画
FO	藤田嗣治	青衣の女
FO	ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I
FO	アンドレ・ボーション	フィアンセを訪ねて
FO	ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
FO	ポール・デルヴォー	こだま
FO	ジャン・デュビュッフエ	二人の脱走兵
FO	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
FO	サム・フランシス	消失にむかう地点の青
FO	ルーチョ・フォンターナ	空間概念
FO	フランク・ステラ	River of Ponds IV

FO	アントニ・タビエス	コンポジション
FD	ジャーコモ・バッラ	太陽の前を通過する水星(習作)
FD	ロバート・ラウシェンバーク	コース
FS	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	恋人たち
FS	ハンス・アルプ	星座
FS	アレクサンダー・コールダー	片膝ついて
FS	ルイズ・ニーヴェルソン	漂う天界
FS	ジム・ダイン	芝刈機
FS	ジョージ・シーガル	ロバート&エセル・スカルの肖像
JO	中西夏之	紫・むらさき XIX
JO	今村幸生	雷神図(寄託作品)
JO	宇佐美圭司	ビッグ・バン
JO	加納光於	繁み・運動・エレメントB
JO	松本陽子	光は荒野の中に拡散している
JO	辰野登恵子	Untitled 95-1

展示室6

JO	瑛九	黄色い花
JO	瑛九	田園(寄託作品)
JO	オノサト トシノブ	三つの黒
JO	難波田龍起	萌
JO	斎藤義重	作品
JO	山口長男	屏形

展示室7、8 小企画「藤井達吉展」

ロビー、前室など

JO	海老原喜之助	雪山と樵
JO	山田正亮	Work No.B 182
JO	島田章三	石庭女人図
JO	佐々木四郎	閉ざされた空間Ⅲ M-5
FS	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年
FS	ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ
JS	柳原義達	黒人の女
JS	本郷 新	無事の民「油田地帯」
JS	土谷 武	植物空間
JS	北山善夫	言葉が輝く時

8階ロビー

FS	エミール＝アントワーン・ブールデル	ベネローブ
FS	エミール＝アントワーン・ブールデル	力
FS	エミール＝アントワーン・ブールデル	勝利
FS	エミール＝アントワーン・ブールデル	雄弁
FS	エミール＝アントワーン・ブールデル	自由

屋外展示スペースなど

FS	コルネリス・ジットマン	カリブの女
FS	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間
JS	加藤昭男	大地
JS	小田 襄	円柱の構造
JS	今井瑾郎	大地

■1996年度 第3期 後期 展示作品リスト（1997年1月4日－1月26日）

展示室4.5.6は前期と同じ								
展示室7								
FS	オーギュスト・ロダン 1900	歩く人	JS	中原悌二郎 1914	エチュード	FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 海
JS	萩原守衛 1907	女の胴	JS	中原悌二郎 1919	憩える女	FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 ヘそ
JS	戸張狐雁 1910	をなご(頭部)	JS	中原悌二郎 1919-21	平櫛田中像	FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 ヘそーびん
JS	戸張狐雁 1911	立てる女	展示室8			FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 ひげー時計
JS	戸張狐雁 1922	トルソ	FP	フランシス・ピカビア 1921-22	糸巻き	FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 卵ーラケット
JS	戸張狐雁 1924	煌めく嫉妬	FP	ラースロー・モホリ＝ナジ 1923	無題	FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 数字の8
JS	戸張狐雁 制作年不詳	女の面部	FP	ラースロー・モホリ＝ナジ 1922-23	コンストラクション	FP	フランティシェク・クプカ 1926	白と黒の4つの物語
JS	戸張狐雁 制作年不詳	立てる女	FP	ラースロー・モホリ＝ナジ 1922-23	コンストラクション	FP	マンレイ 1972(1926)	回転屏
			FP	ラースロー・モホリ＝ナジ 1922-23	コンストラクション	ロビー、前室、8階ロビーその他は前期と同じ		
FP	ハンス・アルプ 1923	七つのアルプ集 ひげー帽子						

■1996年度 第4期 展示作品リスト（1997年2月8日－3月23日）

展示室3								
FI	朴 炫基 1995	ブルー ダイニング テーブル	JO	安井曾太郎 1938	承德喇嘛廟	JO	桂 ゆき 1954	人と魚
展示室4			JO	岸田劉生 1915	高須光治君之肖像	JO	鬼頭鍋三郎 1954	マドモアゼルM
JO	高橋由一 1878頃	厨房具	JO	木村莊八 1915	壺を持つ女	JO	須田国太郎 1941	夏
JO	高橋由一 1880頃	不忍池	JO	国吉康雄 1920	帽子の女	JO	野見山暁治 1954頃	人(男)
JO	久米桂一郎 1892	秋景	JO	神原 泰 1924	生命の流動	JO	尾藤 豊 1956-60	拠点の崩壊
JO	黒田清輝 1897	暖き日	JO	小出楯重 1925	蔬菜静物	JO	鳥海青児 1961	石の街(ペルー マチュ・ピチュ)
JO	梅原龍三郎 1909	若き羅馬人	JO	前田寛治 1925	褐衣婦人像	JO	吉仲太造 1964	遺産
JO	山下新太郎 1909	白耳義の少女	JO	長谷川利行 1927	酒売場	JS	萩原守衛 1907	女の胴
JO	中村 彝 1914	少女裸像	JO	古賀春江 1927	夏山	JS	中原悌二郎 1919	憩える女
JO	安井曾太郎 1912頃	婦人像	JO	里見勝蔵 1930	裸婦	JS	戸張狐雁 1924	煌めく嫉妬
			JO	野口弥太郎 1931頃	門	JS	高田博厚 1937	女のトルソ

展示室5

FO	エドゥワール・ヴェイヤール 1898	窓辺の女
FO	アルベール・マルケ 1902	ノートルダムの後陣
FO	パブロ・ピカソ 1902	青い肩かけの女
FO	グスタフ・クリムト 1903	人生は戦いなり(黄金の騎士)
FO	ラウル・デュフィ 1906	サンタドレスの浜辺
FO	ピエール・ボナール 1906頃	子供と猫
FO	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー 1912	グラスのある静物
FO	エミール・ノルデ 1915	静物I(アマゾン、能面等)
FO	フランティšek・クプカ 1919	灰色と金色の展開
FO	ジャック・ヴィヨン 1920	存在
FO	パウル・クレー 1921	女の館
FO	アンリ・マティス 1921-22	待つ
FO	ジョアン・ミロ 1925	絵画
JO	藤田嗣治 1925	青衣の女
FO	ライオネル・ファイニンガー 1927	夕暮れの海 I
FO	ベン・ニコルソン 1933	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)
FO	ニコラ・ド・スタール 1948	コンポジション
FO	アド・ラインハート 1950	No.114
FO	ジャン・デュビュッフェ 1953	二人の脱走兵
FO	マックス・エルンスト 1954	ポーランドの騎士
JO	瑛九 1957-58	黄色い花
FO	サム・フランシス 1958	消失にむかう地点の青
JO	山田正亮 1958	Work No.B 182

JO	元永定正 1961	作品
JO	斎藤義重 1962	作品
JO	荒川修作 1963	作品
JO	白髪一雄 1963	作品
JO	菅井 汲 1964	ナショナル・ルートNo.11
JO	猪熊弦一郎 1966	マンハッタンA
JO	桑山忠明 1968	茶白青
FO	フランク・ステラ 1969	River of Ponds IV
FO	アンディ・ウォーホル 1975	レディース・アンド・ジェントルメン
JO	浅野弥衛 1979	作品
JO	百瀬 寿 1987	Square:NE XIV:Twelve Stripes E
FD	ジャーコモ・バッタ 1914	太陽の前を通過する水星(習作)
FO	クルト・シュヴィッターズ 1921	メルツ絵画52、美容
FS	オーギュスト・ロダン 1900	歩く人
FS	レイモン・デュシャン＝ヴィヨン 1913	恋人たち
FS	ケーテ・コルヴィッツ 1913	恋人たち II
FS	エルンスト・バルラッハ 1920	母なる大地 II
FS	アレクサンダー・コールダー 1944	片膝ついて
FS	ルイズ・ニーヴェルソン 1956-66	漂う天界
FS	イヴ・クライン 1962	肖像レリーフ アルマン
FS	ジョージ・シーガル 1965	ロバート&エセル・スカルの肖像
JS	秋山 陽 1990	Pho II

展示室6

FI	陸 根内 1995	Sound of Landscape+ Eye for Field=Survival is History
----	--------------	---

展示室7

JJ	村上華岳 1939	散華
FP	フランツ・ゲルチュ 1987-88	ナターシャ IV
FP	ヴォルス 1962P	ヴォルス作品集
JP	永瀬義郎 1930	馬來美人図
JP	恩地孝四郎 1934	ワグネルの2楽曲による抒情、山田耕作“おやすみなさい”
JP	長谷川 潔 1925	プロヴァンスの古市(ガラス)
JP	長谷川 潔 1929	サン・ポール・ド・ヴァンスの村
JP	長谷川 潔 1930	アネモネ
JP	長谷川 潔 1930	摩天楼上空のボアン・ダンテロガシオン号
JP	長谷川 潔 1931	野の枯草
JP	長谷川 潔 1932	コクリコと野花(B)
JP	長谷川 潔 1932	オランジュと葡萄
JP	長谷川 潔 1932	シャトー・アルヌーの寺院
JP	長谷川 潔 1934	二つのアネモネ
JP	長谷川 潔 1935	コップのダリア
JP	長谷川 潔 1936	サン・ポール・ド・ヴァンスの風景
JP	長谷川 潔 1937	三つのアネモネ
JP	長谷川 潔 1941	一樹(ニレの樹)
JP	長谷川 潔 1944-45	花(切りガラスに挿したアネモネと草花)
JP	長谷川 潔 1952	フレジュスの古代ローマの燈台
JP	長谷川 潔 1954	アカシアの老樹
JP	長谷川 潔 1954	木と月
JP	長谷川 潔 1956	再生したる林檎樹

展示室8			
FO	アメデオ・モディリアーニ	カリアティード	
	1911-13		
FO	ジョージア・オキーフ	抽象 第6番	
	1928		
JO	木下孝則	読書	
	1931		
JO	田淵安一	有機的表象	
	1955		
JO	田淵安一	姪女たち	
	1964		
JO	池田龍雄	黒い機械	
	1956		
JO	笠井誠一	ウクレレと冬瓜とグロサリオのある卓上静物	
	1995		
FO	アレクサンダー・アーチペンコ	歩く女	
	1912		
FO	ハンス・アルプ	森	
	1917		
JD	安斎重男	The 10th Tokyo Biennale, Tokyo Metropolitan Museum, May 1970	
	1996/1993		

ロビー、前室など

JS	出原次朗	逃げるものはとじこめる	
	1993		

JS	山口勝弘	ヴァトリース	
	1955		
JS	山口勝弘	港 No.2	
	1967		
FS	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	
	1913		
FO	モーリス・ルイス	デルタ・ムー	
	1960-61		
FS	ジョルジュ・ミンヌ	聖遺物箱を担ぐ少年	
	1897		
FM	フランシスコ・デ・ゴヤ	ロス・カブリーチョス	
	1881-86		
JO	今村幸生	Ténèbles des MUMUYE	
	1995		
JJ	岡村桂三郎	白虎	
	1992		
JJ	岡村桂三郎	朱雀	
	1993		

8階ロビー

FS	エミール＝アントワース・ブールデル	ベネローブ	
	1909		
FS	エミール＝アントワース・ブールデル	力	
	1914-15		
FS	エミール＝アントワース・ブールデル	勝利	
	1916		

FS	エミール＝アントワース・ブールデル	雄弁	
	1916		
FS	エミール＝アントワース・ブールデル	自由	
	1916		

屋外展示スペースなど

FS	コルネリス・ジットマン	カリブの女	
	1983		
FS	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	
	1984		
JS	加藤昭男	大地	
	1986		
JS	小田 襄	円柱の構造	
	1988		
JS	今井瑾郎	大地	
	1992		

小企画展(テーマ展示) Small Display from the Collections

開館以来、所蔵作品展示エリアの一部を用いて、特定のテーマに基づく小企画展を年間2～4回ほど開催している。これは必ずしも所蔵作品によらず、20世紀美術史上重要な作家や運動、現代美術の新しい動向などを簡潔・敏捷に紹介したり、学芸員の調査研究活動を展示により発表する場として企画されている。

本年度は下記の4展をおこなった。

1 アンドリュー・ワイエスの世界

96/07/26・96/09/23 (第2期所蔵作品展 前期)

2 デイヴィッド・スミス版画展

96/07/26・96/09/23 (第2期所蔵作品展 前期)

3 千崎千恵夫展

96/09/27・96/11/10 (第2期所蔵作品展 後期)

4 藤井達吉展

96/11/22・96/12/27 (第3期所蔵作品展 前期)

アンドリュー・ワイエスの世界 The World of Andrew Wyeth

(1996年7月26日～9月23日：展示室4)

担当：高橋秀治

1995年に企画展として開催した「アンドリュー・ワイエス展」のために作品を借用した所蔵先のひとつから、展覧会出品作15点を含むワイエスの作品26点のコレクションの寄託を受けた。この作品群は1976年の「アンドリュー・ワイエスの二つの世界」展（メトロポリタン美術館）が開催されるきっかけともなった旧ジョセフ・レヴィーン・コレクションである。

その内容を見ていくと彼の制作活動の柱ともいえるテンペラ作品と特徴的な技法のドライブラッシュの作品、そして水彩や下絵的な作品とバラエティに富んでいて、ワイエスの世界を知る上で格好の材料を提供してくれている。具体的にはワイエスの代表作とも言える《さらされた場所》《オルソン家の終わり》などのテンペラや、水彩画の一技法であるドライブラッシュの《フィンランド人》などを含んでいる質の高いコレクションである。

また、描かれている主題も、ワイエスのこれまでの活動を紹介する上でたいへんまとまりの良いものである。それは、ワイエスが生まれ故郷であるペンシルヴェニア州チャズ・フォードと夏の家のあるメイン州クッシング以外で過ごすことはなく、あくまで自分の身近な風景や人物を飽きることなく繰り返し描き続けてきており、このコレクションにはそれぞれの地での重要なモデルであったカーナー家とオルソン家に関連した作品がほぼ半数ずつ含まれているということからである。

これらの作品を展示点数と展示レイアウトの関係と同時に開催していた企画展「アメリカ美術の黄金期—抽象表現主義展」から所蔵作品展の受付をはさんで続けて見られるように、通常テーマ展で使用する6室ではなく4室に場所を替えて展示した。このことによって戦後美術の中心的な流れである抽象表現主義の動きとともにアメリカ美術の広がりを感じさせる展示効果を生み出すことを意図した。

広報でも企画展とは別にこのワイエスを表面にした所蔵品展を紹介するチラシを作り、新聞に折込にするなど力を入れた取り組みをした結果、観客数としてはそれほどでもなかったが、熱心な愛好者が来館したり、かなり遠方からの問い合わせも度々あった。

小冊子：A5判 4色16ページ

編集 高橋秀治

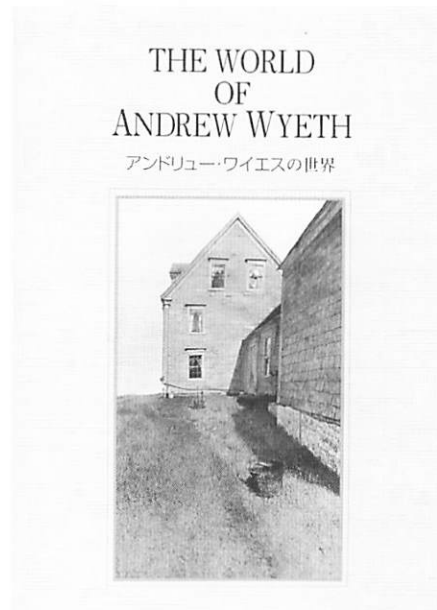
制作 栄印刷

発行 愛知県美術館

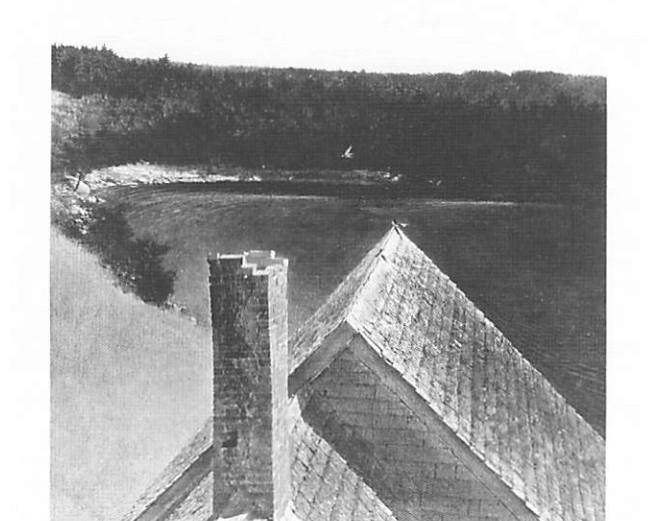
主要関連記事

【新聞】

井上昇:「生のはかなさと温かさ」『中日新聞』夕刊1996年8月12日



小冊子表紙



この展覧会は、愛知県美術館蔵の「ジョセフ・レヴィーン・コレクション」から、ワイエスの作品26点を展示する。このコレクションは、ワイエスの代表作とも言える《さらされた場所》《オルソン家の終わり》などのテンペラや、水彩画の一技法であるドライブラッシュの《フィンランド人》などを含んでいる。また、描かれている主題も、ワイエスのこれまでの活動を紹介する上でたいへんまとまりの良いものである。それは、ワイエスが生まれ故郷であるペンシルヴェニア州チャズ・フォードと夏の家のあるメイン州クッシング以外で過ごすことはなく、あくまで自分の身近な風景や人物を飽きることなく繰り返し描き続けてきており、このコレクションにはそれぞれの地での重要なモデルであったカーナー家とオルソン家に関連した作品がほぼ半数ずつ含まれているということからである。

企画展 アメリカ現代絵画の黄金期 1966年7月26日(金)～9月16日(月・祝)(休日)
結果発表土曜展
同時開催テーマ展 デイヴィッド・スミス版画展 1996年7月26日(金)～9月23日(日・祝)

B1ポスター

デイヴィッド・スミス版画展 David Smith : The Graphic Work

(1996年7月26日～9月23日：展示室6)

担当：村上博哉

「抽象表現主義展」の開催に併せ、抽象表現主義の画家たちとほぼ同世代に属するアメリカの彫刻家デイヴィッド・スミス(1906ー1965)の版画作品を紹介した。1920年代末から1950年代初めまでの間に制作されたスミスの版画作品は、ごく単純な技法による試作であって、完成度は決して高いとは言えないが、そこには彼がヨーロッパ美術のさまざまな傾向を土台にして独自の芸術を模索していた過程をたどることができる。1930～1940年代の銅版画に認められるのは、キュビズムの人物像を有機的な構造体へと変容させる試みである。また、躍動する人間や動物の姿をマティスのデッサンのように簡潔な線によってとらえた作例もある。一方、1950年代のリトグラフは、無作為に走らせた筆線の動きから何らかのイメージのきざしが表れてくる過程をとどめており、シュルレアリスムの「自動記述」の概念に基づいて、意識下の領域から根源的なエネルギーを呼び覚まそうとする意図がうかがわれる。このシュルレアリスムの概念は、1940年代のアメリカ美術界に大きな影響を及ぼし、ポロック、ゴースキー、マザウェルらが抽象表現主義絵画への道を切り開くうえでも、きわめて重要な原動力となった。

この小展示は版画14点に、参考作品として油彩画、彫刻各1点を加えて構成された。なお、開催にあたりアキライケダギャラリーの協力を得た。

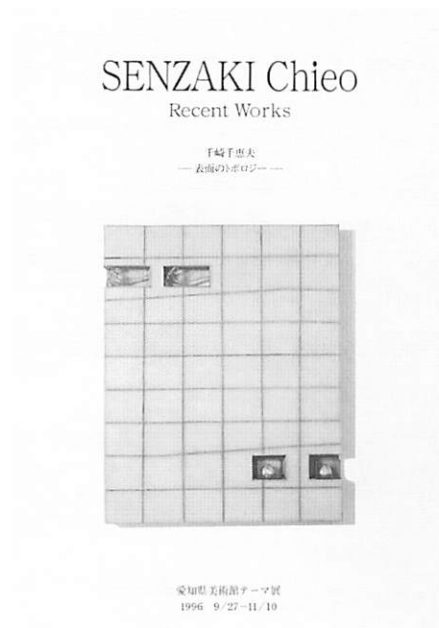
1 無題	1928年	リノカット
2 無題	1934年	エッチング
3 レスラー	1934年頃	エングレーヴィング
4 無題	1935年	エッチング
5 サン・ジャック通り	1935年	エッチング、 エングレーヴィング
6 バレー	1941年	エッチング
7 闘鶏	1946年頃	ソフトグラウンド ・エッチング、エッチング
8 ドン・キホーテ第2ステート	1952年	リトグラフ
9 テント	1952年	リトグラフ
10 無題	1952年	リトグラフ
11 漁港	1952年	リトグラフ、手彩色
12 文字	1952年	リトグラフ
13 無題	1952年	リトグラフ
14 無題(家族)第2ステート	1954年	リトグラフ
15 チャイニーズ・レストラン	1959年	油彩・麻布
16 無題	1955年	鉄

千崎千恵夫 ―表面のトポロジー― Senzaki Chieo Recent Works

(1996年 9月27日～11月10日：展示室 6)

担当：牧野研一郎

千崎千恵夫は1980年代はじめから一貫して〈人の営み〉(あるいは〈文化〉)と〈自然〉(あるいは〈物質〉)との接点に立ち現れる形相を、身体感覚を開き、物質を媒介にして探求している作家である。リールでの展覧会(1987)では夥しい数の木の枝を螺旋状に編んで美術館の建物を覆い、ケルンでは教会堂の内部を木の枝で塞いだ。こう書くと、何か凶々しい自然によって人間の営みが脅かされるかのような印象を与えるが、実際はそれらの建築と自然との内的なつながりを人々に感じさせ、千崎によって創出された空間は、自然と人間とが本来一体のものとして在ったことを窺わせるものであったという。1990年代に入ると、千崎はそれまでに用いてきた素材に加えてパラフィン・ワックスを用いて制作するようになった。森を撮して写真のうえにパラフィンを塗り重ねた作品、パラフィンの平面に枝を組み込んだ作品、小枝をはめこんだ窓を持つ四周をパラフィンの壁に囲まれた家など、パラフィンという素材を用いることで象徴的な語法へとその作風を変化させてきてはいるが、千崎の関心は依然として自然と人間との接点を見だし、セザンヌの以後のすぐれた芸術家がそうであったようにそれを新たな造形の語彙で語る事にあると言ってよいであろう。今回の展覧会は、新作を中心にして、'90年代以降の千崎の仕事をこの地域に初めて紹介するものであったが、難解な作風もあってか、この反響は大きなものではなかった。



小冊子表紙

小冊子：B5判変形三折 6 ページ

編集 牧野研一郎

出品作品：

- 1 無題 Untitled 1992年
ワックス、合板、和紙、写真、ブリキ缶、ガラス板、種
205×332×10cm
- 2 イエローバンド Yellow Band 1993年
ワックス、合板、小枝
132×107×10cm
- 3 系-2 Lineage-2 1994年
ワックス、合板、ガラス、球根
123×98×10cm
- 4 表面のトポロジー Topology of Surface 1996年
ワックス、木、鉄、小枝
340×360×225cm

近代工芸の前衛 藤井達吉展 Tatsukichi FUJII Exhibition

(1996年11月22日～12月27日：展示室7・8)

担当：木本文平

企画協力：東京国立近代美術館

制作：印象社

発行：東京国立近代美術館／愛知県美術館

日本の工芸の近代化に多大な役割を果たした藤井達吉（1881-1964）の創作活動は、七宝、金工、木工、染織、漆工、陶器といった工芸全般にわたり、さらにデザイン、絵画など幅広い分野でも活躍をみせた。とくに、大正時代、狭い専門的分野に閉じ込められ、その中で精緻な技巧を見せようとする工芸家たちの、旧態依然とした技術偏重の行き方に疑問を感じた彼は、生活との結びつきを大切にし、その中で、工芸家の創作性を発揮すべきことを提唱し、日本の工芸を芸術として確立させようとした作品を発表した。その藤井の活動は後進の工芸家たちに少なからぬ影響を与え、大正末から昭和初期にかけての工芸の世界に、大きな展開をもたらしたのであった。

東京国立近代美術館（工芸館）との共同企画として開催した今回の小企画展では、彼の多彩な活動の中でも、とくに大正時代の工芸に焦点を絞り、この時期藤井の最大のパトロンであった芝川照吉のコレクションのなかから、守旧的な当時の工芸を近代化しようと、自由な発想によって制作した屏風、箱、盆、壁掛けなどさまざまな作品を展示した。

時代の美意識を表現し、現代の工芸にも大きな影響を与えながら、これまであまり顧みられなかった藤井達吉の、近代工芸史上における位置についてあらためて検証しようとする試みであった。

出品点数：工芸作品38点（東京国立近代美術館工芸館では42点展示）

展覧会カタログ A4版変形（28.5×22.6cm）62page

テキスト：白石和己「新しい工芸を求めて―大正時代の藤井達吉」

木本文平「藤井達吉と芝川コレクション」

図版

出品リスト

藤井達吉 略年譜（木本文平）

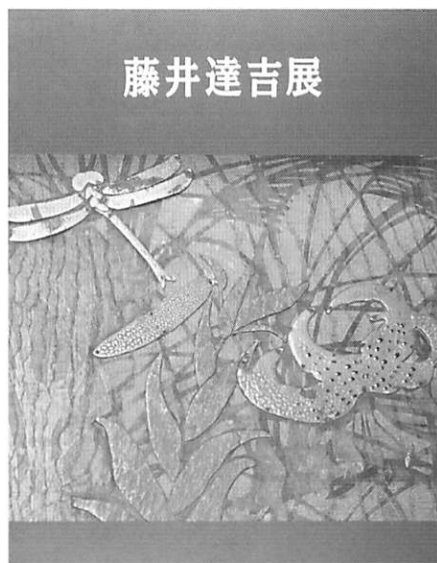
参考文献（今井陽子）

編集：東京国立近代美術館 白石和己、今井陽子

愛知県美術館 木本文平

テキスト英訳：勝矢桂子

作品撮影：鈴木良一



カタログ表紙

企画展 Temporary Exhibitions

愛知県美術館では、収集方針として20世紀美術の系統的なコレクション形成を掲げているが、企画展に関しては、コレクションの性格に沿ったものを中心としつつ、より幅広い時代や分野のものも取り上げることにしている。そうしたことを念頭におき、1996年度は5つの企画展を開催した。20世紀初頭の重要な画家としてカンディンスキーとミュンターを、第二次大戦後の美術運動として1950年代アメリカの抽象表現主義を取り上げた。日本の近・現代美術に関しては、幕末から大正末にかけて活動し「最後の文人画家」と称される富岡鉄斎と、大正から渡米し昭和初期にメキシコで画風を確立した北川民次という、それぞれ美術史上特異な位置を占める画家を取り上げた。また、コレクションの枠を越えた時代・分野のものとして大英博物館所蔵品によるルネサンスからバロック期のイタリア素描展を開催した。

	展覧会名	会 期
1	ルネサンスからバロックへ 大英博物館イタリア素描展 Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum	96/04/19－96/05/26
2	抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期 Abstract Expressionism	96/07/26－96/09/16
3	富岡鉄斎展－理想郷を語る－ Tomioka Tessai Retrospective	96/09/27－96/11/10
4	北川民次展－愛と人間をえがく－ Kitagawa Tamiji Retrospective	96/11/22－97/01/26
5	カンディンスキー&ミュンター 愛と創造の日々 1901－1917 Wassily Kandinsky & Gabriele Munter 1901－1917	97/02/08－97/03/16

大英博物館所蔵 イタリア素描展 Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum

会期：1996年4月19日(金)～1996年5月26日(日) 33日間

主催：愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

後援：ブリティッシュカウンシル／愛知県・岐阜県・三重県・
名古屋市各教育委員会／JR東海

協賛：東京海上

協力：日本航空

観覧料：一般1,100円、高校・大学生800円、小中学生500円

(前売・団体は各200円引)

担当：栗田秀法／村田真宏

内容：

イタリアでは15世紀の初期ルネサンスを通じて、ペンやチョークを用いた素描芸術が急速に発達し、この興隆は16世紀初頭の盛期ルネサンスに頂点に達して、さらにマニエリスム、バロック時代へと新たな展開を見せた。心中に浮かんだアイデアを最初に定着する素描こそが、絵画、彫刻、建築などすべての芸術の基盤であると考えられたのであり、素描芸術は19世紀に至るまでのヨーロッパ美術の根幹をなすことになったのである。ヨーロッパで素描芸術が最も大きく花開いたこの時代のイタリア素描については、「ウフィッツィ美術館所蔵 17世紀イタリア素描展」(1987)「オックスフォード大学クライスト・チャーチ美術館所蔵 フィレンツェ・ルネサンス素描展」(1994) などである程度まとまって紹介されたことがある。今回の展覧会はヨーロッパ素描芸術の宝庫としても知られる大英博物館素描部の膨大なコレクションの中から100点を選び抜き、イタリアの盛期ルネサンスからバロックにかけてのイタリア素描全体の流れをわが国ではじめて包括的に紹介した展覧会といえるものであった。

またこの展覧会は、「聖なるかたち」展に続く国立西洋美術館との2度目の共同企画で、企画の端緒は西洋美術館のイタリア美術を専攻する学芸スタッフと大英博物館の学芸スタッフとの学芸的な交流から生まれたものである。作品は大英博物館側の提示リストに日本側からの若干の変更希望を反映させることで決定された。この分野の展覧会には異例なことに、作品解説はほぼすべて日本側で執筆され、当館もその3分の1ほどを分担執筆した。また別冊英文小冊子を刊行することできわめてささやかながら日本側から学術的な貢献をなそうとした。

展示に当たっては、大部分の作品が完成作のための準備素描であったので、完成作の写真と簡単なコメントをキャプションに加えることによって鑑賞の便宜をはかった。

レオナルド、ミケランジェロ、ラファエッロという盛期ルネサンスの三大巨匠の名作が含まれていたこともあって、地味な

ルネサンスからバロックへ

大英博物館所蔵イタリア素描展

Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum



レオナルド・ダ・ヴィンチ ミケランジェロ ラファエッロ ウェロネーゼ カラッチ ペルティニ 巨匠たちの妙技

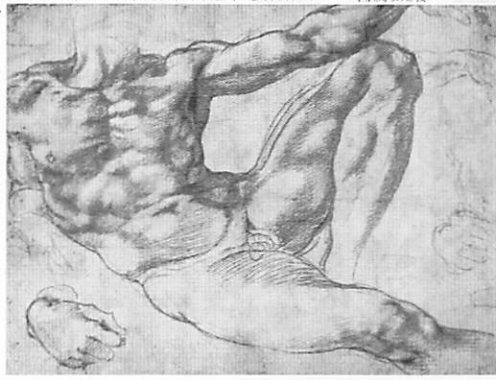
1996年4月19日(金)～5月26日(日) 愛知県美術館 愛知芸術文化センター1階
Aichi Prefectural Museum of Art

※ 愛知美術館 中庭(土曜・日曜) 無料 ※ 愛知美術館 中庭(土曜・日曜) 無料 ※ 愛知美術館 中庭(土曜・日曜) 無料 ※ 愛知美術館 中庭(土曜・日曜) 無料 ※ 愛知美術館 中庭(土曜・日曜) 無料

B1ポスター

Italian 16th and 17th Century Drawings from the British Museum

大英博物館所蔵イタリア素描展



1996年4月19日(金)～5月26日(日) 愛知県美術館

B3ポスター

内容の展覧会としては比較的に多くの観客を集めた。さらに、機会があれば大英博物館素描部との第2回の展覧会を実現できればと考えている。

展覧会カタログ：B5判変形（24.5×19.5cm）274ページ

〈16世紀〉

テキスト 越川倫明（国立西洋美術館主任研究官）

「イタリア16世紀美術の展開と素描」

カタログ （作品解説：越川、マルツィア・ファイエッティ／越川訳）

中部イタリアⅠ：盛期ルネサンス

中部イタリアⅡ：初期マニエリスムから盛期マニエリスムへ

中部イタリアⅢ：盛期マニエリスムから後期マニエリスム、先駆的バロックへ

エミリア派と他の北イタリア諸派

ヴェネツィア派

〈17世紀〉

テキスト 栗田秀法「バロック美術の展開と素描」

カタログ（作品解説：栗田／越川）

初期バロック：ボローニャとローマ

盛期バロックの主役たち

ローマ：盛期バロックから後期バロックへ

ローマ外の諸派

用語解説：素描の材料と技法（小西通恵編）

参考文献（堀ひかり編）

所蔵番号・カタログ番号対照表

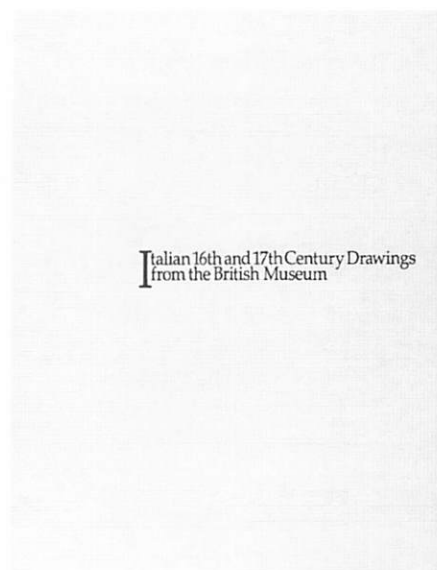
編集 越川倫明、栗田秀法

デザイン 桑畑吉伸

制作 コギト

発行 東京新聞

別冊英文作品解説：B5判変形（24.0×19.0cm）



カタログ表紙

関連事業

連続講演会 「魅惑のイタリア芸術」

4月20日 ヒューゴー・チャップマン

（大英博物館版画素描部イタリア素描担当学芸員）

「イタリア素描の技法、歴史、機能」

4月27日 越川倫明（国立西洋美術館主任研究官）

「ヴェネツィア絵画と中部イタリアの美術」

4月28日 長尾重武（武蔵野美術大学教授）

「万能の天才とルネサンスー建築家としてのレオナルド、ミケランジェロ、ラファエッロをめぐって」

5月11日 小佐野重利（東京大学教授）

「ルネサンス君公の宮廷と美術ーフィレンツェ、フェラーラ、マンドヴァを中心に」

5月18日 坂本満（聖徳大学教授）

「だまし絵の系譜ーバロック天井画の世界」

5月19日 戸口幸策（成城大学教授）

「イタリア音楽の流れー16・17世紀を中心に」

総入場者数： 30,973人（1日平均入場者数：938人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
国立西洋美術館	1996年2月6日～4月7日	69,115人	1,285人

主要関連記事

【定期刊行物】

越川 倫明：「大英博物館所蔵イタリア素描展」

『うえの』1996年3月号

加藤磨珠枝：「ルネサンスからバロックへー大英博物館所蔵イ

タリア素描展」『日経アート』1996年4月号

末吉 雄二：「カタログと展覧会のはるかなるギャップ 大英

博物館所蔵イタリア素描展」

『美術手帖』1996年6月号

栗田 秀法：「〈素描〉対〈色彩〉」『AAC』1996年春号

【新聞】

高階 秀爾／若桑みどり／越川倫明／栗田秀法／石鍋真澄

：「イタリア素描展から(1)～(5)」

『東京新聞』夕刊、1996年2月

匿名：「巨匠の作品がずらり 大英博物館所蔵イタリア

素描展」『信濃毎日新聞』、1996年2月16日

越川 倫明：「大英博物館所蔵イタリア素描展から」

『東京新聞』夕刊、1996年3月21日（『中日新聞』夕刊、5月10日）

高階 秀爾：「イタリア素描展から(1) レオナルド・ダ・ヴ

ィンチ」『中日新聞』夕刊、1996年4月20日

若桑みどり：「イタリア素描展から(2) ミケランジェロ」

『中日新聞』夕刊、1996年4月21日

島田 章三：「イタリア素描展から(3) ラファエッロ」

『中日新聞』夕刊、1996年4月22日

川上 実：「イタリア素描展から(4) ルドヴィーコ・カラ

ッチ」『中日新聞』夕刊、1996年4月23日

長谷川三郎：「イタリア素描展から(5) グエルチーノ」

『中日新聞』夕刊、1996年4月24日

井上 昇治：「巨匠の息づかい 欧州素描の宝庫」

『中日新聞』夕刊、1996年5月13日

長谷川三郎：「精神性と学術性を両立」

『日本経済新聞』地方版夕刊、1996年5月17日

竹葉 丈：「未完成ゆえにふくらむ『想像』」

『朝日新聞』地方版朝刊、1996年5月24日

Mary Fujimaki："Two hundred years of exactitude", *The Japan Times*, February 17, 1996

Julia Cassim："Italiam drawings a return to basics", *The Japan Times*, May 26, 1996

抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期 Abstract Expressionism

会期：1996年7月26日(金)～1996年9月16日(月・祝) 46日間

主催：愛知県美術館／中日新聞社

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

協賛：安田火災

協力：日本航空

企画協力：アクアペラ画廊

観覧料：一般1,100円、高校・大学生800円、小中学生500円

(前売・団体は各200円引)

担当：古田浩俊／牧野研一郎

内容：

抽象表現主義は、第二次世界大戦後の1940年代から50年代にかけて、アメリカで隆盛し、まさに戦後美術の出発点にもなった美術の一潮流である。抽象表現主義やそれに関わった画家は日本でも様々な展覧会で紹介されてきていたが、抽象表現主義の最盛期の作品をまとめた形で紹介したのは、この展覧会が初めてであった。第一世代の画家からはウィレム・デ・クーニング、アーシル・ゴークー、フィリップ・ガストン、ハンス・ホフマン、フランツ・クライン、ロバート・マザウェル、パーネット・ニューマン、ジャクソン・ポロック、アド・ラインハート、マーク・ロスコ、クリフォード・スティルの11人を選定し、先駆的な仕事をしたマーク・トビーや第二世代のリチャード・ディーベンコーンとサム・フランシスをこれに加え、計16人の画家の1950年代のを中心とする作品約70点で最盛期の抽象表現主義を紹介した。これまで最盛期の抽象表現主義の作品をまとめて紹介する展覧会が日本で開催されていなかったという点で、十分に意義のある展覧会であった。

展覧会カタログ：B4判変形(32.6×26.5cm) 252ページ

テキスト アーヴィング・サンドラー「抽象表現主義」
(古田浩俊訳)

是枝 開(セゾン美術館)

「模倣=解体の連鎖と集積—抽象表現主義の胎動期」

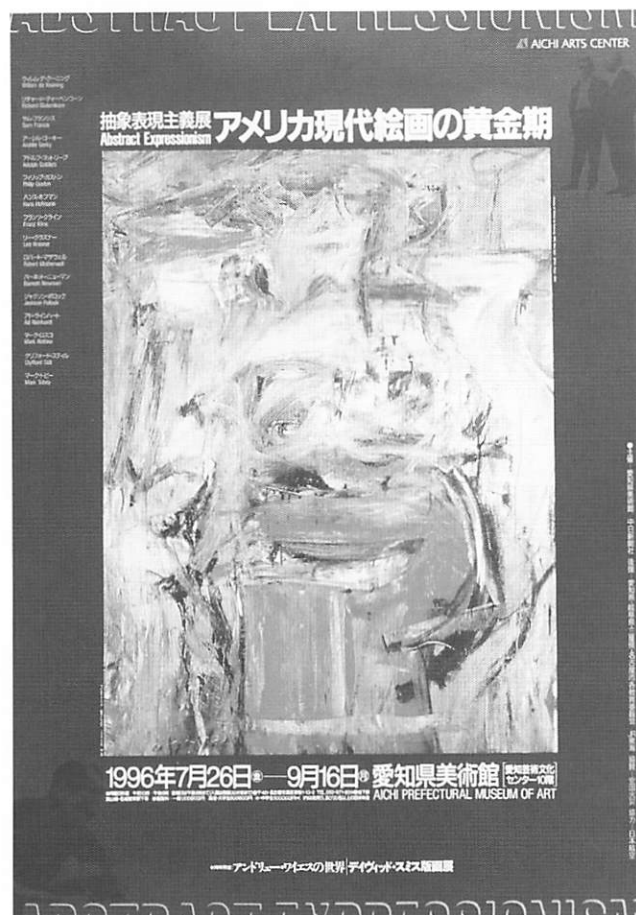
古田浩俊「アド・ラインハートと抽象表現主義」

出原 均(広島市現代美術館)

「日本における抽象表現主義の受容」

カタログ (作家解説：是枝 開、牧野研一郎、古田浩俊、出原 均)

関連年表 牧野研一郎



B1ポスター



B3ポスター

邦語文献 鯨井秀伸
論文英語原文
論文英訳（翻訳：小川紀久子）
主要欧文文献（古田浩俊編）
編集 牧野研一郎、古田浩俊
デザイン 大淵真市
制作 コギト
発行 愛知県美術館／中日新聞社

関連事業

講演会 7月27日（土）13:30～15:00
演題：「抽象表現主義絵画の見方」
講師：本江邦夫（東京国立近代美術館美術課長）
講演会 8月3日（土）13:30～15:00
演題：「行為と感情－ニューヨーク派の冒険－」
講師：建畠 哲（多摩美術大学教授）

総入場者数：19,005人（1日平均入場者数：413人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
セゾン美術館	1996年6月6日～7月14日	21,048人	569人
広島市現代美術館	9月29日～11月17日	9,443人	189人

主要関連記事

【定期刊行物】

難波 英夫：「闘争的で緊張感あふれる作品群」『週刊エコノミスト』1996年7月号
藤枝晃雄、神林恒道：「抽象表現主義再考」『美術手帖』1996年9月号

【新聞】

大岡 信：「肉体による精神的希求－『抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期』に寄せて」
『東京新聞』1996年6月21日夕刊
是枝 開：「新しい『絵画空間』の出現」
『東京新聞』1996年6月5日夕刊
山本 容子：「ウィレム・デ・クーニング、無題 抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期・1」
『東京新聞』1996年6月10日夕刊
宇佐美圭司：「アーシル・ゴーキー、バージニアの暖炉 抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期・2」
『東京新聞』1996年6月11日夕刊
藤枝 晃雄：「リー・クラズナー、入口 抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期・3」

『東京新聞』1996年6月12日夕刊

安部 譲二：「ジャクソン・ポロック、フリーズ 抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期・4」

『東京新聞』1996年6月13日、17日夕刊

川田都樹子：「アド・ラインハート、No.104 抽象表現主義展 アメリカ現代絵画の黄金期・5」

『東京新聞』1996年6月18日夕刊

Julia Cassim: "From Pollock's mad splatters to Rothko's sublime colors," in:

The Japan Times, June 30, 1996, p.13

古田 浩俊：「戦後美術の先駆者たち 圧倒的な迫力で存在を誇示」『中日新聞』1996年7月22日夕刊

長谷川三郎：「《抽象表現主義展》 細部にも意味・価値」『日経新聞』1996年8月9日夕刊

藤枝 晃雄：「抽象表現主義絵画について」

『中日新聞』1996年8月16日夕刊

（太）：「アメリカ現代絵画の黄金期－抽象表現主義展－初の大規模な展覧会」『京都新聞』1996年8月17日朝刊



カタログ表紙

富岡鉄斎展—理想郷を語る— Tomioka Tessai Retrospective

会期：1996年9月27日(金)～1996年11月10日(日) 39日間

(前期：9月27日～10月20日、後期：10月22日～11月10日)

主催：愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

企画協力：鉄斎美術館

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

専門委員：内山武夫(東京国立近代美術館次長)

坂本光謙(清荒神清澄寺法主)

鶴田武良(東京国立文化財研究所美術部長)

原田平作(大阪大学教授)

村越英明(鉄斎美術館長)

観覧料：一般1,000円、高校・大学生700円、小中学生400円

(前売・団体は各200円引)

担当：木本文平／深山孝彰／ 坂下雄彦(前 美術課長)

内容：

天保七年(1836)京都に生まれた富岡鉄斎は、幼少時から学問を志して国学や儒学、仏教などを学ぶとともに、書画や詩文を深くたしなんだ。幕末に勤王学者として国事に奔走した頃から絵画によっても世に知られ、維新後は神官の公職を経て、大正十三年(1924)大晦日に数え89歳で亡くなるまで、在野の文人として生涯を送った。学識を高め人格を磨きつつ、日本全国を踏破した鉄斎の姿は、専門画家の技巧に対して精神性の高い<文人画>を提唱した中国明代の文人董其昌の言葉「万卷の書を読み万里の道を徂く」を実践するものといえ、<最後の文人画家>と呼ばれるにふさわしいものであった。

鉄斎は流派を問わず広く古画から学びながら、既存の様式にとらわれない自在な画境を拓いた。そして、和漢の古典籍に画題を求めながらも、のびやかな運筆と明るい色彩に満ちた画面はユーモアをもたえ、深遠な理想の世界を親しみやすく実在感豊かに語りかけるかのようである。また鉄斎は西洋化・近代化の波に吞まれることなく自らの姿勢を貫いたが、その作品は現代の目にも新鮮であり、国際的にも高く評価されている。このことは、明治以来西洋の影響を強く受けてきた日本美術の歩みの中で今あらためて浮上している<日本の絵画とは何か>という問いにも手がかりを与えるものと思われる。

従来開催されてきた鉄斎展はどちらかといえば鉄斎自身の人間性に重点を置き、作品を年代順に構成したものであった。それに対して今回の展覧会では、屏風や掛軸の大作から扇面や画帖などにわたる代表的な作品159点を集めた上で、これらを大きく山水画、花卉鳥獣画、人物画の三章に分け、さらに山水画の主題を真景・憧憬・仙境に、人物画を風俗・故事・神仙のそ



B1ポスター

れぞれ三節に分類する試みによって、鉄斎の幅広い世界観の成り立ちを示すとともに、その芸術の魅力を造形性の面から検証するものであった。幸い一般鑑賞者や鉄斎研究家からも、今までの鉄斎展に比べると「見やすい」「分かりやすい」「美しい」といった評価を得ることができた。

展覧会カタログ：A4 判変形（29.7×22.4cm）230ページ

テキスト 内山武夫「鉄斎と京都画壇」

野中吟雪（新潟大学教授）「富岡鉄斎の画賛」

木本文平「画家たちがみた鉄斎」

図 版（章・節解説：第1章／木本文平、
第2・3章／深山孝彰）

第1章 山水画（1）真景

（2）憧憬

（3）仙境

第2章 花卉鳥獣画

第3章 人物画（1）風俗

（2）故事

（3）神仙

■ 画帖

主要作品解説（木本、深山）

富岡鉄斎年譜

富岡鉄斎関係文献

出品目録

テキスト英訳（翻訳：ヒルド麻美）

英語出品目録

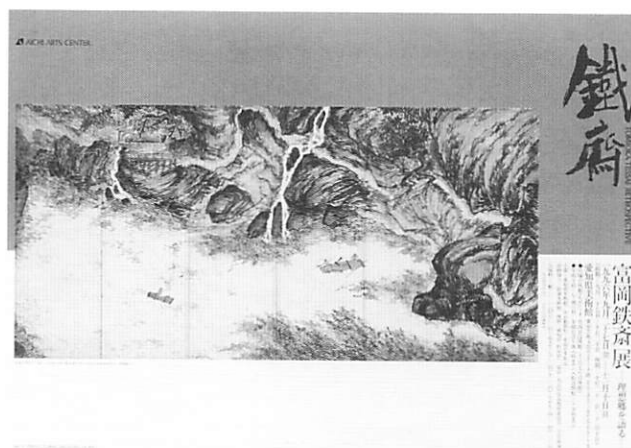
編集 木本文平、深山孝彰

発行 愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

表紙デザイン 岡本滋夫

レイアウト リバプール

製作 株式会社便利堂



B3ポスター

関連事業

講演会 10月5日（土） 13:30～15:00

演題：「鉄斎の魅力」

講師：村越英明 鉄斎美術館長

総入場者数： 25,680人（1日平均入場者数：659人）

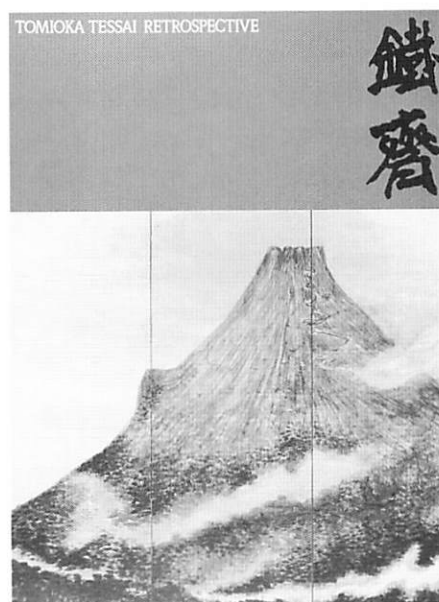
主要関連記事

【定期刊行物】

木本文平：「理想郷を語る―富岡鉄斎展―」『AAC』1996年夏号
(無記名)：「富岡鉄斎展」『藝術公論』1996年9月号
(無記名)：「〈展覧会への招待〉富岡鉄斎展」『小さな蕾』1996年11月号

【新聞】

浅野 徹：「富岡鉄斎展―理想郷を語る―」
『中日新聞』1996年9月13日
(無記名)：「大画家の力量、名品160点」
『名古屋タイムズ』1996年9月28日
井上 昇治：「文人の画境に浸る」『中日新聞』1996年9月28日
木本 文平：「鉄斎の旅 1.《富士山図》」
『中日新聞』1996年10月1日
深山 孝彰：「鉄斎の旅 2.《旧蝦夷風俗図》」
『中日新聞』1996年10月2日
竹田 博志：「晩年の作品にすごみ―富岡鉄斎展―」
『日本経済新聞』1996年10月2日
木本 文平：「鉄斎の旅 3.《妙義山図》」
『中日新聞』1996年10月3日
深山 孝彰：「鉄斎の旅 4.《華之世界図》」
『中日新聞』1996年10月4日
木本 文平：「鉄斎の旅 5.《心遊仙境図》」
『中日新聞』1996年10月5日
長谷川三郎：「日本南画最後の巨匠」
『日本経済新聞』1996年10月11日夕刊
太田垣 実：「美・折りおり―富岡鉄斎―《妙義山図》」
『京都新聞』1996年10月12日
浅野 徹／鶴田武良／馬場駿吉：
「座談会―文人画・鉄斎の世界―」『中日新聞』
1996年10月16日



カタログ表紙

北川民次展—愛と人間をえがく— Kitagawa Tamiji Retrospective

会期：1996年11月22日(金)～1997年1月26日(日)51日間

主催：愛知県美術館／朝日新聞社／名古屋テレビ放送

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

協力：名古屋鉄道／近畿日本鉄道

観覧料：一般1,000円、高校・大学生700円、小中学生400円

(前売・団体は各200円引)

担当：村田真宏／高橋秀治

内容：

静岡県に生まれた北川民次(1894-1989)は、1914年に早稲田大学予科を中退してアメリカに渡り、ニューヨークで劇場の職人として働きながら、アート・ステューデント・リーグでジョン・スローンに絵画の基礎を学んだ。1921年にはメキシコに移り、この地で画家としての本格的な活動を始め、トラルパムやタスコの野外美術学校で児童美術教育に打ち込むとともに、絵画の制作にもはげみ、この時期に独自の絵画表現を確立していった。それは人物や風景といった描く対象を、視覚や触覚といった感覚だけを頼りに描くのではなく、画家自身がその事物についてもっている認識を基本として、それによって絵画を成立させるという新しいリアリズムの追求であった。彼は1936年に帰国すると、翌年の二科展に、メキシコの人物や風俗などを、メキシコの壁画を思い起こさせるような構成によって描いた作品を発表して二科会の会員となり、日本での画家としての地位を築いた。そして第二次大戦中には瀬戸に移り住み、窯業の盛んな瀬戸の街とそこに働く人々を愛して、自らの作品に好んで取りあげた。また、彼はしばしば日本の社会が抱える諸問題を積極的に取りあげるなど、時代に生きる画家として社会と真剣に向かい合い、日本の美術界ではあまり顧慮されてこなかった絵画の社会性について一つの具体的な可能性を示した。

この展覧会は、その北川民次の制作活動の全体像とその芸術の本質を紹介することを目標として組織した。初期のメキシコ時代から晩年までの制作を、第一章「メキシコ時代」、第二章「帰国から戦中期」、第三章「戦後の制作」、第四章「晩年の制作」と分類し、その代表作160点によって網羅した。その内容は油彩画、水彩画はもとより水墨画や版画などの領域を含めた総合的なものであった。特にメキシコ時代の制作活動については、近年新しく確認された重要な作品も加え、その制作の展開を初めて系統的に整理して紹介することができた。また、この展覧会に向けての調査研究活動の成果も盛り込むことができ、年譜等の基礎的データの確認と整理も進んだ。例えば、アメリカ時代のアート・ステューデント・リーグの在籍期間と、そこ



B1ポスター



B3ポスター

で受講していた科目も確認して紹介することができた。そして最も大きな成果は、北川がメキシコ時代に、野外美術学校派という壁画派とは異なる美術グループに属していたこと、またそこでの位置づけををかなり正確に把握できたことで、これまで非常に曖昧であったメキシコ美術界での彼の立場をある程度明らかにすることができたことであった。

この展覧会は、この作家の総合的な回顧展としては、現時点ではほぼ決定版に近い規模と内容のものにすることができたと思う。一方で、各時代の制作の特質、あるいは個々の作品の主題等については、必ずしもすべてを明らかにしえたとは言えない。今後さらに調査研究を進め、この作家の制作活動の実相をより正確に把握していきたいと考えている。

展覧会カタログ：A4変形（30.0×22.6cm）234ページ

テキスト 村田真宏「北川民次の絵画 ―メキシコ時代を中心に―」

高橋秀治「北川民次と児童美術教育」

図 版 （章・作品解説：村田真宏）

第Ⅰ章 メキシコ時代

第Ⅱ章 帰国から戦中期

第Ⅲ章 戦後の制作

第Ⅳ章 晩年の制作

資料編 北川民次メキシコ滞在期の改革派の美術家たち―1920年代から1936年頃まで―（村田真宏／清水たま子編）

出品目録（村田真宏／濱淵真弓編）展覧会歴・文献つき

北川民次年譜（村田真宏編）

文献目録（村田真宏／濱淵真弓編）

KITAGAWA Tamiji―The Development of his Art（村田真宏）

出品作品一覧

編集 村田真宏、高橋秀治

翻訳 濱淵真弓（大阪芸術大学）

表紙デザイン 一瀬憲章

制作 日動出版

発行 北川民次展実行委員会

著作権者 愛知県美術館／朝日新聞社



カタログ表紙

関連事業

講演会 11月24日（日）13:30～15:00

演題：「メキシコ時代の北川民次」

講師：村田真宏 愛知県美術館主任学芸員

講演会 12月1日(日) 13:30～15:00

演題：「アメリカに学んだ日本人画家たち」

講師：酒井哲朗 三重県立美術館長

講演会 12月7日(土) 13:30～15:00

演題：「帰国後の北川民次」

講師：村田真宏 愛知県美術館主任学芸員

記念シンポジウム 1月12日(日) 13:30～16:00

テーマ：「美術と教育—学校と家庭と美術館—」

パネリスト：安藤幹衛（画家）、伊藤 誠（小学校長）、小島東洋治（高等学校美術科教諭、画家）、宮崎玲子（美術愛好家）、村上暁郎（武蔵野美術大学教授）／司会進行：高橋秀治（愛知県美術館主任学芸員）

総入場者数 28,789人（1日平均入場者数：564人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
笠間日動美術館	1977年3月1日～4月7日	8,582人	195人

主要関連記事

【定期刊行物】

村田 真宏：「北川民次の風景」『繪』397号 1997年3月

村田 真宏：「北川民次 異郷で育った近代版画」

『版画藝術』95号 1993年3月

【新聞】

村田 真宏：「『人間愛の画業』たどる 北川民次展」『朝日新聞』1996年11月20日朝刊

（無記名）：「北川民次展」『名古屋タイムズ』1996年11月20日

（無記名）：「愛と人間を描く代表作150点」『名古屋タイムズ』1996年11月22日

（O）：「学童にも見せたい北川民次画伯の世界」

『名古屋タイムズ』1996年11月30日

（無記名）：「北川民次展 愛と人間をえがく」

『新美術新聞』1996年12月1日

Julia Cassim：「Overdue acclaim comes to a native son」

The Japan Times 1996年12月1日

長谷川三郎：「《北川民次展》白い地塗り効果的に」

『日本経済新聞』1996年12月13日夕刊

宝 玉 正彦：「骨格に社会への風刺性 北川民次展」

『日本経済新聞』1996年12月14日

太田垣 実：「息づく純粋な人間性 愛と人間をえがく 北川民次展」『京都新聞』1996年12月14日

村田 真宏：「茶畑と母子（時代を描く 北川民次展から①）」『朝日新聞』1996年12月17日

村田 真宏：「瀬戸風景（時代を描く 北川民次展から②）」『朝日新聞』1996年12月18日

村田 真宏：「トラルバム霊園のお祭り（時代を描く 北川民次展から③）」『朝日新聞』1996年12月19日

村田 真宏：「岩山に茂る（時代を描く 北川民次展から④）」『朝日新聞』1996年12月20日

村田 真宏：「母子像（時代を描く 北川民次展から⑤）」『朝日新聞』1996年12月21日

（無記名）：「消息途絶えた作品展覧会直前に発見（人間往来）」『朝日新聞』1997年1月6日夕刊

田中 三蔵：「北川民次展」『朝日新聞』1997年1月9日夕刊

村田 真宏：「美術環境の排他性」

『中日新聞』1997年1月18日夕刊

中生加康夫：「民次が描いた『教科書裁判』」

『朝日新聞』1997年1月25日

カンディンスキー&ミュンター 愛と創造の日々 Wassily Kandinsky & Gabriele Münter 1901-1917

会期：1997年2月8日(土)～1997年3月16日(日) 32日間

主催：愛知県美術館／中日新聞社／中部日本放送

後援：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館／愛知県・岐阜
県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海

協力：ルフトハンザ ドイツ航空

企画協力：レーンバッハハウス ミュンヘン市立美術館

観覧料：一般1,100円、高校・大学生800円、小中学生500円
(前売・団体は各200円引)

担当：寺門臨太郎／村上博哉

内容：

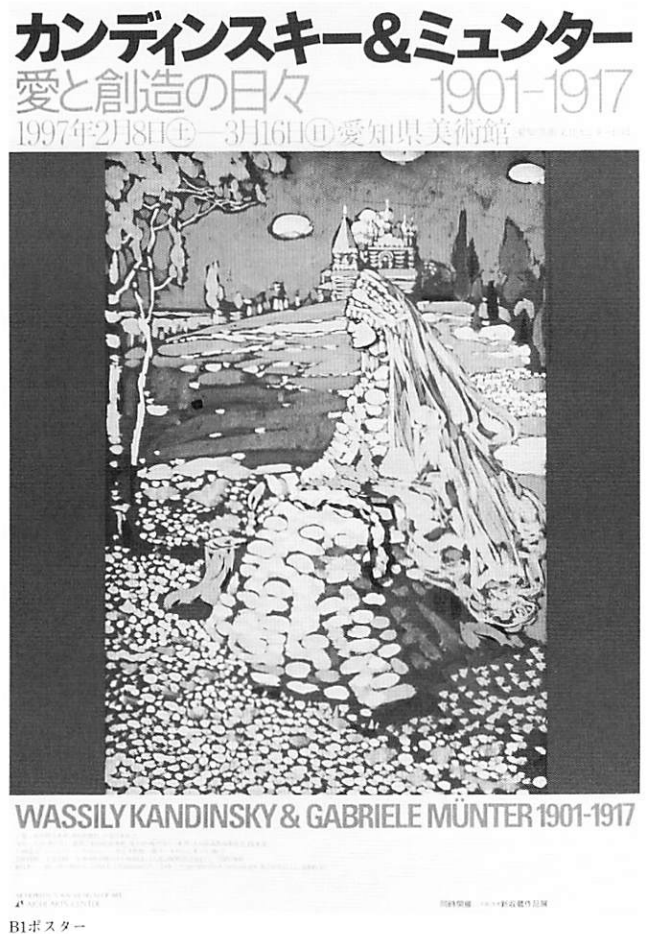
ヴァシリー・カンディンスキー(1866-1944)と女流画家ガブリエレ・ミュンター(1877-1962)は、1902年の初めにミュンヘンの美術学校「ファールンクス」の教師と生徒として出会い、第一次世界大戦前夜までの十数年にわたって活動をともにした。その間、カンディンスキーは色彩によって精神的な内容を表現する絵画を追求して抽象絵画に到達し、ミュンターは素朴な民衆芸術に触発されて表現主義的な作風を築いた。この展覧会は、レーンバッハハウス・ミュンヘン市立美術館の協力を得て、同館の所蔵作品を中心に、カンディンスキーとミュンターの1901年から1917年までの作品126点により、二人がそれぞれ独自の芸術を見いだすにいたるまでの発展過程と、その背景となった二人の生活を紹介した。

カンディンスキーという名がすでに広く知られているのに加え、彼独自の芸術が形成されるうえで重要な存在だったミュンターの作品がまとめて紹介されたことに対する反響は少なかった。カンディンスキーは、これまで主に1920年代以降のスタイルが一般には馴染みのあるものであり、この展覧会で焦点が当てられた年代の作品は、概して新鮮味をもって受け入れられた。一方、ミュンターは、その親しみやすい画風によって、とりわけ女性鑑賞者の興味と関心を引きだした。

会期中、当館にとって初めての展示説明会（ギャラリートーク）を試みたが、企画の内容自体に物語性が強かったことで、説明者にとってはひとつの流れのある解説を組み立てることが可能となり、聴講者にとっては作品鑑賞への比較的容易なアプローチを可能なものとした。

展覧会カタログ：A4判変形(30.6×20.2cm) 206ページ

テキスト ヘルムート・フリーデル（レーンバッハハウス・ミュンヘン市立美術館長）「序」（西村勇 暗訳）



アンネグレート・ホーベルク（レーンバッハ
ハウス・ミュンヘン市立美術館学芸員）「ヴ
ァシリー・カンディンスキーとガブリエー
レ・ミュンター 1901-1917」（寺門臨太郎訳）

カタログ （章解説：西村勇晴、作品解説：西村勇晴／
土田久子／寺門臨太郎／村上博哉／大野正
勝）

- I プロローグ——出会い
- II カンディンスキー——メルヘン的な絵画
- III 長い旅行
- IV ムルナウとミュンヘン
- V ミュンターの静物
- VI 人物の表現
- VII カンディンスキー——抽象への道
- VIII 別れ

ガラス絵と家具（参考図版）

テキスト 西村勇晴「カンディンスキー&ミュンターと
『芸術の都』ミュンヘン」

書簡 （西村勇晴訳）

年譜 （レーンバッハハウス・ミュンヘン市立美術
館編）

主要参考文献（西村勇晴編）

編集 宮城県美術館（西村勇晴）
セゾン美術館（土田久子）
愛知県美術館（寺門臨太郎、村上博哉）
札幌・芸術の森美術館（大野正勝）
東京新聞

デザイン 米村 隆

制作 コギト

発行 東京新聞

関連事業

ギャラリートーク

第1回 2月15日（土）11:00-12:00 解説者：村上博哉

第2回 2月22日（土）11:00-12:00 解説者：寺門臨太郎

総入場者数：22,891人（1日平均入場者数：715人）

展覧会巡回先	会 期	総入場者数	1日平均
宮城県美術館	1996年10月26日～12月8日	16,692人	428人
セゾン美術館	12月14日～1997年2月2日	39,811人	796人
芸術の森美術館	4月5日～5月25日	14,491人	308人



主要関連記事

【定期刊行物】

新藤信：『『カンディンスキー&ミュンター展 1901-1917』
抽象絵画の教祖と愛の物語』『週刊朝日』1997年2月4
日号

末永照和：『Exhibition Review『カンディンスキー&ミュンター
1901-1917』展』『美術手帖』1997年3月号

【新聞】

中村 英樹：『『カンディンスキー&ミュンター 1901-1917』
展に見る20世紀的『時間』の原点』『中日新聞』
1996年12月20日夕刊

田中 三蔵：『『カンディンスキー&ミュンター 1901-1917』
展『抽象』への苦闘と愛のドラマ』『朝日新聞』
1997年1月16日夕刊

栗津 則雄：『カンディンスキー&ミュンター展(上) 『花嫁』
独特の色彩感覚・幻想性』『中日新聞』1997年2月
13日夕刊

千足 伸行：『カンディンスキー&ミュンター展(中) 『ヤウ
レンスキーとヴェレフキン』 親しい仲間との交
遊録』『中日新聞』1997年2月14日夕刊

中村 俊春：『カンディンスキー&ミュンター展(下) 『コン
ポジションⅡの部分習作』まばゆい色彩に厳肅さ』
『中日新聞』1997年2月17日夕刊

(昇)：『抽象美術の偉大な誕生の過程 愛の日々と重ね
て』『中日新聞』1997年2月17日夕刊

長谷川三郎：『『カンディンスキー&ミュンター 1901-1917』
展 創造過程を追体験』『日本経済新聞』1997年
2月21日夕刊



カタログ表紙

企画展観覧者数統計 (92/10-97/3) Statistics of Temporary Exhibitions

年度	展覧会タイトル	会 期	日数(日)	入場者(人)	1日平均(人)
1992 年度	フォーヴィスムと日本近代洋画	1992年10月30日－ 12月20日	45	41,343	918.7
	近代の日本画－西洋との出会いと対話	1993年 1 月 5 日－ 2 月11日	33	26,166	792.9
	20世紀愛知の美術	1993年 1 月19日－ 3 月21日	105	11,585	429.1
年 度 合 計			105	79,094	753.3
1993 年度	パウル・クレーの芸術	1993年 4 月 2 日－ 5 月23日	45	103,239	2,294.2
	小川芋銭展	6 月 4 日－ 7 月 4 日	27	26,106	966.9
	現代の陶芸1950－1990	7 月16日－ 8 月22日	33	13,153	398.6
	安田靉彦	9 月 3 日－ 10月17日	39	43,003	1,102.6
	リール市美術館所蔵－バロック・ロココの絵画	10月29日－1994年 1 月16日	63	47,042	746.7
	戸張孤雁と大正期の彫刻	1994年 1 月25日－ 3 月 6 日	36	7,996	222.1
	クブカ	3 月18日－ 5 月 8 日	45	33,652	747.8
年 度 合 計			288	274,191	952.1
累 計			393	353,285	898.9
1994 年度	杉本健吉展	1994年 5 月14日－ 6 月 2 日	17	19,568	1,151.1
	シカゴ美術館展－近代絵画の100年	6月10日－ 7 月24日	38	89,204	2,347.5
	レジェ展	1994年 8 月 5 日－ 9 月11日	33	22,793	690.7
	聖なるかたち：後期ゴシックの木彫と板絵－ アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵	9 月23日－ 9 月13日	37	27,976	756.1
	没後20年 香月泰男展	11月18日－1995年 1 月16日	46	27,164	590.5
	アンドリュウ・ワイエス展	2 月 3 日－ 4 月 2 日	51	120,177	2,356.4
	アメリカの郷愁－心の風景を描く				
年 度 合 計			222	306,882	1,382.4
累 計			615	660,167	1,073.4
1995 年度	ウィーンのジャポニスム	1995年 4 月11日－ 5 月14日	30	27,803	926.8
	フランツ・ゲルチェ	5 月26日－ 7 月 2 日	33	22,392	678.5
	環流－日韓現代美術展	7 月14日－ 9 月 3 日	45	25,072	557.2
	ウィンザー城王立図書館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図	9 月23日－ 10月15日	27	68,439	2,534.8
	表現主義彫刻	10月27日－1996年 1 月15日	64	12,428	194.2
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画と接点	1996年 2 月 2日－1996年 4 月 7 日	57	16,599	291.2
	年 度 合 計			256	172,733
累 計			871	832,900	956.5
1996 年度	大英博物館所蔵イタリア素描展	1996年 4 月19日－ 5 月26日	33	30,973	938.6
	抽象表現主義展－アメリカ絵画の黄金期	7 月26日－ 9 月16日	46	19,005	413.2
	富岡鉄斎展－理想郷を語る	9 月27日－ 11月10日	39	25,680	658.5
	北川民次展－愛と人間をえがく	11月22日－1997年 1 月26日	51	28,789	564.5
	カンディンスキー&ミュンター 愛と創造の日々 1901－1917	1997年 2 月 8 日－ 3 月16日	32	22,891	715.3
年 度 合 計			201	127,338	633.5
累 計			1,072	960,238	895.7

移動美術館 Out Reach

教育普及事業の一環として、名古屋地区から離れた地域の県民のために所蔵作品の一部を運んで展示し、併せて講演会等の事業を行う〈移動美術館〉を年一回開催している。第1回の南知多町、第2回の足助町に続き、1996年度は渥美郡渥美町において、愛知県文化振興事業団、渥美町および渥美町教育委員会との共催により開催した。

展覧会名：愛知県美術館所蔵 20世紀の美術

会 期：1996年6月1日(土)～6月30日(日)

会 場：渥美町郷土資料館（渥美郡渥美町大字古田字岡ノ越
6-4）

観 覧 料：無料

主 催：愛知県美術館／(財)愛知県文化振興事業団／渥美町／渥美町教育委員会

担 当：藤島美菜／寺門臨太郎

※（主催者業務分担）

- ・美術館……展覧会の内容にかかわること
（展覧会の構成、作品の輸送展示、講演会等の普及事業等）
- ・事業団……基本経費の執行にかかわること
（輸送展示費、展示工事費、保険料、広報印刷物の作成等）
- ・渥美町……会場の提供と運営ならびに広報にかかわること
（会場管理、町内外への広報等）

展示内容ならびに展示点数

日本の近・現代の洋画を中心とし、これに彫刻と海外の作品も加えた43点（出品リスト参照）により、20世紀美術の展開を紹介。

関連教育普及事業

1. 記念講演会「絵画の見方、楽しみ方」（浅野館長）

6月1日(土) 13:40～15:00 渥美町中央公民館1階多目的
ホール（聴講者約120名）

2. 美術講座①「近・現代美術入門1－20世紀美術の動向を知
る－」（藤島）

②「近・現代美術入門2－愛知の美術のあゆみを知

COLLECTION OF THE AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

愛知県美術館所蔵

20世紀の美術

ボナール、デュフィ、マティス、黒田清輝、梅原龍三郎、岸田劉生、里見睦蔵、安井曾太郎、北川民次、亀岡謙三郎、荻原高徳など



黒田清輝「埼玉の城」1910年

1996年6月1日(土)～6月30日(日)

午前9時～午後5時（1日(土)は、午後1時30分から）月曜日休館

会場／渥美町郷土資料館【入場無料】

主催：愛知県美術館・愛知県文化振興事業団・渥美町・渥美町教育委員会
お問い合わせ：渥美町郷土資料館 TEL.05313-3-1127



B1ポスター

るー」(深山)

① 6月15日(土) ② 6月23日(日)、

いずれも13:30-15:30、中央公民館 2 階視聴覚室

(聴講者①17人、②7人)

3. 「鑑賞の手引き」の制作と配布

おもな作品の鑑賞ポイントを簡単に解説したガイドを、対象年齢別等に5種制作した。

小学1～3年生用、小学4～6年生用：B5判三折

中学生用、一般用、教師用：A4判三折

4. 鑑賞会／団体解説

学芸員による鑑賞会を15日(土)と23日(日)に開催(15日9名、23日12名の参加)。

その他、希望により学校関係者を含む各種団体見学に対しギャラリートークを行った。

5. ビデオ上映

郷土資料館内別室で、愛知県美術館制作のビデオ「近代の日本画(明治期)」 「サンサシオンの10年 愛知洋画の青春」を上映。

総観覧者数 5,414人



出品リスト

〈洋画〉

久米桂一郎	秋景	1892
黒田清輝	花と猫	1906
梅原龍三郎	若き羅馬人	1909
岸田劉生	高須光治君之肖像	1915
大沢鉦一郎	大曾根風景	1919
宮脇晴	自画像	1920
佐分真	裸婦	1925
小林和作	薔薇咲くカプリ島	1928
里見勝蔵	裸婦	1930
海老原喜之助	ゲレンデ	1930
北川民次	南国の花	1937
安井曾太郎	承德喇嘛廟	1938
杉本健吉	正倉院	1940
矢橋六郎	牡丹	1946
岡鹿之助	窓	1949
村井正誠	Cité B	1950
鬼頭鍋三郎	二人のバレリーナ	1952
桂ゆき	人と魚	1954
鳥海青児	石の街(ペルー マチュ・ピチュ)	1961
難波田龍起	萌	1961
荻須高德	サンドニ	1964
上田薫	なま玉子G	1976
猪熊弦一郎	地図の中の日曜日	1979
三尾公三	鏡の前	1982

〈西洋画〉

ビエール・ボナール	子供と猫	1906
ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906
アンリ・マティス	待つ	1921-22

〈日本画〉

横山大観	飛泉	1900
中村岳陵	芦に白鷺鶴鶴図	1921頃
萬鉄五郎	砂丘風雨	1919-27
村上華岳	魔障之図	1923
小川芋銭	陶淵明桃花源詩意	1926
川合玉堂	湖畔晩婦	1928
藤井達吉	日の出	1957頃
藤井達吉	樹	1957
山本丘人	幻雪	1978
平川敏夫	黄山松雨	1982
麻田鷹司	鬼界ヶ島	1982
東山魁夷	雪の山郷	1991

〈彫刻〉

E.A.ブールデル	雄弁	1916
中原悌二郎	憩える女	1919
戸張孤雁	煌めく嫉妬	1924
高田博厚	女のトルソ	1937
堀内正和	四角と丸の組合せb	1956

教育普及活動の概要

ア 出版・発行

美術館の普及用印刷物として、開館当初に『施設概要』『美術館案内リーフレット』『所蔵作品選』（1992）『所蔵作品目録』（1993）を発行した。

展示・展覧会に関しては毎年度末に翌年度分の『展覧会案内』を発行し、各企画展の開催にあたっては、鑑賞を助けるとともに資料性・学術性の高いカタログを制作している。所蔵作品展では、各期の概要と展示主題ごとの解説付展示作品目録冊子、及び小企画展（テーマ展示）の小冊子を発行している。

鑑賞教育用としては小・中学生を対象に、代表的な所蔵作品1点を中心に対話形式で鑑賞を深める『ワークシート』を順次制作してきている。また移動美術館開催に併せて学年別および一般・教師用の『鑑賞の手引き』を制作した。

イ 講演会・講座・シンポジウム等

各企画展の開催にあわせ、その分野の研究者や、時には作家本人などによる講演会や対談・シンポジウムなどを催し、観覧者により深く展覧会の内容を理解する機会を提供している。また、シリーズとしてまとまりのある連続講座や定期講演会も開催している。

ウ ギャラリートーク

団体や学校などの要望に応じた鑑賞会を随時行っているほか、1996年度には企画展担当学芸員によるギャラリートーク（展示室内での解説）を計画的に開催した。

エ 映像、情報機器の活用

鑑賞教育の一つの試みとして、ビデオテークにて所蔵作品や展覧会内容に即した番組を提供している。なお、主要な所蔵作品に関しては、その画像と文字情報が自由に引き出せる検索型のシステムを運用している。

オ 子供を対象とした鑑賞教育

所蔵作品展観覧の小・中・高校生にワークシートを配布するとともに、ワークシートを使用した子供鑑賞会を計画的に行っている。

カ 移動美術館

名古屋地域から遠隔にある県内各地に所蔵作品を移動展示し、併せて講演会等の事業を行う移動美術館を年1回開催している。

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習について、大学等の要請により実習生を受け入れ、美術館の活動が理解できるよう指導を行っている。

ク 友の会の運営協力

美術館活動を支援するとともに、会員の美術に関する教養を高め美術文化の向上に貢献することを目的に、1994年度に発足した「愛知県美術館友の会」の運営に協力し、各事業を展開している。

1996年度教育普及事業実施状況

【出版・発行】

●企画展カタログ

『ルネサンスからバロックへ ―大英博物館所蔵イタリア素描展―』

A4判変形、273ページ、1996、2 発行（編集参加）

『抽象表現主義展 ―アメリカ現代美術の黄金期―』

B4判変形、250ページ、1996、6 編集・発行

『富岡鉄斎展』

B4判変形、230ページ 1996、9 編集・発行

『北川民次展』

A4判変形、234ページ、1996、11 編集・発行

『カンディンスキーとミュンター 愛と創造の日々』

A4判変形、237ページ、1996、10 発行（編集参加）

●所蔵作品展目録

『愛知県美術館所蔵作品展 1996年度 第Ⅰ期』

21.5×11.5センチ 9ページ 1996、4 発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1996年度 第Ⅱ期』

21.5×11.5センチ 14ページ 1996、7 発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1996年度 第Ⅲ期』

21.5×11.5センチ 14ページ 1996、11 発行

『愛知県美術館所蔵作品展 1996年度 第Ⅳ期（新収蔵作品目録を含む）』

21.5×11.5センチ 18ページ 1997、2 発行

●小企画・テーマ展示小冊子

『アンドリュース・ワイエスの世界』 21.5×11.5センチ

15ページ 1996、7 発行

『千崎千恵夫―表面のトポロジー―』 B5判変形三折

6ページ 1996、9 発行

『藤井達吉展』 A4判変形 62ページ 1996、11 発行

●展覧会スケジュール

『愛知県美術館〔展覧会〕のご案内』 リーフレット

A4変形三折 1997、3 発行

●所蔵作品鑑賞の手引き

『小学1～3年生 かんしょうのてびき』

B5判三折

『小学4～6年生 鑑賞の手引き』

B5判三折

『中学生以上 鑑賞の手引き』

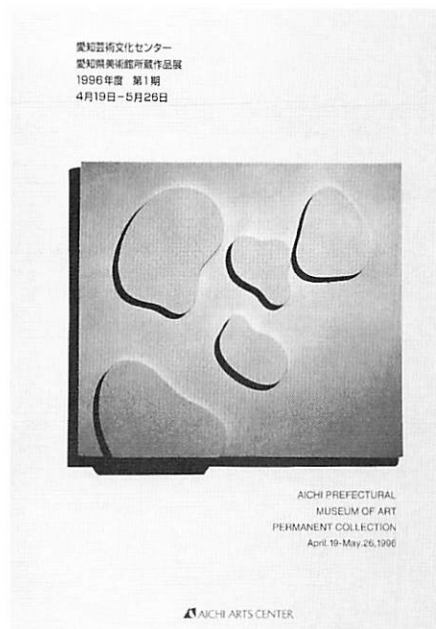
A4判三折

『一般 鑑賞の手引き』

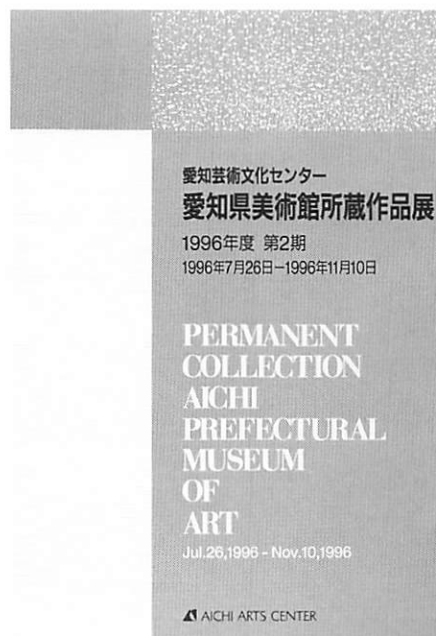
A4判三折

『先生方へ 愛知県美術館所蔵作品鑑賞の手引き』

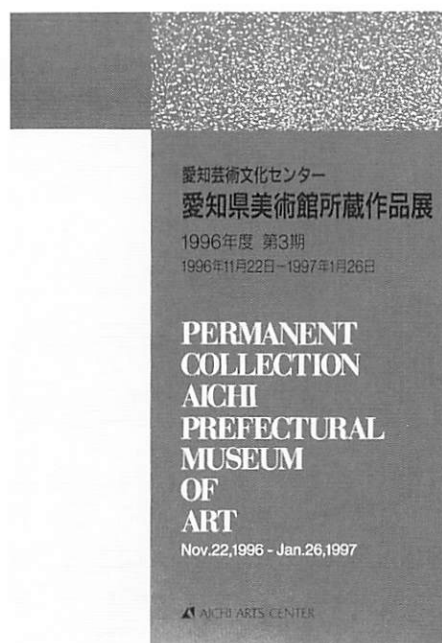
A4判三折



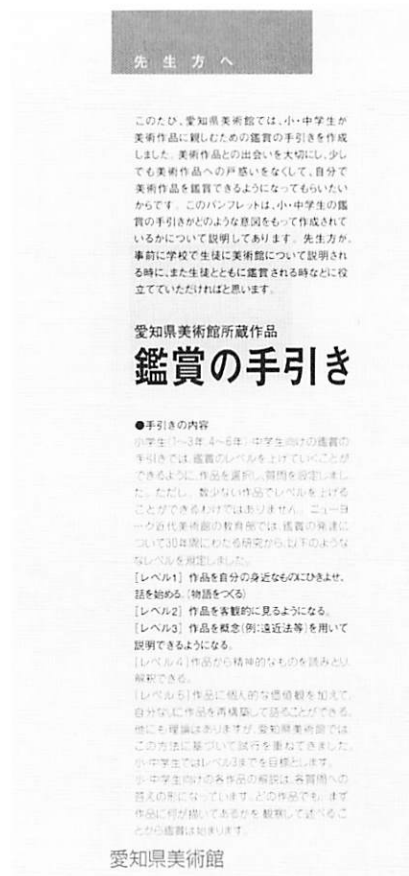
所蔵作品展 第Ⅰ期 目録表紙



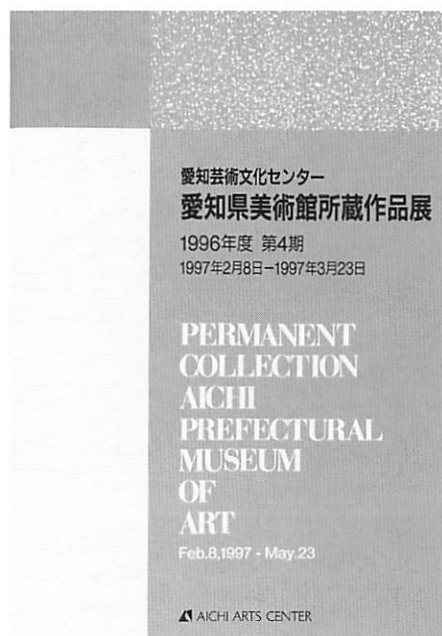
所蔵作品展 第Ⅱ期 目録表紙



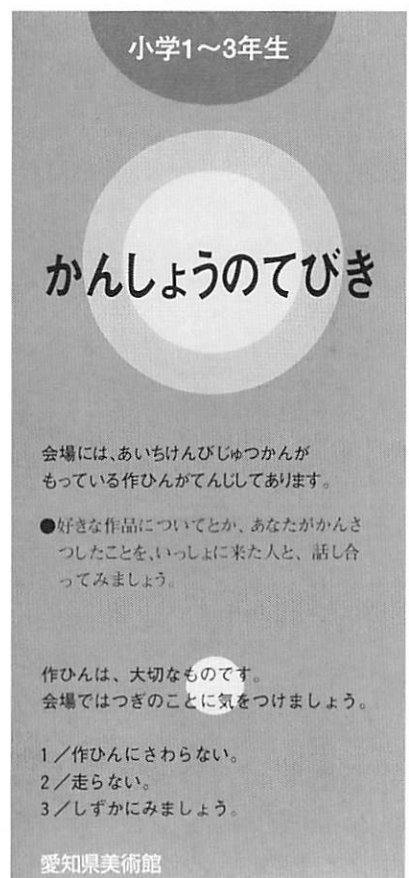
所蔵作品展 第3期 目録表紙



所蔵作品鑑賞の手引き



所蔵作品展 第4期 目録表紙



所蔵作品鑑賞の手引き

【講演会・講座・シンポジウム等】

企画展に関連して下記の講演会を行い、特に「大英博物館所蔵イタリア素描展」にあわせて6回の連続講座を開催した。

講演会名	開催日	講師名	職 名	入場者数
------	-----	-----	-----	------

1996年度連続講座

「魅惑のイタリア芸術ールネサンスからバロックへー」

ルネサンスからバロックへー大英博物館所蔵イタリア素描展 1996/4/19ー1996/5/26

イタリア素描の技法、歴史、機能	96/04/20	土	ヒューゴー・チャップマン	大英博物館版画素描部 イタリア素描担当学芸員	159
ヴィネツィア絵画と中部イタリアの美術	96/04/27	土	越川倫明	国立西洋美術館主任研究官	182
万能の天才とルネサンスー建築家としてのレオナルド、ミケランジェロ、ラファエルロをめぐってー	96/04/28	日	長尾重武	武蔵野美術大学教授	170
ルネサンス君公の宮廷と美術ー15世紀のフィレンツェ、フェラーラ、マントヴァを中心に	96/05/11	土	小佐野重利	東京大学教授	209
だまし絵の系譜ーバロック天井画の世界	96/05/18	土	坂本 満	聖徳大学教授	170
イタリア音楽の流れー16～17世紀を中心にー	96/05/19	日	戸口幸策	成城大学教授	120

抽象表現主義展ーアメリカ現代絵画の黄金期ー 1996/9/27ー1996/9/16

抽象表現主義絵画の見方	96/07/27	土	本江邦夫	東京国立近代美術館美術課長	112
行為と感情ーニューヨーク派の冒険	96/08/03	土	建畠 哲	多摩美術大学教授	79

富岡鉄斎展 1996/9/27ー1996/11/10

鉄斎の魅力	96/10/05	土	村越英明	鉄斎美術館長	180
-------	----------	---	------	--------	-----

北川民次展 1996/11/22ー1997/1/26

メキシコ時代の北川民次	96/11/24	日	村田真宏	愛知県美術館主任学芸員	91
アメリカに学んだ日本人画家たち	96/12/01	日	酒井哲朗	三重県立美術館長	48
帰国後の北川民次	96/12/07	土	村田真宏	愛知県美術館主任学芸員	65

講演会はいずれもアート・スペースA
開始時刻は13：00

【ギャラリートーク】

「カンディンスキー&ミュンター展」の会期中、2回のギャラリートークを行った。

第1回 2月15日(土) 11:00-12:00 解説者：村上博哉

第2回 2月22日(土) 11:00-12:00 解説者：寺門臨太郎

【子供鑑賞会】

小・中学生を対象に、所蔵作品についてのワークシートを使用しての鑑賞会を開催した。

場所：所蔵作品展示室

時間：午前11時から12時

回	月 年	作 品	参加者数(内訳)
1	1996年 12月14日(土)	グスタフ・クリムト 《人生は戦いなり(黄金の騎士)》	4名(小1名、 中2名、高1名)
2	1997年 1月25日(土)	ポール・デルヴォー 《こだま》	6名(小2名、 中4名)
3	1997年 3月8日(土)	ラウル・デュフィ 《サンタドレスの浜辺》	5名(小1名、 中4名)

【移動美術館】

愛知県文化振興事業団、渥美町、渥美町教育委員会との共催により、渥美町郷土資料館において開催した。

※詳細は60～61ページ参照

【博物館実習】

実習希望者の中から13名の学生を受け入れ、下記により実習を行った。

1. 実習期間

7月18日(木)－7月20日(土) および

7月24日(水)－7月26日(金)

2. 実習生

五十嵐友美 東海女子大学文学部美学美術史学科4年

佐藤のり子 東海女子大学文学部美学美術史学科4年

杉山 麻紀 東海女子大文学部研究科美学美術史学科4年

橋野友香理 跡見女子大学文学部美学美術史学科4年

林 青磁 愛知県立芸術大学デザイン学科4年

浅井菜保子 武蔵野美術大学大学院

真浦 泰宏 武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科4年

下里由羽子 武蔵野美術大学造形学部日本画科4年

富田 愛子 共立女子大学家政学部生活美術学科現代造形コース4年

松本亜希子 名古屋芸術大学絵画科日本画専攻4年

太田 高利 名古屋芸術大学科目等履修生

鈴木 綾子 金沢美術工芸大学芸術学専攻 4年

白水 優子 横浜国立大学教育学部 4年

3. 実習内容および指導担当者名

18日(木)・自己紹介／美術館スタッフ紹介(高橋)

・美術館について・総論(長谷川副館長)

・企画展展示作業見学(高橋)

・実習課題について

(企画展案作成・所蔵作品展の展示解説・ワークシート作成のいずれか)(高橋)

19日(金)・美術館概要／館内案内(高橋)

・所蔵作品展示室見学(村上)

・所蔵品展示について(寺門)

・企画展展示作業見学

20日(土)・企画展の進行について(高橋)

・アートドキュメンテーションについて(鯨井)

・作品の取扱いと撮影について(村田、高橋)

24日(水)・作品収集について(深山)

・美術館の教育普及活動について(藤島)

・広報について(拝戸)

・課題研究

25日(木)・「抽象表現主義展」開会式準備見学

・美術館の環境と美術品の保存について(長屋)

・記者説明会／開会式見学

・課題研究

26日(金)・開錠業務立会い

・課題発表(高橋、村田)

・閉錠業務立ち会い

【美術館友の会】

友の会の概要および1996年度の実施事業は次のとおり。

●設立目的

- ・美術館活動の支援（作品の寄贈、展覧会や講演会の後援など）
- ・美術館活動の普及（展覧会の広報など）
- ・会員の美術に関する教養を高めること（研究会や講習会など）

●会員特典

- ・企画展及び所蔵作品展の無料観覧
- ・企画展関連商品の割引販売
- ・愛知県美術館が実施する講演会の聴講特別枠
- ・友の会主催の鑑賞会や講演会等への参加
- ・企画展の開会式及び内覧会の参加（但し、特別会員に限る）
- ・芸術文化センター内のレストラン、喫茶店の利用価格割引

●会員数

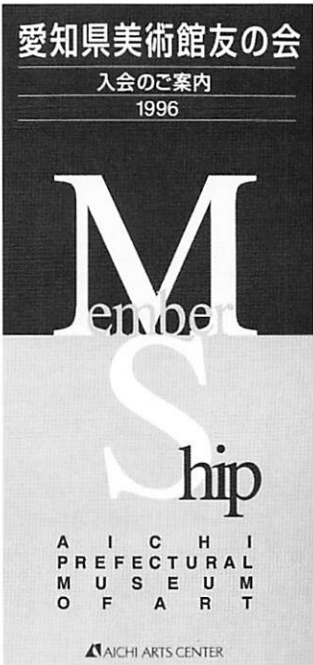
(人)

年度	総数	一般会員		特別会員		総数の男女別内訳		
			内学生	個人	団体	男性	女性	団体
1994年度	250	224	区別なし	24	2	113	135	2
1995年度	350	322	48	27	1	163	186	1
1996年度	381	353	73	27	1	173	207	1

●1996年度事業概要

〈企画展鑑賞会等〉

- ・ 1996年 4月25日 友の会総会
「大英博物館所蔵 イタリア素描展」鑑賞会
(講師：栗田秀法学芸員)
- ・ 8月1日 「抽象表現主義展ーアメリカ現代絵画の黄金期ー」鑑賞会
(講師：古田浩俊学芸員)
- ・ 10月9日 「富岡鉄斎展ー理想郷を語るー」鑑賞会
(講師：木本文平主任学芸員)
- ・ 12月5日 「北川民次展ー愛と人間をえがくー」鑑賞会
(講師：村田真宏主任学芸員)
- 懇親会
- ・ 1997年 1月11日 美術講座「高橋由一《不忍池》ー幕末から明治へー」
(講師：浅野徹館長)
- ・ 2月13日 「カンディンスキー&ミュンター 愛と創造の日々 1901-1917」鑑賞会
(講師：寺門臨太郎学芸員)



友の会 入会のご案内

〈広報事業〉

〔会報『空中回廊』の発行〕

・第3号（1996年9月） A4判 8頁 2色刷（墨・茶）

・第4号（1997年3月） A4判 8頁 2色刷（墨・紫）

編集：（会 員）宮崎玲子、天野明、北川昌子、白尾淑子、杉山博之、中島敬子
（事務局）村田真宏、横井希世衣

〔その他〕

ポスター、チラシ等の宣材の配布



空中回廊 第3号



空中回廊 第4号

調査研究

Research

美術館活動の基本として、次のようなテーマによる調査研究を行った。

ア 所蔵作品に関すること

各学芸員の専門分野に応じて、所蔵作品に関する多角的な研究を行った。

イ 展覧会に関する調査・研究発表

各企画展の開催にあたってその主題や内容に即した調査研究を進め、成果を展覧会の構成・展示ならびにカタログに反映させた。また、所蔵作品展内で開催した小企画展（テーマ展示）のための作家調査なども行った。

ウ 作品の保存に関すること

保存担当学芸員が中心となり、所蔵作品ならびに各企画展の作品保存について調査研究を進めた。また、作品修復に関する問題、作品の保存ならびに展示環境の整備についても調査と研究を行った。

エ 教育普及に関すること

近年各方面から関心が寄せられている美術館教育の問題について、教育普及担当学芸員を中心に調査研究を進めた。その主たるテーマは、子供を対象とした鑑賞教育に関すること、および映像・情報機器による鑑賞教育の研究である。

オ その他

過去に担当した企画展の主題や内容に関わる追跡調査研究、アート・ドキュメンテーションに関する研究、また各学芸員の専門分野に関する研究などを行い、各種学会や研究会、学術研究助成機関等において発表した。

1996年度調査研究実績

上記ア～オの範囲のものに限定して記載し、一般の新聞や雑誌・画集・画廊カタログ等への寄稿（評論・解説・批評等）、および大学や市民講座・テレビ・ラジオ等での講義・講演等は除いている。

1. 展覧会カタログ、研究論文等による発表

牧野研一郎

- ・「解説」（小企画展『千崎千恵夫』パンフレット）
- ・「『浦島物語』をめぐって」（『北脇昇展』カタログ）

高橋秀治

- ・「ワイエスのふたつの世界」（テーマ展示パンフレット『アンドリュー・ワイエスの世界』）
- ・「北川民次と児童美術教育」（『北川民次展』カタログ）

木本文平

- ・「画家たちがみた鉄斎」「章解説」「作品解説」（『富岡鉄斎展』カタログ）
- ・「藤井達吉と芝川コレクション」「藤井達吉 略年譜」「藤井達吉展」カタログ
- ・「藤井達吉とそのコレクター」（東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』）

村田真宏

- ・「北川民次の絵画—メキシコ時代を中心に—」「章解説」「作品解説」「年譜」「北川民次メキシコ滞在期の改革派の美術家たち—1920年代から1936年頃まで」（『北川民次展』カタログ）

村上博哉

- ・「作品解説」（『カンディンスキー&ミュンター展』カタログ）

古田浩俊

- ・「アド・ラインハートと抽象表現主義」「作家解説」「Selected Bibliographies」（『抽象表現主義展』カタログ）
- ・「『イアホトカ』の謎—香月泰男の《渚くナホトカ》に記されたロシア文字—」（『愛知県美術館 研究紀要』第3号）

深山孝彰

- ・「章解説」「作品解説」（『富岡鉄斎展』カタログ）
- ・「愛知県における近代美術の諸動向—『愛美社』をめぐって」（『鹿島美術研究 年報第13号別冊』）1996年11月

栗田秀法

- ・「＜素描（ディセーニョ）＞対＜色彩（カラーレ）＞」（『AAC』16号）愛知芸術文化センター、1996年5月
- ・「＜遅れてきた印象派＞と＜隠れた革命家＞……ボナールの相反するふたつのイメージ」（『AAC』19号）愛知芸術文化センター、1997年2月
- ・「ニコラ・プッサンの視覚的源泉に関する基礎的研究—1640年代を中心に—」（『鹿島美術研究 年報第13号別冊』）1996年11月

寺門臨太郎

- ・「オランダ・リアリズムとその周辺」（『20世紀美術の冒険 アムステルダム市立美術館コレクション展』カタログ）

鯨井秀伸

- ・「コレクション・ドキュメンテーションの方法」（『美術史』142）1997年3月

村田真宏／長屋菜津子

- ・「震災被害の調査報告」ほか（『阪神大震災美術館博物館 総合調査Ⅱ』）全国美術館会議、1996年5月

2. 学会等での口頭発表

鯨井秀伸

- ・「コレクション・ドキュメンテーションの方法」第49回美術史学会全国大会、シンポジウム研究発表（1996年5月）
- ・「アート・ドキュメンテーションの方法について」東京芸術大学・美術館情報化研究会、研究会研究発表（1996年6月）
- ・「美術館の情報化について」愛知県博物館等職員研修会、研究発表（1996年9月）

3. 研究会等への参加

浅野 徹

- ・文化庁「21世紀に向けての美術館の在り方に関する調査研究協力者会議」座長として参加。

長谷川三郎／村田真宏／深山孝彰／鯨井秀伸

- ・全国美術館会議「彫刻原型と鋳造の管理に関するワーキンググループ」第1回会合（1996年8月、愛知県美術館）、第2回会合（1996年11月、礪波美術館）に幹事館として参加、資料作成や報告など。

村田真宏

- ・「全国美術館会議総会特別セッション、阪神大震災が残したもの」（1996年6月、東京都現代美術館）に報告者として参加。

鯨井秀伸

- ・「情報化に対応した美術館の在り方」美術館等運営研究協議会（1997年2月、東京国立近代美術館）に指導・助言者として参加。

長屋菜津子

- ・全国美術館会議「保存ワーキンググループ」
- ・東京国立文化財研究所「文化財施設の保全環境研究会」第4回〈空気環境について〉（1996年10月）、第5回〈消火設備について〉（1997年2月）に参加。

ギャラリー（貸館）

Galleries for Rent

「愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領」にもとづき、8階の展示室A～J（全10室）を各種公募展・団体展等の利用に供している。1992年10月の開館以来、利用率は100％である。

1 展示室利用状況

(単位：日数)

月別	区分	利用可能日数	利用日数 b	利用 率 b/a	展示室別利用日数											
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	審査保管室	
															第1	第2
	1996年1月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	7	9
	2月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	0	7
	3月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	7	12
	4月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	18	10
	5月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	9	11
	6月	22	22	100.0	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	0	6
	7月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	2	11
	8月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	8	12
	9月	25	25	100.0	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	11	13
	10月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	19	17
	11月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	8	11
	12月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	0	0
	計	302	302	100.0											89	119

2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展覧会種別利用件数(件)								入場者 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1996年1月	2	3	—	1	2	—	—	8	156,910
2月	1	1	—	2	1	1	—	6	18,420
3月	1	6	—	1	4	2	1	15	42,337
4月	3	8	—	1	4	—	—	16	47,401
5月	6	5	2	0	3	—	—	16	58,914
6月	2	5	1	—	2	—	—	10	23,610
7月	6	6	—	1	6	—	2	21	47,273
8月	5	3	1	—	2	—	—	11	38,170
9月	4	7	—	1	5	1	2	20	47,632
10月	8	4	—	—	3	1	—	16	61,727
11月	2	9	—	1	1	—	—	13	39,523
12月	6	3	—	—	4	1	—	14	28,291
計	46	60	4	8	37	6	5	166	610,208

注記：総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小に関係ない。

件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理している。

1996年度ギャラリー展示室利用団体一覧表

月	1996年 1 月																												2 月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
A	休館		7年下半期分として調整済		1		5						8日		展						9																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
水彩協会展					今日の書展		愛知県立芸術大学卒展																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
					6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2 大潮展																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
					7																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
					愛知県勤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
3 日本書道芸術学院展					労者美術		10 隔日展																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
4 日本七宝作家協会展					展		11 瀬戸空業協専攻科卒展																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
1 J 2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

施設概要（展示・保存環境等）

Facilities and Equipment

1 展示室

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能

固定展示ケースほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積載重 t/m ³
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.0	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
ギャラリー展示室（8階）	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

（単位：m）

2 照明

区分	部屋名	照明器具
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1～4	ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室5	自然光間接照明 ＋ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室6	スポットライト（昇降トラス）
	展示室7～8	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示ケース	蛍光灯（3,000ケルビン） ＋スポットライト（着脱式）
ギャラリー展示室（8階）	展示室A～I	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室G	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（昇降トラス）
	展示室J	光天井（蛍光灯＋ルーバー） ＋スポットライト（着脱式）

すべての紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

3 空気調和

- 美術館（10階）、収蔵庫
- ギャラリー（8階）
- 各収蔵庫、展示室及び各展示ケースで独立空調可能、24時間運転、中性能フィルター及び化学吸着フィルター装備
- 各展示室で独立空調可能、8時間運転、中性能フィルター装備

区 分		展示室1～8		収 納 庫		区 分		展示室A～J	
設定温度	夏期	25℃		22℃		設定温度	夏期	25℃	
	冬期	22℃					冬期	22℃	
温度変化	1日	±1℃				温度変化	1日	±2℃	
設定温度	通年	55% (変更可能)				設定温度	通年	55% (変更可能)	
温度変化	1H	±3℃				温度変化	1日	±6%	

4 収蔵・保管設備

区 分	数	階	備 考
収 蔵 庫	4室	5、6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所（B5）使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

5 防災設備・体制

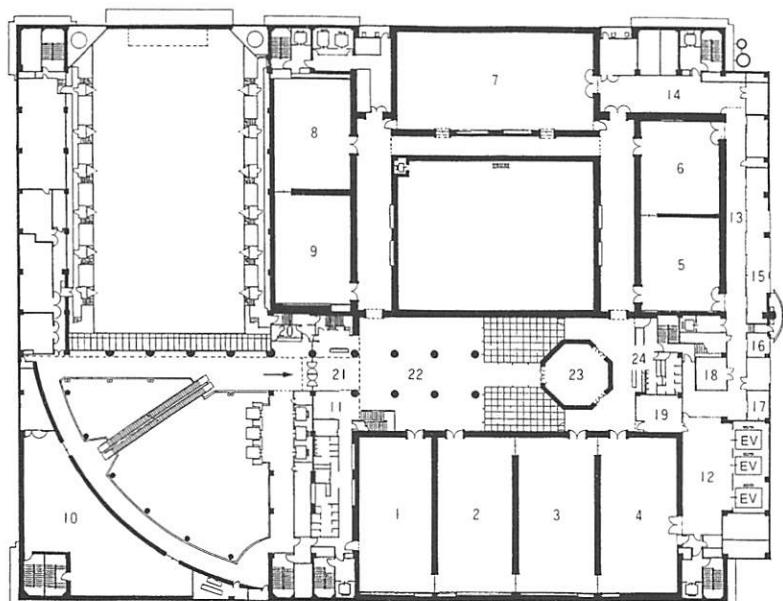
（1）防火：館内防災センターにて集中管理

区 分	種 別
火災報知器	複合GR
煙感知器	光電式スポット型1、2種他
熱感知器	差動式スポット型2種他
消火装置	ハロンガス消火設備 （展示室、収蔵庫、企画保管庫等）
消火器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

（2）防犯：館内防災センターにて集中管理

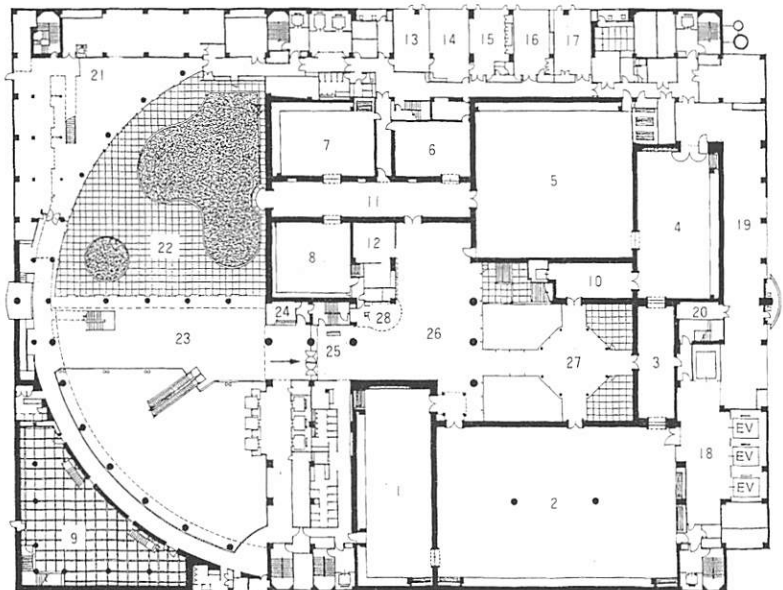
区 分	内 容
警 備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による随時巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニター可能
防犯センサー	赤外線センサー
扉管理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンターによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザー取り付け可能

平面図



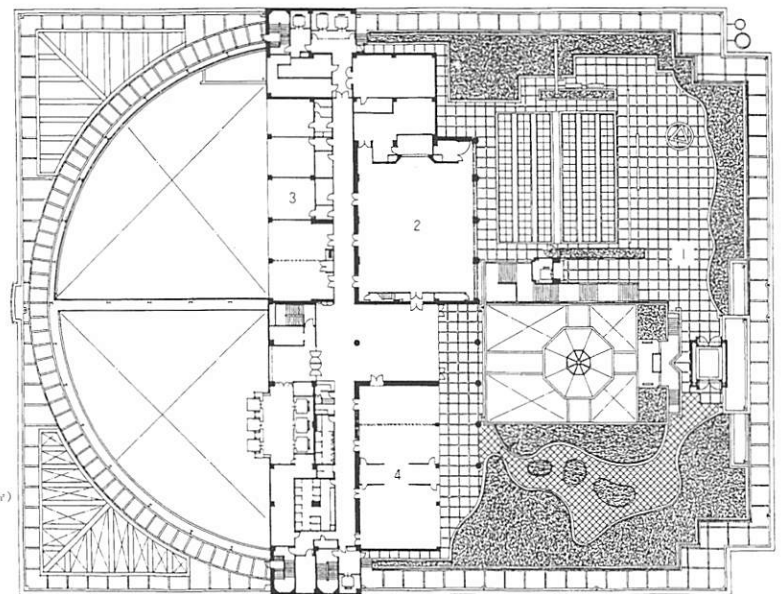
8階

1. 展示室 A (321㎡)
2. 展示室 B (321㎡)
3. 展示室 C (321㎡)
4. 展示室 D (335㎡)
5. 展示室 E (209㎡)
6. 展示室 F (212㎡)
7. 展示室 G (526㎡)
8. 展示室 H (242㎡)
9. 展示室 I (248㎡)
10. 展示室 J (378㎡)
11. 主催者控室1
12. バックヤード3 (176㎡)
13. バックヤード4 (145㎡)
14. バックヤード5 (138㎡)
15. 器財倉庫1、2 (56㎡)
16. 機材倉庫3 (16㎡)
17. 機材倉庫4 (20㎡)
18. 機材倉庫5、6 (67㎡)
19. 機材倉庫7 (57㎡)
20. チケット売場
21. インフォメーション
22. ロビー
23. ラウンジ
24. アートショップ



10階

1. 展示室1 (400㎡)
2. 展示室2 (970㎡)
3. 展示室3 (110㎡)
4. 展示室4 (320㎡)
5. 展示室5 (610㎡)
6. 展示室6 (110㎡)
7. 展示室7 (200㎡)
8. 展示室8 (160㎡)
9. 屋外展示スペース (394㎡)
10. 前室1 (78㎡)
11. 前室2 (194㎡)
12. ビデオテーク
13. 監視員控室
14. 業務課
15. 美術館長室
16. 収集審査室
17. 会議室6
18. バックヤード (146㎡)
19. バックヤード (366㎡)
20. 機材倉庫 (17㎡)
21. レストラン
22. 屋上庭園
23. ホール
24. チケット売場
25. インフォメーション
26. ロビー
27. ラウンジ
28. アートショップ



12階

1. 屋上展示スペース (1,142㎡)
2. *アートスペースA
3. *アートスペースB~F
4. *アートスペースG、H
- 文化情報センター施設

関係法規(条例・規則等)

Laws and Regulations

愛知芸術文化センター条例(抜粋)

(設 置)

第 1 条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 愛知県美術館
- (2) 愛知県芸術劇場
- (3) 愛知県文化情報センター
- (4) 愛知県図書館

(位置及び業務)

第 2 条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第 1 のとおりとする。

(運 営)

第 3 条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

(職 員)

第 4 条 センターに、総長その他の職員を置く。

(利用の許可等)

第 5 条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

- (1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者
- (2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者
- (3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

(使用料)

第 6 条 前条第 1 項の許可を受けた者からは、別表第 2 に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までにおいて知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

- (1) 第 9 条第 2 項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。
- (2) 前条第 1 項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。

4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。

5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額(千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨てる。)に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金に百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第 4 項の規定は、前項の延滞金について準用する。

(観覧料)

第 7 条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第 3 に定める額の観覧料を納付しなければならない。

ただし、次に定める者は、この限りでない。

- (1) 小学校就学前の者
- (2) 常設展示を観覧しようとする中学生及び小学生
- (3) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生
- (4) 学校行事として常設展を観覧しようとする高校生、中学生又は小学生の引率者

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(利用者の義務)

第 8 条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第 5 条第 2 項の規定により許可に付けられた条件及び関係職員の指示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしては

ならない。

(許可の取消し及び利用の中止命令)

第 9 条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第 5 条第 1 項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第 5 条第 1 項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

(規則への委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他センターの管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(過 料)

第11条 詐偽その他不正の行為により、第 6 条の規定による使用料又は第 7 条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の 5 倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、1 万円以下の過料を科する。

- (1) 第 5 条第 2 項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者
- (2) 第 9 条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者
- (3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第 8 条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、5 千円以下の過料を科する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 5 条及び第 7 条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月 20 日から、第 1 条第 2 項第 1 号から第 3 号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成 4 年10月30日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 6 年 7 月 1 日から施行する。

別表第 1 (第 2 条関係)抜粋

施設の名称	位 置	業 務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する資料を収集し、保管し及び展示すること。 (2) 美術に関する調査研究を行うこと。 (3) 展示室を利用させること。

別表第2(第6条関係)抜粋
愛知県美術館 展示室使用料

区分		単位	使用料の額(単位円)
A室、B室又はC室		全日	13,500
		時間外1時間につき	2,000
D室		全日	14,100
		時間外1時間につき	2,100
E室		全日	8,800
		時間外1時間につき	1,300
F室		全日	8,900
		時間外1時間につき	1,300
G室	全部利用	全日	22,100
		時間外1時間につき	3,300
	2分の1利用	全日	11,000
		時間外1時間につき	1,700
H室		全日	10,200
		時間外1時間につき	1,500
I室		全日	10,400
		時間外1時間につき	1,600
J室	全部利用	全日	9,500
		時間外1時間につき	1,400
	2分の1利用	全日	4,700
		時間外1時間につき	700
附属第1審査保管室	全部利用	全日	5,200
		時間外1時間につき	800
附属第2審査保管室	全部利用	全日	2,600
		時間外1時間につき	400
	2分の1利用	全日	4,400
		時間外1時間につき	700
附属第2審査保管室	2分の1利用	全日	2,200
		時間外1時間につき	300

備考

- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
- イ～ハ省略
 - ニ 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)までをいう。
 - ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時(金曜日にあっては、午後8時)以後をいう。
- (2) 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。

表第3(第7条関係)

区 分			単 位	観覧料の額(単位)
常設 展示	個 人	大学生又は高校生	1人1回につき	300
		そ の 他 の 者	1人1回につき	500
	団 体 (20人以上)	大学生又は高校生	1人1回につき	240
		そ の 他 の 者	1人1回につき	400
企 画 展 示			1人1回につき	2,000円以内でその 都度知事が定める額

愛知芸術文化センター管理規則(抜粋)

目次

- 第1章 総則(第1条)
- 第2章 センターの管理
 - 第1節 通則(第2条～第4条)
 - 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
 - 第1款 利用期間(第5条)
 - 第2款 利用の許可等(第6条～第10条)
 - 第3款 美術品等の観覧及び模写等(第11条～第13条)

第4款 文化情報センターの図書等の利用(第14条～第23条)

第3節 図書館の管理

- 第1款 図書等の館内利用(第24条～第26条)
 - 第2款 図書等の館外貸出し(第27条～第30条)
 - 第3款 図書等の郵送による貸出し(第31条～第33条)
 - 第4款 利用の停止(第34条)
- 第3章 雑則(第35条・第36条)

附則

第1章 総則
(趣 旨)

第1条 この規則は、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)の管理に関する事項を定めるものとする。

第2章 センターの管理
第1節 通則

(休館日)

第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。

愛知県美術館 (以下「美術館」という。)	月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に該当する場合はその翌日以降の最初の休日でない日) 12月28日から翌年1月3日まで
-------------------------	---

2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日を設けることができる。

(利用時間)

第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。

美術館	午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)まで
-----	------------------------------

2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間(次項において「入館時間」という。)は、午前10時から午後5時30分(金曜日にあっては、午後7時30分)までとする。

3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。

(入館の禁止等)

第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。

第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
第1款 利用期間

(利用期間)

第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター(以下「美術館等」という。)の利用期間は、次のとおりとする。

美術館	
展示室	35日以内
展示室附属審査保管室	20日以内

2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。

第2款 利用の許可等
(利用の許可)

第6条 愛知芸術文化センター条例(平成3年愛知県条例第2号。以下「条例」という。)第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(様式第1)を美術館等の長に提出しなければならない。

2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書(様式第2)を交付するものとする。

3 前2項の規定により利用の許可を受けた者(以下「利用者」という。)の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転貸することができない。

(利用の変更の許可)

第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとするときは、利用変更許可申請書(様式第3)に利用許可書を添えて美術館等の

長に提出しその許可を受けなければならない。

(利用の取消しの承認)

第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書(様式第4)に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。

(利用後の届出)

第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。

(指示及び調査)

第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。

第3款 美術品等の観覧及び模写等

(観覧券の交付)

第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者(条例第7条第1項ただし書きに規定する者及び同条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。)は、観覧料の納付と引換えに観覧券(様式第5)の交付を受けるものとする。

2 団体が観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書(様式第6)を美術館長に提出しなければならない。

(学校行事の観覧)

第12条 高等学校、中学校又は小学校の学校行事として常設展示を観覧しようとする者は、あらかじめ学校行事観覧届(様式第7)を美術館長に提出しなければならない。

(模写等の許可)

第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美術品等模写等許可申請書(様式第9)を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 美術館長は、模写等を許可するときは、美術品等模写等許可書(様式第10)を交付するものとする。

第3章 雑則

(損害賠償)

第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(雑 則)

第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

(1) 美術館の展示室の利用

(2) 美術品等の模写及び複写

(3) 芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用

(4) 文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用

(5) 文化情報センター及び図書館の図書等の利用

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。

(愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)

2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(平成3年愛知県規則第41号)は、廃止する。

(経過措置)

3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(以下「旧規則」という。)第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。

4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。

(愛知県公印規則の一部改正)

5 愛知県公印規則(昭和30年愛知県規則第1号)の一部を次のように改正する。

第2条に次の1号を加える。

(12) 愛知芸術文化センターの各施設(愛知県図書館を除く。)の長の印

附 則

1 この規則は、平成6年7月1日から施行する。

2 この規則の施行の際、現に改正前の愛知芸術文化センター管理規則の規定に基づいて作成されている申請書等の用紙は、改正後の愛知芸術文化センター管理規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

愛知県美術館運営会議設置要領

(目的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 運営会議は、次の事項について協議する。

(1) 美術館の運営に関すること。

(2) 企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。

(3) その他必要と認められる事項

(構成員)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 美術館関係者

(3) 県関係者

(4) その他愛知県美術館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理する。

(召集)

第6条 運営会議は、会長が召集する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

(設 置)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料(以下「美術品」という。)の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会(以下「収集委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。

(1) 購入する美術品の選定及び評価に関すること。

(2) 寄贈又は寄託に係る美術品の受入れに関すること。

(3) 美術品の処分に関すること。

(組 織)

第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。

2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長(以下「総長」という。)が依頼する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は再任されることができる。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場

合はこの限りではない。

(委員長)

第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。

2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 収集委員会は、委員長が招集する。

2 収集委員会は、委員の半数が出席しなければ開くことができない。

3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(評価員)

第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員(以下「評価員」という。)の評価を要請することができる。

2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者のうちから、3人以内を総長が依頼する。

- (1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。
- (2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができること。
- (3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。

(庶務)

第7条 収集委員会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、昭和63年6月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年10月30日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領

(目的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等(以下「美術品等」という。)の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長(以下「館長」という。)は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めるときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

- (1) 国、公共団体又は公益的団体
- (2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の住所、団体名及び代表者名
- (2) 借用目的
- (3) 借用期間
- (4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ
- (5) 陳列のための施設及び設備の概要
- (6) 借用期間中の管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

(1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。

(2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとする。

(3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。

(4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。

(5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。

(6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館(以下「美術館」という。)が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則(昭和39年規則第10号)等に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託(以下「寄託」という。)しようとする者(以下「寄託者」という。)は、美術品等寄託申請申込書(様式第1)を愛知県美術館長(以下「館長」という。)に提出し、その承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等(以下「寄託品」という。)が次のいずれかに該当するときは、受託承認書(様式第2)を交付するものとする。

- (1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。
- (2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。
- (3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証(様式第3)を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他これを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

- (1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。

(2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。

(預り証の再交付)

第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願(様式第4)を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。

(寄託品の一時返還)

第10条 寄託者は、寄託品の一時返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願(様式第5)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書(様式第6)を交付するものとする。

3 寄託品の一時返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託期間内の返還申し出)

第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申出書(様式第7)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品期間内返還申出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書(様式第8)を交付するものとする。

3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託品の借用)

第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者(以下「所有者」という。)に寄託品依頼書(様式第9)を提出し、その所有者から承諾書(様式第10)を受けるものとする。

(借用書の発行)

第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書(様式第11)を発行するものとする。

(準 用)

第14条 第4条(寄託期間)、第5条第2項(返還)、同条第3項(代理人による返還)及び第6条から第11条(寄託品の取扱い等)までの規定は、美術館がすすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。

(公表及び写真撮影等)

第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。

(1) 寄託品の所有者名の公表

(2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等

(補 則)

第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

(様式の記載は省略)

愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領

(目 的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。

(1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。

(2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。

(3) その他必要と認められる事項

(構成員)

第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 美術作家

(3) 美術館(ギャラリー)関係者

(4) 県関係者

(5) その他館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

(召 集)

第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。

(事 務)

第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、愛知芸術文化センター管理規則(以下「規則」という。)の規定に基づき、愛知県美術館ギャラリーの展示室(以下「展示室」という。)及び附属審査保管室(以下「審査保管室」という。)の利用許可等に関し必要な事項を定める。

(利用仮申込書の受付)

第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じて、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間(休館日を除く。)に展示室利用仮申込書(以下「仮申込書」という。)を提出するものとする。

利 用 期 間	仮 受 付 期 間
1月4日から6月30日までの間のもの	展示室利用開始予定期日含まれる年の前年の6月1日から同月20日までの間
7月1日から12月27日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から同月20日までの間

2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。

(利用許可スケジュール案の作成)

第3条 美術館長(以下「館長」という。)は、前条の仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、展示室利用許可スケジュール案(以下「スケジュール案」という。)を作成する。

2 館長は、スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。

3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。

(利用許可の内定)

第4条 館長は、前条第3項により確定したスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書(以下「内定書」という。)を送付する。

(利用許可申請書の受付)

第5条 前条により内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日(以下「利用許可申請書提出期日」という。)までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書(以下「許可申請書」という。)を提出するものとする。

(利用許可書の交付等)

第6条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第6条第2項の規定に基づく利用許可書を送付する。

(利用の許可を受け得る者の範囲等)

第7条 利用許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次

の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。

- (1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
- (2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
- (3) その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展

(利用許可をしない場合)

第8条 次の各号に掲げる場合には、利用許可をしない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者(禁治産者等)である場合
- (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取得する者でない場合
- (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合

(利用許可の優先順位)

第9条 利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として次のとおりとする。

- 第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用
- 第2順位 全県的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
- 第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

(利用区分)

第10条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組み合わせの利用を許可する。また、展示室G及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

(利用許可の単位等)

第11条 展示室の利用許可は、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間(以下「単位期間」という。)を最少の期間とし、引き続き4単位期間を限度として、この期間に含まれる日について行う。

2 館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。

(休館日に係る利用許可)

第12条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要がある場合は、この限りではない。

(審査保管室の利用の許可を受け得る者の範囲)

第13条 審査保管室の利用の許可を受け得る者は、展示室の利用の許可を受けた者に限るものとする。

(審査保管室の申込み)

第14条 審査保管室の利用を希望する者は、利用開始日の15日前までに、美術館と協議の上、利用許可申請書を提出するものとする。

(審査保管室の利用許可の単位)

第15条 審査保管室の利用許可は、展覧会の会期中及び前後10日間の期間に限るものとし、20日を限度とする。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

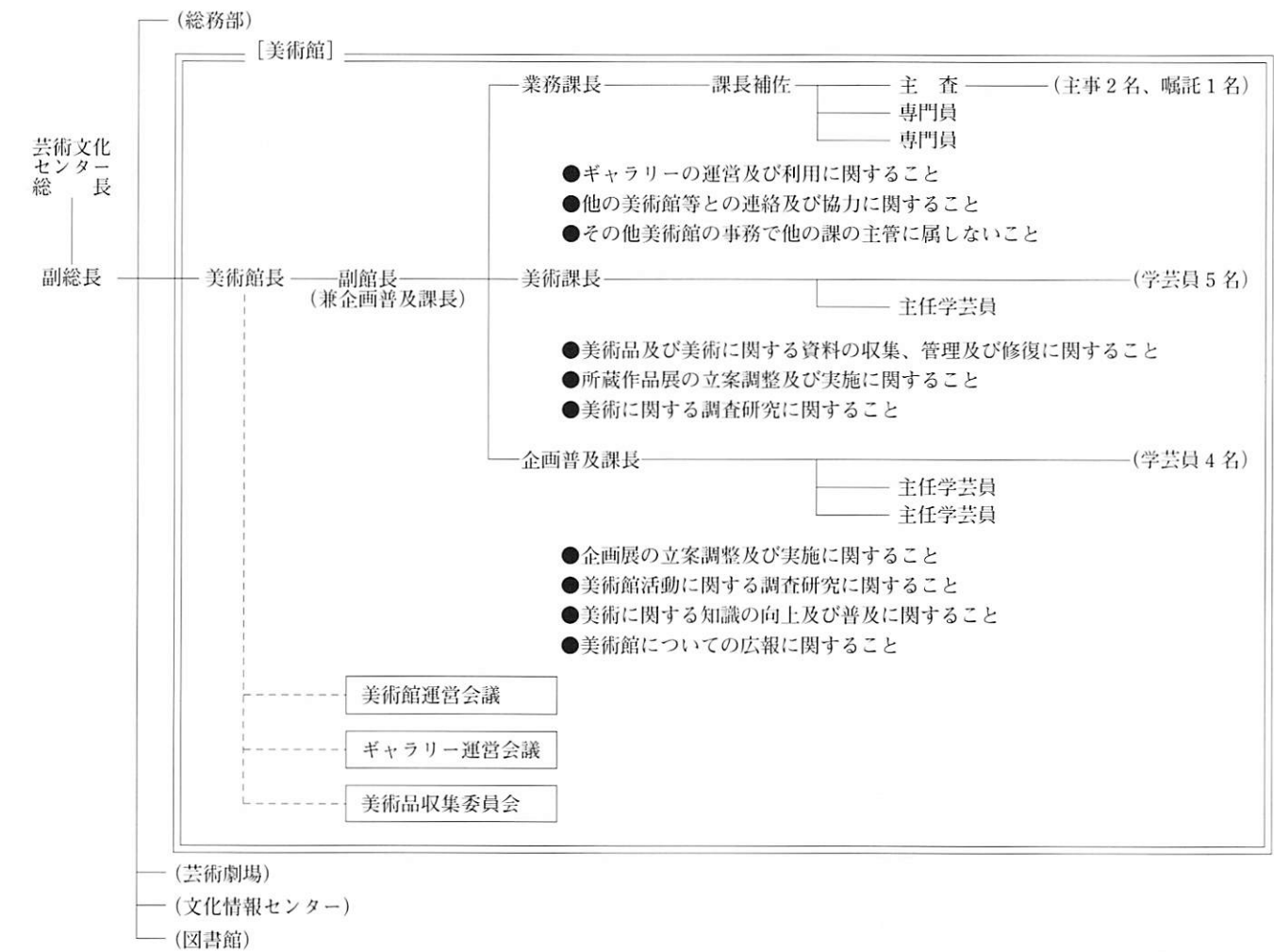
附 則

この要領は、平成7年10月1日から施行する。

組織および職員構成

Organization and Personel

1. 組織図



2. 愛知県美術館職員名簿 (1997年3月)

館 長	浅野 徹
副館長	長谷川三郎
業務課長	柴原 知幸
課長補佐	清水 和彦
主 査	成田 佳隆
専門員	伊藤 正孝
”	竜橋 謙
主 事	高木 伸彦
”	小林ひとみ
嘱 託	木全 康子
美術課長	牧野研一郎
主任学芸員	木本 文平
学芸員	村上 博哉
”	深山 孝彰
”	寺門臨太郎
”	長屋菜津子
”	鯨井 秀伸
企画普及課長	(副館長兼務)
主任学芸員	高橋 秀治
”	村田 真宏
学芸員	古田 浩俊
”	栗田 秀法
”	拝戸 雅彦
”	藤島 美菜

関係委員会名簿(1997年3月、50音順)

Members of Commitees and the Personnel

愛知県美術館運営会議委員名簿

遠藤 恒雄	愛知県立芸術大学美術学部長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
亀田 慧	愛知県文化振興事業団事務局長
剣持 一郎	名古屋市美術館長
酒井 哲朗	三重県立美術館長
千足 伸行	成城大学教授
建畠 嘉門	愛知県立芸術大学名誉教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
阪野 実	愛知県文化振興局長
光森 進助	名古屋市博物館長
村田慶之輔	美術評論家
森田 恒之	国立民族学博物館教授

ギャラリー運営会議委員名簿

石黒 鏑二	彫刻家・行動美術協会会員
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
加藤 清之	陶芸家
亀田 慧	愛知県文化振興事業団事務局長
島田 章三	洋画家・国画会会員
高木 桑風	書家・日展会員
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
阪野 実	愛知県文化振興局長
松井 和弘	日本画家・創画会会員
光森 進助	名古屋市博物館長
山脇 一夫	名古屋市美術館学芸課長

美術品収集委員会委員名簿

内山 武夫	東京国立近代美術館次長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
千足 伸行	成城大学教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

開館時間・交通等案内

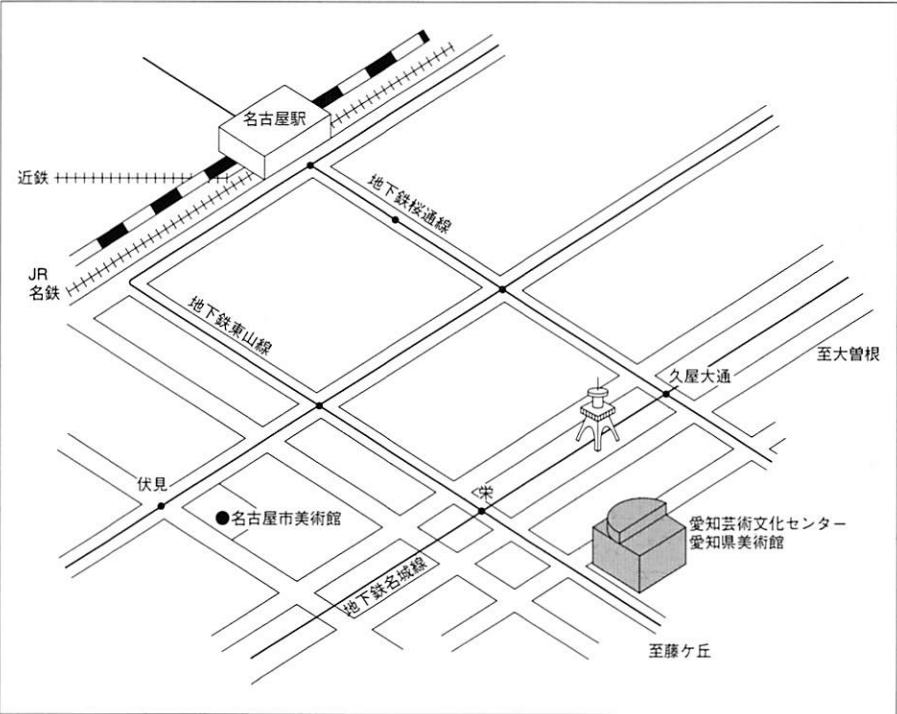
Museum Information

- 開館時間 午前10時～午後6時（入館は5時30分まで）
金曜日は午後8時まで夜間開館（入館は7時30分まで）
- 休 館 日 月曜日（国民の休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月3日）、整理期間
- 観 覧 料 （1人1回につき）

区 分	所蔵作品展示		企画展示
	個人	団体	
小・中学生	無	料	2,000円以内で知事が定める額
高・大学生	300円	240円	
一 般	500円	400円	

- 交通案内 ・地下鉄
東山線・名城線「栄」下車、東へ徒歩3分
桜通線・名城線「久屋大通」下車、南へ徒歩10分
名鉄瀬戸線「栄町」下車、東へ徒歩3分
・駐車場（有料）
約600台（地下）
- 所 在 地 ・〒461 名古屋市東区東桜一丁目13番2号
TEL 052(971)5511(代)
FAX 052(971)5604

地図



愛知県美術館年報	1996年度版 1997年12月発行
編修	愛知県美術館 深山孝彰
発行	愛知県美術館 名古屋市東区東桜 1-13-2 TEL: 052-971-5511 FAX: 052-971-5604
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭二
印刷	凸版印刷株式会社

1996 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art

Edited by

Aichi Prefectural Museum of Art

Takaaki MIYAMA

Published by

Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higashiku, Nagoya, 461, Japan

Designed and layouted by

Kyoji KOTANI

Printed by

Toppan Print Co.

© 1997

Printed in Japan